

野津原方言集

28



表紙画……………後藤ヨカ
題字……………姫野順子
カット……………カット集団

★ ご協力頂いた皆様 ★

松岡実、県五六、橋本杉平、橋本貫一、内藤忠人、武田忠、
安部景明、甲斐尋士、志水角馬、三ヶ尻宗雄、大塚覚、角宗格、
橋本アヤ子、橋本武敏、橋本一、飯倉定、三ヶ尻精一、佐藤定、
一万田充重、佐藤昌史、三浦敏男、加茂タネ、豊東サツキ、
宮崎鶴戸神宮、英彦山社務所、県神社庁、文化財調査委員会、
大分合同新聞、野津原町社会教育委員会、中央公民館。

支援協力者 岡本政雄、足立勇、波多野テル子、歴史記録会。

佐藤敏子様、寺司愛子様、川西哲男様。小野雄司様 後藤文男様

★ 使わせて頂いた資料 ★

宇曾山物語、野津原村村報、野津原文化財調査こぼればなしなど、
野津原歴史記録会資料、松岡実保存資料、野津原町史、読み聞かせ
読み語り資料、のつはる物語、ふるさとの歴史とくらし、五助会。

調査収拾…小野寿祐、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。

調査協力…橋本寛治、豊東サツキ。監修…小野寿祐、赤星ヨシミ。

カット…那須政子。印字プリンター…佐藤源治。

印刷製本…小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ、支援集団。

平成31年4月寿春 吉日

野津原方言調査会 大分市竹矢

☎ 097-588-0572

事務局 野津原本町

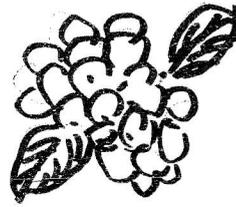
☎ 097-588-0092



もくじ

見だし……………	1	方言説明……………	4 5
もくじ……………表紙画作者紹介…	2	子ども向けの方言……………	4 6
はじめに……………	4	★ 女性の底力	
		宇曾山物語り挑戦……………	4 7
★ 方言単語…………『ね』の項…	5	底力の本質……………	4 9
★ 民話、伝承		小豆と培土機……………	5 1
お遍路旅……………	1 7	方言説明……………	5 3
お接待行事……………	1 9	踊り伝えた影の人……………	5 4
道普請……………	2 1	★ 宇曾山街道《8》	
村八分……………	2 3	遠地からの心理……………	5 5
見舞い心通う……………	2 4	母の優しい子守歌……………	5 8
★ ちよつといっぶく		夢多き故郷の山……………	5 9
嫁の宿命……………	2 5	方言説明……………	6 1
お接待はなしあるの……………	2 7	神楽は心の響き……………	6 2
方言説明……………	2 9	そして奥ご殿造営……………	6 3
言葉には気をつけて……………	2 9	こぼればなし……………	6 5
★ ふるさとの味		あの道この道……………	6 8
ニラ味噌……………	3 1	むすびに……………	6 9
フキ味噌……………	3 2	本城山の宇曾山……………	7 1
野津原漬け……………	3 3	からす案内宇曾山……………	7 2
チモトあえ……………	3 4	あげなこげな……………	
春のお接待……………	3 5	一目千両の山桜……………	7 3
夏のお接待……………	3 6	★ 宝の玉手箱	
方言説明……………	3 7	通勤に歩く音残す……………	7 5
食の大切さあれこれ……………	3 8	議長の才覚……………	7 6
★ 方言子どもん世界		蛇紋岩、砂礫岩……………	7 7
守られた先生との約束……………	3 9	今もしっかり石橋姿……………	7 8
狼煙代役割……………	4 1	方言説明……………	7 9
早起き三文の得……………	4 3	戦時学級の苦闘時代……………	8 0

医療に精魂こめて……………	8 1	★ 方言単語	
農事放送通信員……………	8 3	『ね』の項の『ツ』…	9 1
★ 民話、伝承		★ おわりに……………	9 9
雨乞い……………	8 5	伝言板……………	1 0 0
サナボリ泥つけ……………	8 6		
あげん日こげん時……………	8 7		
大分市の歩み……………	8 8		
広島原爆被害……………	8 9		



△△△ 表紙画作者の横顔 △△△

後藤ヨカ様 繊細な心くばりのよい 作者はあらゆる手芸に堪能 とちゅうから取り組んだ ちぎり絵、はり絵、など 次第に格調高いものに 進んで 干支もその特技の一つに。簡単なようで 非常に苦勞すると いわれるが その通りと 脱帽するような 力作を ご支援頂いて 今回は表紙画に使わせて 頂きました。

カット集団は ご愛読者の中に サッと書き込みの出来 素質が誠に鮮やか。随所にはいりましたが 勿論そのと得意面もあるとか。でも方言集の場合は 冊子の性質上 難問ですとの お返事に物書きの 難しさも 勉強になりました。

これからも 折にふれて ご支援ご協力を 頂けると力強いお話も 受けて調査会も 幸せいっぱいです。感謝申し上げご愛読の皆様と 楽しみにしています。

編集子

はじめに

いつも素人集団の発行する野津原方言集を ご愛読頂きまして厚く お礼を申し上げます。早いもので取り組んで 約28年の歴史が流れました。通算で38冊になる 続編No.28号です。

シリーズが大変好評で 肥後街道、続いて表街道442号線に五助さんと 旅んしが面白 賑やかな道中で 知らなかった珍しい史跡や 話題、民話、風情や人情が ちりばめた 読み物に 野津原に出向いてと 声がよく聞かれます。方言が身近になったと ありがたい事です。

現在進行していた 宇曾山街道物語も 今回でラストシーン。原稿が資料がいっぱいで 5回を拡大引きのぼして 8回になってやっと 終了になりました。ここまで辿りついたのも 長年のご支援ご愛読の 皆様のおかげと 感謝申しています。次回からは『工藤三助さん』の功績話に入ります。

『女性の底力』『宝の玉手箱』も 人気番組になりました。方言子どもの世界は 読み語りに使う 資料からですので 小学校の生徒が 楽しみにしてくれます。郷土の話が多いので 勉強の役にもなりそうです。多くの皆様に 愛されるよう これからも真剣に 取り組んで行く決意です。

善行章に恥じないよう 決意新たに どこまで続くかは 未知数ですが ご支援ご愛読の程 お願い申し上げます。

方言単語も最終的には 約50000語前後に なるようすが あと10年はかかる そんな予感も致します。お元気な日々お祈り申して 発行のご案内まで。

平成31年寿春 野津原方言調査会

方

言

の

ア

3

カ

川

★★ 方言単語 前回までに掲載した 野津原方言は 先人たちが生活用語として 長年愛用していた 心のこもった言葉であり 心が通うなによりの 道具でもあったのです。『あ』の『ア』から 『ぬ』まで進んで 27754語が入りました。今回からは『ぬ』の『ア』から 出発します。

方言集の性質上 必ずしも方言でないものや 現在は人権問題など 使われない言葉や 卑下する言葉なども はいっています。ご了承ください。あまでも記録として残す それが目的で調査收拾したものです。永久に消えてしまう 失われるなど 調査してしみじみと思います。

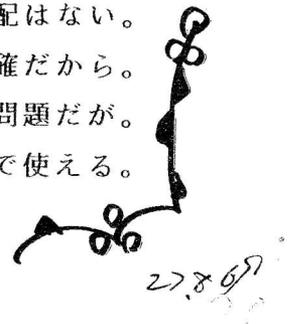
ね ネアカンカ……寝疲れしないの、寝過ぎてかえって疲れる。
ネアク……寝るのに飽いてしまう、寝ていてかえって疲れる。
ネアイタ……寝ていて飽いた、寝過ぎてかえって疲れた。
ネイリバノ……寝て間もない頃、寝てすぐな時間、寝たら。
ネイル……眠ってしまった。眠るとやがて昏睡に。
ネイッタカ……眠ってしまったようで、真剣眠ったようで。
ネイレージャ……眠ってしまうとも、真剣に眠ったよう。
ネエノ……ないのですか、ないようだから、つからない。
ネエチャン……おねえさん、義理な姉さん、年上の女の人。
ネエキ……ないから、ないのです、みつからないから。

ネエグレワ……ないぐらひは、ないのなら、なければ方法を。
ネエタ……ないとは、泣いた、ないのはおかしいが。
ネエデン……なくても、ないのなら、ないのなら考える。
ネエチャラン……泣いてあげない、泣いて加勢は無理だから。
ネエナラ……ないならば、ないのなら、なければ工面する。
ネエヤンガン……姉さんので、おねえさんのです、義理な姉の。
ネエコター……ないはずはないが、ないのはおかしいが。
ネエチャイワセン……ないとはいわせない、ないとは逃げ口上。

ね ネオキャ…寝て起きたその時、起きたばかりに、起きてすぐ。
ネオモン…値段が高いので、根元は重たいので、落ち着いた。
ネオヒケ…値引きしてほしい。安くして、おまけして。
ネオキ…起きたばかりに、起きてすぐの時に、起きたばかり。
ネオソダスナ…音を大切に、値は気をつけて、根元注意。
ネオル…種が芽をだした、元を値引きさせる、元を安く。
ネオシャント…根元しっかりと、値段は固くして、根元肝心。
ネオツリアギ…値をあげて取引、根元をいためないように。
ネオユウツキ…値段をきちんと、根取りがだいじ。
ネオアゲチョル…値上がりさせている、失敗して、根気に負。

ネカスリヤ…寝かせておけば、寝せつければ後は。
ネガイイ…おおもと正直だから、根は大丈夫、値段が高い。
ネガキ…寝るときなって、寝たのはよいが、寝てすぐの。
ネカシチョケ…寝かせつける、寝せつけて針仕事。
ネカシチャル…ねかせてあげよう、寝かせるなら。
ネカスルカ…寝かせますか、寝かせておけば安心。
ネカブ…根元の株が美味、根元に栄養が多い、根株の。
ネガキノム…寝る前にいっぱい、安眠に効果が、疲れが取れ。
ネガマカランジ…値段は安くならぬ、値引きは無理なよう。
ネガヤサシイド…大元優しい性格、人間本来の姿勢。

ネガイイモンジャキ…優しい気質だから、性格はいいから。
ネガトーシチョケト…堅物じゃから間違いは嫌い、正確主義。
ネガテーキ…堅物だから正確に、ごまかしは効かないから。
ネガタミュー…根元はしっかりと、基礎が大切だから。
ネガワリヤッチャ…おおもと悪質な性格、油断はならぬ。
ネガナジ…値段通りの、掛け値なしの品物、心配はない。
ネガト…きちんとすれば、間違いなしの商売、正確だから。
ネガリニャ…値段のわりにはよい品物、中身が問題だが。
ネカセンデン…寝かせなくても、そのままで使える。



ね ネーワナ……ないようですから、ないので、解りません。
ネージコス……なくてこそ、ないようでよかった、無くて幸せ。
ネーチ……ないからと、泣いてしまう、無いといったのに。
ネーデ……ないですよ、無いので、どうせ無いのだから。
ネーチャイワレン……無いともいわれなくて、無理に無いとは。
ネードヨイ……ないですよ、ないと言われませんが事実ない。
ネーカエ……ないでしょうか、無いだろうな、やはりないの。
ネーカンシレン……無いかも知れない、無かったので、駄目で。
ネーナラケーチ……なくしてしまって、失ったので、行方不明。
ネーカラ……無いのなら、なかったのですか、無いとは悲しい。

ネキャ……側なら、そばにいたい、そばには素晴らしい。
ネキ……側、すぐに、その周りに、周辺に、近くになら、隣。
ネキカ……側かも、周辺だろう、近くと思える、隣かも。
ネキンシ……側の人たち、周辺の人、近所の人たち、近くの。
ネキカル……側から、近所から、周辺から、脇から、周りから。
ネキサネ……側に回って、隣近所に、周辺まで、辺り一面。
ネキジ……側で、近所で、周辺で、周りで、当たり一面で。
ネキンシモ……側の人たちも、近所の人たちも、周りの人も。
ネキンコタ……側の事は、近所の事などは、周辺の行事など。
ネキン……側の、周辺の行事、近所の行事、周りの行事どが。

ネキヅリヒッバル……側まで引っ張って、側に引き寄せて。
ネキャワリ……側は悪いと思うが、近所じやうるさいのでは。
ネキュ……側を、側の利用は気を使うのでは、側利用で至便。
ネキマジャ……側までは、周辺までは、近所までは。
ネキマワシ……側まで回して、近所まで御輿を回して。
ネキンシニ……側の人たちに、近所の人たちに、周辺の人たち。
ネキコス……そばこそ大事に、近所こそ大切に、近所の絆を。
ネキドマ……側なんかは、近所ならこそ、周辺の交流が。
ネキンヤタ……近所の人たちは、周辺の人間性格、近隣が大事。

ね ネクージ…寝こんでしまう、病気のようだから、病人になる。
ネクウダゴタル…寝こんで起きれない、寝ついてしまって。
ネクジンカオ…眠たいが眠れぬに泣く、寝つかれぬ具合。
ネグリーヤタ…魂胆が悪い、根性が悪くて、人気がないので。
ネクヨケチ…側をよけて通るがよい、関わらないがよいかも。
ネグロウ…寝ている場所を捜し出し、巣穴を見つけて。
ネクカブッチ…二重人格な性格、裏表のある人間、表面飾り。
ネグラミツケタ…寝場所が解った、隠れ場所を突き止めて。
ネゴツ…寝言がひどい、眠っていてしゃべる。
ネコセル…輪車を押して、荷運びに使う輪車。

ネコンタ…熱いものが食べにくい体質、熱すぎると食欲が。
ネゴタネチ…夢のように語るなら寝てから、本末転倒。
ネコンメンタモ…猫の目のように常に変わる、安定性がない。
ネゴージ…願い事を、ねがうにはまじめな気持ちで。
ネゴーチョル…願っているが、期待は難しい、まず努力を。
ネコンダンカ…寝ついてしまったよう、酷くならなければ。
ネコンアシ…猫足に似ているお膳、式祭などに使う膳。
ネゴザン…夏に仮眠するい草の敷物、昼寝につかう敷物。
ネコカブリ…二重人格で用心を、人の欠点捜しが上手。
ネゴツ…眠っていて話したりする、寝て無意識に話す。

ネゴテンネエ…願っていない幸せ、転がり込んだ好みの事。
ネゴロゲチ…寝転んで戯れる、寝転んで遊ぶ子ども。
ネゴータチャ…願っていてもなかなか、願いが叶わないよう。
ネゴタリカノタリ…願った事が成就して、願い満点叶う。
ネコミヤ…寝こんでしまっは、寝こまめ健康管理。
ネザマ…寝た姿勢が笑われそう、ぶざまな寝姿、上品な寝姿。
ネザミヤ…起きた時の気分が優れぬ、起きたてが鬱陶しい。
ネザキユ…寝る前一杯の楽しみ、寝る前に楽しみ妙薬。
ネザツチ…曲がりあってからむ、からみあった格好で。



ね ネザルトコマル……練り曲がっては困る、曲がりくねると大変。
ネザキトッチョケ……寝る前の一杯に保存、寝る前のた楽しみに。
ネジュウ……ねじを、ねじの役割を生かして、ねじてもよいか。
ネジマワシ……ねじをする時に回す道具、器具があると重宝。
ネジーキノウ……根性が粘り強い性格、時には迷惑かける人間。
ネジハチマキ……頭に手拭いで鉢巻きに結ぶ、見た目にも気合が。
ネジキアギー……痛みつけて制裁する、言い聞かせでは聞かぬ。
ネジュウカクル……ゼンマイを巻いて、発条の性質を利用効果に。
ネジレコンジョル……複雑にからんで困惑、んらひ合ってる状態。
ネジマケ……発条を巻いて効果を揚げる、時計のねじなど。

ネジメモデージ……はじめが肝心、基礎がしっかりしてないと。
ネジガユルージ……発条が巻戻って、巻くことで効果があがる。
ネジマキュウシヨ……ねじをしっかり巻いて正常に、有効利用法。
ネジ……発条の理論を利用した機器の利用、時計などがその方法。
ネジツョル……曲がってねじれた、混乱したねじりかた。
ネズンノカ……ねじて痛める、折りまげて得意性を生かす。
ネスル……寝せつける、横に動かす、寝かせて生かす、体位の法。
ネズリヤ……ねじってしまう、ねじて使う、ねじ曲げて使う。
ネスンナムリ……寝せつけるのは無理、横するのは大変な労力。
ネズリヤネムル……寝せるなら眠るだろう、寝せたらすぐ寝る。

ネズンバンノヨトギ……夜明かしの死人との友に、最後の別れ行。
ネゼニ……銭は寝かしては無意味、銭は有効に使って効果が。
ネデタナモドル……ねじても反発で戻る、元に戻る性質利用。
ネゼマゲツョル……ねじて曲げたが、反発力は大きいと思う。
ネゼツョケ……ねじておけば、ねじったならおとなしいだろう。
ネセタンカ……寝せつけたの、寝せたのなら暫くはおとなしい。
ネゼテンショワネエ……ねじっても大丈夫、暫くは役立つ格好。
ネセタメ……貯蔵して保管する、有事に備えた英知、まさかの為。
ネゼチャレ……ねじてあげたら、それが役立つのなら。

ね ネゼラレメー……ねじるわけにはゆくまい、ねじにくいので。
ネゼチ…ねじてみたが、ねじたら動きだした、無理にねじて。
ネゼマワシチ…ねでたりもどしたりしたが、どうかの瞬間に。
ネゼマゲチ……ねじて曲げたら役立つ、使い様ではまだ有効。
ネゾーガワリー……寝てから動き回る、寝ても元気者のよう。
ネゾユウシヨ……寝たら静かにおとなしく、ゆっくり寝たら。
ネソボクレ………寝つかれぬままに、徒に時間が過ぎても、
ネソウニ……寝るような気配なのに、寝るようであったのに。
ネソゴウガ………寝姿が並みでない、品の悪い寝姿なんとか。
ネタゴタリヤ……寝たようだから、寝たなら大丈夫、ほっと。

ネタキ…ねたので、寝たなら安心病気も心配なし、寝た子は。
ネタンナ………寝たのですか、寝たなら発熱はないようで。
ネタナ……寝たようで熱も下がったし、峠越した病気も回復。
ネタ…眠る、趨がうまく出来そう、元になる材料、熱はなし。
ネタムナワリ……寝たがらない時期、寝るまで機会を生かし。
ネタムナガル……寝を嫌う子、快適な疲労、心地好い環境も。
ネタマルリヤ…焼き餅焼き、嫉妬心強い相手、日ごろの好誼。
ネタゴカス……枕も、寝ていて捻挫、動く瞬間に捻挫もある、
ネタネーゴタル…熱はないようだから、発熱は下がったよう。
ネタネーデ………熱はなかったもので、事後の用心も大事。

ネタフリユ…寝た真似して探索、寝たふりは忍法にもあるが。
ネタソベ…寝た側に、寝添いして看病、側なら緊急でも対応。
ネタワキ…寝ている側、介護も育児も至便、咄嗟の用事に。
ネタマニユ………寝た真似は素人には無理、寝ている姿は。
ネチータ……寝ついたようで、落ち着いて寝れば、安眠効果。
ネチョルマン……寝ている間に、寝ていれば安心して仕事も。
ネチギー……根性が粘いので、粘い気質の性格、意地悪さも。
ネチョリヤイマ…寝ていればゆっくり、寝ていもいつ目覚め。
ネチイチ………寝ついてほっと一安心、疲れたのかよく寝る。

ね ネチネチスル……粘りが多くつしたので、ねばねばする状態。
ネチーチ……寝ついて心配な、ひどくならねばよいが。病気。
ネチマチャイイコト……先に寝て待てば、寝て待っていれば。
ネツサマシ……熱が下がるような特膏葉、解熱剤で手当て。
ネツンハナ……熱で化膿すると発生する、熱の反応で思わず。
ネッチスリガウ……あぁと言えはこう言う、常に反対意識を。
ネツガノウナッタ……熱が下がったので、解熱効果があらわれ。
ネツル……ねじて修正、ねじて痛める、ねじる事で結果が。
ネツンアルウチ……熱いうちに作業、熱い時に拵える、機会。
ネツケ……植え付け、根元に装着する、密着させる、活着した。

ネツニャキオツキ……発熱用心を、風邪と油断禁物、熱に用心。
ネツカン……活着しないようで、根がつかずに枯れ、居れない。
ネツマワリガ……熱の状態が悪く逆に酷く、熱と油断は禁物。
ネットリ……粘りついたような状態、取り除くに苦勞する。
ネツチャキ……根気が強いもので、頑張り屋、熱心過ぎる。
ネツクナ……寝ついては困る、寝つかぬように、程度もので。
ネテンスグオクル……寝たとおもったらすぐ起き、落ち着かぬ。
ネテング……寝たのになでか、寝たはずなのにどうして。
ネデチョキャ……ねじておけば、ねじまげておく、曲げて。
ネテンオケテン……寝ても起きていても、そわそわする性格。

ネデタナイイガ……ねじたのに、ねじたはよかったが後が。
ネデラルリヤ……ねじられたが、ねじたものの、まげられたら。
ネデタンカ……ねじたのですか、曲げたのに、ねじたら結果は。
ネテーナ……寝たいのですか、眠たいのでは、眠たいようで。
ネドキー……寝床に入ったら、寝床でゆっくり休み、安眠が。
ネトラレチ……他所の人が寝ていたよう、ご法度なのだよ。
ネドキヘーレ……寝床に入って、寝床でゆっくり、安眠がよい。
ネトギャ……寝る友は、寝るときの相手は、寝る時間は。
ネドコンワキ……寝床の側には、寝床は静かにあってほしい。

ね ネットクシケ………寝床を敷いてください、寝床の準備を。
ネットクシータド……寝床の準備が出来た、いつでもお休みを。
ネットコンナケ……寝床の中でゆっくりと、ゆっくりお休みは床、
ネットキイチ……寝床に入ってゆっくり、安眠して明日も元気。
ネットボクル……夢見たか無意識か動き回る、うっかりぼけ気味。
ネットキヘーレ……寝床に入ったら、寝床でゆっくりお休みを。
ネットナンナチュウニ……寝なさんと言うのに、待っておってと。
ネットナリ……寝たとおもったらもう鼾、寝た途端に大鼾、寝て。
ネットナガラソワヤク……寝たとおもいきや悪戯あそび、楽しいの。
ネットナー……寝なさいと言うのに、寝たらどうですか、もう寝て。

ネットナシヤツカンド……根がないなら枯れるよ、根がなくては。
ネットナリジャ……寝たばかりじゃ。寝たもののこのままでは。
ネットナシデンツク……根がなくても発根する、根無しでも根性が。
ネットナシゴロ……風来坊では不安、ねがなくても頑張れば根も。
ネットニウイ……側に植えたらよう、側なら自然と根もでる。
ネットニヤモツナ……いつまでも想い悩まぬ、あっさりと忘却も。
ネットニモツチョル……いつまでも魂胆が悪い、我も呪われる。
ネットニクリヤイイ……泊まりに来ればよいよ、来て泊まったら。
ネットニモナラン……根にも花にもならない、話の種にもならぬ。
ネットニオリヤ……側に居れば、お互いが助け合うもの、総合扶助。

ネットニイチ……側に行ってみる、聞く見る覚える、側なら出来。
ネットニキタ……側にきてよかったと、見る聞くは役立つもの。
ネットニデンオラルル……そばにおれば百万の味方、助け合うもの。
ネットニナライイ……側ならよいと、支え合うのがお互いの努力を。
ネットニヨシイ……そばに寄せて、そばなら支え合う、役立つもの。
ネットニキテン……側に来て邪魔にはならぬ、手助けも出来る。
ネットニオリヤショワネエ……そばならお互いが、力だし合う。
ネットニオケ……側に置けば役立つ、お互いが励み合う、共存。
ネットニヤ……側にゃ役立つ力にもなる、力の使い分けも出来る。

ね ネネシナ…寝なさいよ、寝ましょうね、寝る子はお利口さん。
ネネセンカ……寝ましょうね、寝たら明日ご褒美あげるよ。
ネネカルスルデ……寝たらはじめましょう、寝らないと駄目。
ネネシュウヤ…寝ましょうよ、明日が早いので、早寝はお得。
ネネ……寝ること、お姉さん、眠たいので、寝たいから。
ネノネーヤツ……古い事は忘れる性格、以前の事はもうよい。
ネノワキャ…寝る側には、寝なさいよここにいるので。添寝。
ネノビユシュ……長い時間の寝過ぎ、雨だから寝正月に。
ネノデンワヤク……根元からの悪戯、根をきってしまう。
ネバツチョル……ねばってしまう、腐敗している、粘りつく。

ネバナ…寝て間もない時間、寝始めた頃に、寝てすぐ。
ネバナ…寝てぐの事、寝たと思う間もなく、寝た瞬間に。
ネバネー…寝はじめに、寝てすぐの事、寝たばかりなのに。
ネバノ…寝て間もない頃に起こされて、寝てすぐ起こされて。
ネハニャ…寝てはじめの状態、寝てあまり時間が立たない。
ネバースカン…粘った食べ物は嫌い、粘りの多いのは苦手。
ネバレージャ…粘って勝つまでは、頑張っていればやがては。
ネバツチョリャ…努力して頑張れば、努力は最後には栄冠。
ネバカリャウメエ…粘りがあればおいしい、粘りに味がある。
ネバツチ……覚悟決めて努力する、最後まであきらめない。

ネビヤ……寝冷えは用心を、寝冷えから風邪引きに。
ネビユ…寝冷えしたら寝ついた、寝冷えが元起こしに。
ネビツチョケ…ねぶって味見、舌の感触が強み、舌は確実。
ネブカ……葱、土寄せして根元を白くしてある、根深葱。
ネブチ…竹のねが露出した分、小節が加工品にも、竹ぶち。
ネブッチ……なめて味見を、舌の感触は確実、味見は鋭い。
ネブカブシ…小節が聞いているが乱丁、美声だが節回しが。
ネフリサゲーチ……なめ回して不潔、食べ物は清潔に。
ネゴチ……眠っている間のうわ言、寝て人間のうわ言。

ね ネブタカロ……眠たいでしょうか、眠いと思うが、睡眠不足。
ネブリツク…ねぶりついて愛情表現、接吻でも、好きで好き。
ネブッコケ…舐めて愛情表現、舐めて確認する、味の確認。
ネブラレタ…舐められ愛情印、舐められて表す、蠅が泊まる。
ネベーナ…粘くて濃さも抜群、愛情のこまやかな、粘着する。
ネベナリヤ……粘くなると取れにくい、練り上がった証拠。
ネベヤツ…根性がしたたかな、問題が難しい性格、時間稼ぎ。
ネベヤター……粘い性格者には用心して、早い解決が要求。
ネベタチ…粘いと言っても相手次第、粘さには淡白なものを。
ネベーツバジ……粘さの側に淡白を寄せる、柔軟交互が融和。

ネベー……粘くて練り上がった、根性がう忍ばれる。
ネボデン……粘くても淡白と妥協させる、使い方で役立つ。
ネボカリヤ…粘さには柔軟なもので、硬軟使い分けて仕上げ。
ネボデケタ…ねばりよくできた、技法がすばらしい、繊細で。
ネボーサク……気長く咲いて喜ぶ、長い花の期間、長所が宝。
ネボスケ…寝坊する性格、取り柄もあるが、欠点の生かし方。
ネママンカジ……寝間の火災、寝ままの部屋はとかく乱雑。
ネママン…寝たままの部屋は、恥部の整頓も大切、清潔肝心。
ネマニヤ……寝室は清潔主義に、いつ何かあっても恥じ晒が。
ネマデン……客室に変貌できる日ごろの気構え、咄嗟の準備。

ネマキャ…寝巻きは清潔に、どんな場合の想定も、恥に注意。
ネマ……寝室、寝る部屋だからいつも清潔に、いつ何事が。
ネマニオル…寝室にいますが、内緒話があるのかも。宝部屋。
ネミニニヤ……全く知らない初聞き、案外知らない事が多い。
ネミケンド……眠たいけれど、睡眠不足がここにも、何事で。
ネミード……眠たいが何事で、咄嗟の相談にも即応する。
ネミキー…眠たいもので、相談なら即応する、自慢にならぬ。
ネミーチャ…眠たいのですが、夜更かしは大きな損、早寝を。
ネミグリヤ……眠たいぐらいは我慢して、相談には応じて。



ね ネムテンカ…眠たいのですか、眠れなかったのでは。睡眠不足。
ネムラセン……眠らせないので、眠らせてくれなくて、騒いで。
ネムリソコネチ……眠る時間がなくなって、眠れないのでつい。
ネムレン……眠れなくて、騒々しくて、心配ごとがあつて。
ネムトウ……眠たくなる時間、眠くなる不思議な心情、睡眠欲。
ネムリコ……葉が時間季節で閉じる、睡眠をとるような感触。
ネムネムシナァ……眠ったがよいから、寝た子はよく育つから。
ネムナツタ……眠たくなつたので、睡魔に襲われる、睡眠が欲。
ネムリクウジ……眠ってしまって失敗、うっかり眠ってしまう。
ネムタガリヤ……眠たいのなら寝かせて、寝不足は体に毒。

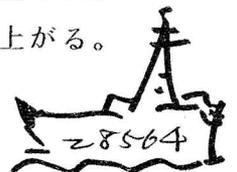
ネムカロウガ…眠たいのでは、眠ったがよいと思う、睡眠安心。
ネメ…寝間に行けば、寝室でゆっくりと寝たら、ゆっくり睡眠。
ネメヘーレ……寝室にはいったら、寝間ならゆっくり休める。
ネメナラ……寝間なら落ち着いて眠れる、ゆっくり休むが上策。
ネメーオレ…寝室にいなさい、寝室でゆっくり寝たら、眠って。
ネモチユウ……根元を確認して切らねば、根元が肝心だから。
ネモタケー……値段も高いが品物もよい、よい品物は安心も。
ネモシラン……値段は知らないが大丈夫。連絡済みだから。
ネモワカランキ……値段は不明だが、値段を決め手から取引を。
ネモセンジ……寝らないと明日に差し支えが、睡眠不足は大敵。

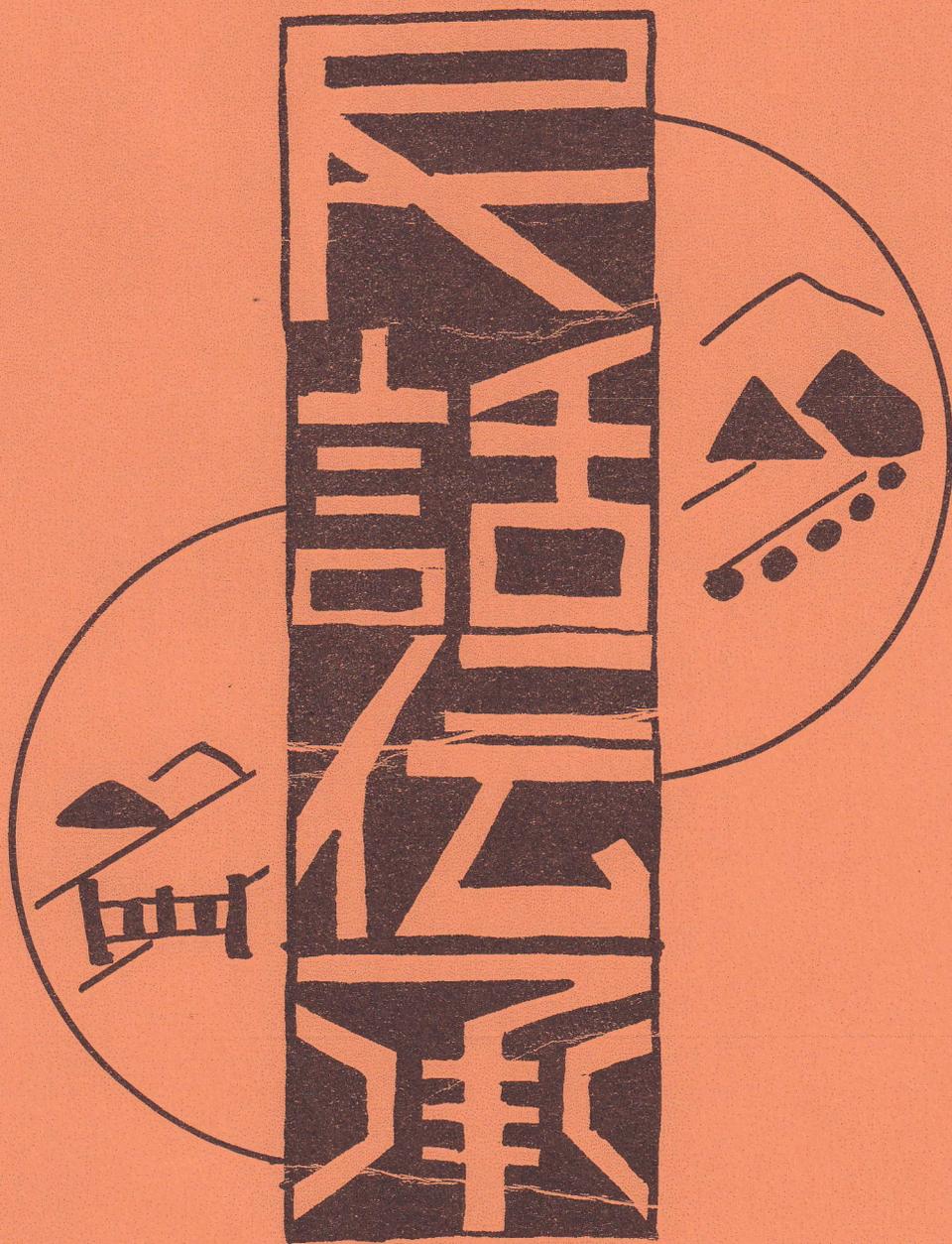
ネモキメレメ…値段は決められないのでは、値段決めてからは。
ネモイイキ……値段がいいだけですが、良質の品物だけに安心。
ネモマケンノカ……値段は負けれないが、負けないだけに。
ネモアキ……根元はあけて植える、間隔が収穫に影響する。
ネモツシャント……根元がしっかりしないと、風の予防もして。
ネモキレンカ……根がきれないと又茂る、根まで取り除いて。
ネモシレンカ……値段が解らないと、取引は延期して、定価が。
ネモセンキ…寝もしないので、付き合いさせられて往生します。
ネモーミラニャ……寝室を見たのか、寝室になおしたはずだが。

ね ネヤカロ…寝たくても眠れずに泣く、眠れぬので泣いている。
ネヤオ…優しく言い聞かせる、寝せつけて眠らせる、寝つけ。
ネヤカラ…眠りたいのに寝れぬので泣く、寝つかれぬ心情。
ネヤシキ…寝るのに静かでいい場所、寝るには最高の場所。
ネユコウチ…値段を吊り上げて買う、高いが思い切って。
ネユウレタ…高値で売れた、予定とおりの値で売れる、
ネユツケタ…値がよくついたので、高い値段が思わずついて。
ネユーニ…競りねが予想以上に高く、予想以上に売れて。
ネユイエ…値段を高く競り上げて、少しでも高く買って。
ネユカエ…値段は早くつけて競り落とす、早く手を打つ。

ネヨウレタ…思わず高値で売れる、おかげで儲かる、ご祝儀。
ネヨリヤイイ…予想以上に競られた、競り手が揃っていた。
ネラレン…眠れないので、騒がしくてゆっくり眠れぬ。
ネラクレ Chol…根性が暗くて異常で、変わり者だから。
ネラワルリヤ…狙われたらしいので、狙われたら知らぬふり。
ネラマレチ…睨まれたのだが、なでか意味が解らず、用心を。
ネラム…睨む形相、油断は禁物だから、魂胆があったのかも。
ネラレメ…練られないかも、寝るには環境が悪い、寝ないで。
ネランジ…眠らなくて、練らないことに、練らないままに。
ネラワレ Chol…狙われたようで、用心して対応、相手に。

ネラムンカ…睨むなら考えがある、睨む理由は解っている。
ネランゴタリヤ…練らないのなら、そのままに、寝ないの。
ネリコナサン…練り作業が間に合わない、練り上がりは無理。
ネリソコノチ…練りに失敗して、眠る時間がとれなくて。
ネリヤ…練り仕事す人たち、練り上げて仕上げに使える。
ネリヤセンジ…練りはしないで、眠らないのなら、睡眠不足。
ネリカカッタ…練りがはじまったので、眠りじめたよう。
ネリヤコス…寝れば安心して、練るなら仕上がりも上等に。
ネリヤラキ…寝たら楽になるのに、練れば大丈夫仕上がる。





菜の花眺めたお遍路の旅

四国巡りん出来んシタチン 代参の札所である 南新四国ん
88ヶ所めぐりコースが 明治36年9月《1903》に野津原
に 出来ち大供修護摩供養もされた。今市万生寺 入蔵円福寺
尼瀬臨濟寺ん住職も参加しち つい最近まじ続きよった。春ん
大師めぐりん全身でんある こん遍路道ゃ参加者も多ゅうじ 1
番札所靈山寺かる 大分、野津原、大野、直入、庄内、谷 なん
かも入った 88番まじが7日間続いた。

お大師様にゃ先達さんに 連れのうちそん場所ごち 般若心経
と真信を唱えちよるが 白衣姿ん遍路が通る菜の花満開ん 畦道
かる 川端んコンメー道まじ せせらぎを聞き 鳥ん声虫の動き
まじに 春ん息吹きも感じよった。そん唱ゆる般若心経は 中国
に研修した時に入った 大乘心経262文字 知恵のエッセーを
取り出したお経。

病人に食事を与えることでも 悟りの言葉を経文で唱える。声
をあげ消え去る。3000巻から20年かけて 262文字に納
まった心経が完成。現在社会でも心経の想いは 逆に呪文でもあ
る人間は全て空であると 解いてあるよう。観自在菩薩が子弟の
舎利子に教えたもので 法は永遠に変わることなく 根源である
この世の物質的な物は 何もなく煩惱を受けることもない。

意識の世界もない光明の尽きることもない 原因となる生老病
死など何もなく 恐怖もない過去現在未来と言う 三世において
自分の心を持った人は 宇宙の法に叶った自愛の光である。本当
の自分に到達するために 教えを理解実践した時 全てを為し遂
げよう。何度もくり返して読み 素直に反省すれば必ず心の窓が
開ける それが般若心経である。心静めち写経するのも 心清浄
の境地に入る束の間の 自信の研鑽かん知れない。

お遍路さんが来るのが 4月1日に霊山寺で初打ちした後 野津原に入るのが 2日の夕方になる。札所以外でも希望する家じ立ち寄る そげなことあっち 時間の都合じ2つ、3つに別れち進む事も多かつた。谷川丸木橋を渡ると 水にそん影が写る『なんと素朴な姿じ』 白の遍路姿じゃき 何も見ゆりゃせんがそかぁ やっぱ女性じゃき 股間を縮めたり襟元に 手も行く。

途中じゃ お茶のお接待もあるが 顔見知りんシタチん 出会いどまぁ途中ん 話が弾むこともありよる。蓮華ん花が愛らしいもんじ コンメー頃にゆう ままごと遊びしたんぬ 思いで一ち隠し笑いしよるんを 見つめられち 下手な言い訳しよるしも。雨ん日じゃつちあるき 雨道具もいるけんど 濡るるこつー考えったんじゃ お遍路たぁ言えんごたる。

晩方にゃ決まりん宿ん世話になるに 遍路宿は大けな奥座敷 修行も兼ねちよるき 質素儉約こす大事な期間 お互いに譲りあい支えおうちこす 無事満願打ち上げになる。原村にある大師堂じ 2日間の護摩供養や 先祖供養 お砂踏みもさるる。四国霊地の境内の砂が修められち そん上を経を唱えながら 88寺と高野山の砂を踏み 春のお遍路巡りも 無事に終わるこちなる。

健康じありゃこす 略式な遍路道でん 参加できる幸せは 健康じゃきこすん壮挙。先達さんのお世話にすがる 春ん一日一日は多くの人たちん 絆によっち無事終わった。足が痛むしもあるが なにかおすがりする時 自分もくろうしちこす そん望みも叶えらるるもん。

- § 白衣なびいて板橋渡りゃ 優し顔出来水鏡
ハ 七瀬のせせらぎ そよ風そよそよ ホイホイホイ §
§ 母は達者か歩けば三里 遍路道までのぼしたい
ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎もスイスイ ホイホイホイ §



鈴の音ひびく遍路お接待

春先んお大師さんの『お接待』が 所によつちャチット 違うが 旧ん21日にありよる。お大師様が『どけなしでん 食べ物は皆んじ分けおうち』と 論した習わしが今も 春ん風物詩んごつされち さん頃に巡る お遍路さんたちん 札所巡りやら 地域じする お接待にゃ座元ん家に 賄いする人たちがあつまり 春ん山菜なんかが利用されよる。

子ども連れん年寄りしが 手拭いをチョコットかぶり 子どもん手を引いち回っち来る。中にゃ子守するしもある 門口に供えた お大師様とお供え飾り セリ、ワラビ、ゼンマイ、サンショウ、何かが入った 混ぜごはんを ヘギに乗せち 『はい お接待じゃき食べよ』 頭さげた子どもが 連れのうちバアチャンの 顔お見あぐる。

『いいんで 早う食べよ』 そんな声じ安心したんか いただいち食べはじめた。参っちすぐ帰るし そげなシタチニャ 握りご飯』が 竹の皮に包んじやる。『うっと 貰うち帰ろう』『そうな ほんな ジイサンがん分も 包むき』『ちゃー悪いなあ』『アゲンコトンドョウ じいさんな サカシイナ』『ウン マァナ』

キンジョンシなりゃこす そこまじ心配しちくるる。若い時にゃ色男じ通ったけんど なんさま年う取った。こん頃あチット 足腰が悪いち タバコじのうんジョウ ショル。好きじすんのじゃねえけんど これも人間の宿命じゃろう。『まあ茶だけでん おあがりセカンデン イインジャロ』『別段セワシュワネエガ』

ツレソウシが悪いと やっぱ気がめいるんか 美人じゃつたこんしも チットやつれが目立つごたる。子どもは食べち しまうと先がせわしいんじやる。顔色んじょ見よる。

夏ん暑い盛りん『お接待』にゃ ヤセウマが準備さるる。黄粉まぶしたヤセウマは 盆に里に帰った仏様が 帰りに供え物を持ち帰るに縛るに使うち言う。適当に乾燥するとそりゃ丈夫になつち ショウショウン物じゃ切れんち言う。黄粉は暑さの予防にもなり 材料も農家じ作る 使い勝手んいい粉。

独特な香りにゃ食欲もそそち 暑さ対策にゃ最高ん食べ物。貰ったお接待んヤセウマは そんなま食ぶるもいいし 残ったら味噌汁にも使える。口当たりもいいし 固くもねえき 歯の悪いしも心配ねえいい 食べ物でんある。お大師さまも巡礼ん頃にゃ 日のツジャ避けち 夜ん涼しい時に歩いたち言う。

歩きながら 昼んお接待のヤセウマを 食べながら歩く格好はヒヨットスリゃ 見られたもんじゃねえ かん知れんが チットデン早く歩いち 先先に苦労する人たちを ナルタケ早く助け 楽しい暮らしをしてほしい そげな願いじ全国を 歩き回る苦労を 為し遂げたごたる。

そげな影じ救われ 助けちもろうた 多くん人たちが今も 教えられた幸せのために みんなが助け合う そげな気持ちになるような 世の中になったにと 手を合わせて拝む時 自然とそれも叶うじゃあるめ一か。こんめ一子どもは 意味こす解らんでん 今日ん出来事は心にチャント オサメラレチ 大きくなったいつか きっと思い出して 人のためになる 行いが自然に湧くとか。

鈴ん音が響いて 遍路さんたちが来た。『ほんなオオキニ』子どもん手を引いて 帰るこんしもきっと お大師様のおかげと待つじいさんと 別けて食べるんじゃろう。『ありがたいこと』ち 思うそん気持ちが お大師様にも通じ お大師様もご加護の光を あてちくれるじゃろう。



★★★ 方言説明 ★★★

- 17 P シタチン…ひとたちの。まじ…まで。先達さん…先導してその場所で納経する先読役。連れのうち…連れだって。コンメー…ちいさい。
- 18 P そげな…そんな。見ゆりゃせんか…見えませんか。やっぱ…やはり。シタチ…その人たち。
- 19 P よつちャチット…よっては少し。チョコット…さっと手軽に。ヘギ…木を薄く剥いて作った食器具。見あぐる…返事を待つ心境。そげなシタチニャ…そんな人たちには。竹の皮…成長しち剥落ちた皮。そうな…そうですか、ほんな…それなら。うっと…私は。ちゃー…あらまゝ。アゲンコトンジョウ…そのようなことばかり。サカシイナ…元気ですか。ウン、マアナ…はいそれなりにね。ダバコジのう…たばごばかり楽しんで。セカンデン…急がなくても。イインジャロウ…よいのてしょう。セワシュウハネエガ…忙しくはないけれど。ツレソウシガ…伴侶が。
- 20 P セセウマ小麦粉を適当にこねて伸ばしてきな粉をまぶした食べもの。ショウショウン…かなりのものまで。日のツジャ…昼ん間は。ヒヨットスリャ…もしかしたら。チットデン…少しであっても。ナルタケ…出来るだけ。世の中になったにと…現在の世間になったので。チャント…しっかりと。ほんなおオキニ…それではありがとう。

===== 道普請 共同作業 もやい仕事 =====

農村じゃ地域が広いき 隣どうしん間やら 地域と地域ん間が
遠いもんじゃき どしてん共同じ世話する そげな機会が多い。
ましてや便利んいい道なんか いちいち行政は面倒見ちくれん。
お互いんためになるんは 助けおうちする仕事になる。それが又
ヒドカロウトン 自分たちん利便に へもどっちも来る。

道普請…いあんべーに天気が続くき 『明日は道普請ぬするき
加勢しちおくれと』 『そうじゃつのう ちったー荒れ
たきーち思いよったが 若えにまゝゆう気がチータノウ』 『ホン
ナ 小昼いやセウマでん 作ろうか』 『お前がんオハコじゃきの
皆んなヨロコブど』

笑い話しながら もう明日んサンクリュしよる。そんコロにゃ
隣んしも ちゅうてんでーぶ 遠いんじゃがそかー ひさしぶり
ん 寄り合い仕事じゃき 気持ちがうきうきしよる。『隣りゃ
おはこん やセウマじゃろうき うっとかた『押し寿司』に し
ゅうかなあ』。

思い思いん小昼んサンクリが 出来たもんじゃきもう 前ん日
かるソワソワ。ジャガこげな 心ん絆があるきこす みんなが元
気にたとえ 貧乏しちつてん助けおうち 長う住みちーたんじゃ
ろう。じいさまも ばあさまも 嫁に来ち久しいけんど こらえ
性根もよかったが それ以上に魅きつくる 何かがここにゃある
ち 思わるるんが嬉しい。

長い道じゃが『うっとも暇じゃき』ち あっちこっちかるも
出たき ちっと昼下がりまじ かかったか出来あがった。泥を落
とした鍬が日ざしん強うなった 陽にまばいいごつ 光りよる。
『お前も感心に鍬はゆう 手入れするのう』 『チャージイサンこ
す いつも美しゅう 手入れすること。そりゅー見習うたんで』

隣ん嫁じょうに褒められたもんじゃき 聞いちょつた バアサ
ンがやっぱ嬉しいごたる。『おおきに あんたは里ん オカチャ
ンの羨がよかったき どこでん好かるるなあ』 『おおきに 里ん
おかちゃんな 苦労したもんじゃき』 そこまじ言うと そっと
涙拭きよったんが 痛ましかった。『苦労があってん 歯をかみ
な一え いいこともあるきなあ』 何にも勝る味方じゃつた。



道が美しゅうなると 生えた草が目立ちだすもん。じやが牛馬が
ドコン家にもオルキ 草きりゃもう早えもんがち。早う起けちも
う牛う引いち 草きりしよるしもおった。年寄りなりゃソゲー
遠うにゃいけん そりゅう皆んなも解っちよるき そこへんな
残しちよくと『すまんのう』 皆んな年寄りになるんでナエ。

牛も連れち草を食わせよるき 帰っちダカイガ デーブン助か
る。知恵が働くんも長年の 年んコウ。イヤ功績んことじゃが
どげハリクウデン 百姓ん儲けは知れたもん。そり一褒められて
ん 賞金ぬ貰うたり勲章なんか 夢んまた夢じゃつた。どっかん
しが勲章もろうたんと。『へー勲章ちゃ食わるるんな』

いつじゃつたか 近所じ物置小屋が焼けち 大事にゃならんじ
ゃつたが 次ん日は『ハイヨセ』を 皆んなづりでち 焼けた跡
んかたずきゅうする。年寄りんジイサン バアサンな 足腰がち
っと悪いき 炊き出しう受け持った。バアサンの 握り飯ゃもう
天下逸品じ評判じゃつた。

若い嫁ごもそん方になったき 作りながら話が弾んだ。『昔は
村八分』とか言うぬ聞いたが 『それな』バアサンが 話ちょこ
うちおもいよった。そん話じゃき いい時じゃち思うち 話しち
聞かせた。今はもうそげなこたー ねえじゃろうが 昔ん頃にゃ
やっぱありよったらしい。

ここへんじゃ聞かんけんど いろいろ理屈もあっち 仲間外れ
になったシガアッタ。デン葬式と火事は加勢する それじ残りん
8つは知らぬふり。まゝ早え話が8分は つき合わんから村8分
ち言うらしい。気の毒じゃがそれなりん 理屈があつたからじ
どっちが悪いか 人間同志が話しゃ 解りそうなもんじゃがの。

お互いがちっと譲り合う そくに共同体が生きるがなゝ。

オルキ…いるので。しよるしも…している人も。ダカイガ…牛馬の飼料づくりが。デーブン…だいぶ。コウ…知恵が多くて助かる。ハリクウデン…頑張っても。どつかんしが…どこかよその人が。ハイヨセ…火災の跡の焼けた使えぬものなどの かたづけに加勢して心のお見舞をする。村八分…仲間はずれされる 元々は自分かってな人が自分の家は 何不自由ない全勢期だったので人の世話にならずとも 心配のない境遇だったので あえて反対意識を強めて皆んなを 押しつけるような 生活態度であったのに 何事にも応じなかつたので 疎外されたよう。人間の世界にはいい時期はほんの 一時であり全てが人の 物の世話になっている。

『はばさんな ゆう何でん知っちよるなぁ』長生きしたきな』
『もっと長く元気でいて いろいろ教えてください』『あんたは
ほんと素直じ お利口じゃこと』『あらまぁ どげしゅうか』

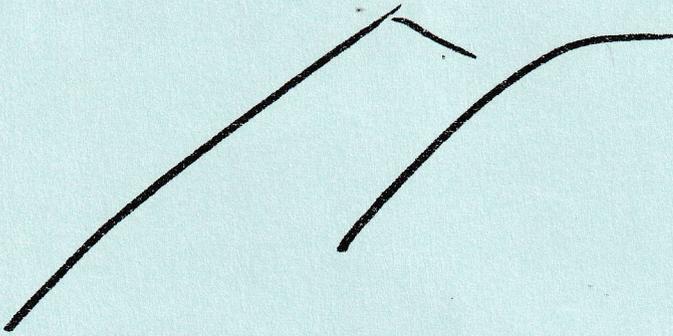
顔が煤で黒くなった みんながえーと済んだんか 手を洗いな
がら手鼻かむしもあった。仲んいい組の人たちじゃき どけな事
しよってん 一つもおかしゅうも 嫌らしいとも思わんな なし
じゃろうか。美しゅうなった時い 家んしがお礼よ言いに来た。
『今日は世話しかつたろうに おおきに』『心配じゃつたなぁ』

口見舞いでどんくれ嬉しいか 黒く煤がついた若い嫁ごも
ショボント シチョツタガ こげー皆んなが仲良しじゃき 元気
しおらるるんじゃな ち嬉しかった。婿じょうが片隅かる ニコ
ット白い歯を覗かせち 嬉しそうに笑った。心が豊かなら苦勞も
苦にも 気にもならん今ん幸せ。共同見舞いは絆の証。

どげしゅうか…どうしまししょうか。手鼻…指先2本じ鼻をつまんで
嘔き出すと 溜まった鼻水が飛び出す。口見舞い…言うだけの
見舞いでも。ショボントシチョツタガ…悲しそうにしていたが。



花之韻



ちよいと一服

五助さんどま荷物ん多い時にゃ 帰りが遅うなっち早えしどま
もう寝たんか 灯が消えちよる家もあつた。けんどヤウチが多いと
そげんこたー 夢んまた夢じなえ。若え嫁ごどまなんと 10人の
ヤウチじゃき 夕飯後んかたずけ 年寄りしが湯にへーち 順番に
へーるもんじゃき そげなしゃ夜中えなる。

馬がナクもんじゃき 立ち止まったところ ゴシゴシ音がしよる
んが 馬ん耳に入ったんじゃろう。背伸びしちみると そんな音あド
ウヤラ洗たくしよるごたる。もみ板にコボクレ石けんぬ 具合いゆ
う使うち時どき 蚊がくいつくんか パチッ ソンアター肩おヒク
ヒクさせち よっぽず痒いんじゃろう。

『遅うまじ ハリコミヨルナァ』 『アラ五助さん 蚊が食いち
いち 痒いー』 大声じゃねえけんど そんな声にゃ恨みがつのる。
『だしちみな かいちやるき』 顔見知りじゃきこす 出来ること
じゃが ムゲネエチ思うと 側によっち そこらへんぬ 掻いちゃ
つた。『おおきに』

お礼ん言葉こす 短えけんどそんな満足感な 言い様のねえ気持ち
じゃつたろう。馬が前足う叩く 『ふんななあ 早う寝なあえ』
五助にしてん こげな所う見られどすりゃ やっぱ変てこん噂にも
なりかねん。後惜しいごたる束の間ん 物語なつたが そんな嫁ごに
してん 『ふんとウチン旦那は気がきかん』

4, 5日たった昼盛さがり 五助さんが帰りのよるんを 見つけた
き声うかけた。『こん前はおおきに』『おーどげな 達者な』 見
まわしち返事ゆすると 側に来ち 『ほんとあん時は ありがとう
ございました 痒いんを堪えるな 大事じゃつたんで』『じゃろう
顔色が悪かったわな』『あら顔色わかった』

誰もおらんごつ静まっちよる 屋間わきにゃ風ん音が 心う和ませちもくるる。五助さんにお礼を言う そんついでじゃ悪いが『あげー優しゅう されるると 嫁に来た家が間違いじゃ』『そげなこたー 言わんがいいんど』『あら ご免なつい』『いんにゃ気持ちは ゆう解るがの どこでん一緒ど』『じゃろうか』

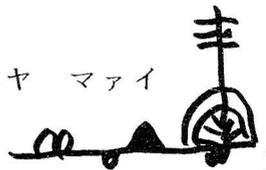
五助さんが諭したことじ ふっと我に帰ったような そん気持ちもゆう解る。順送りんごたる そん頃ん農家ん暮らしかたは そげな形にはめられちよつた。苦勞が当たり前じゃつたき 嫁を迎えるにも偶然ち言うと それまでじゃが 忙しくなる前が多かつち 『あっこんしゃ手を揃ゆるんと』

年寄り夫婦に自分たち夫婦 そりー子どもが生まれ まゝそん頃んにゃ夫ん 弟や姉や妹も おったか知れんし 親の兄弟じゃつち 側に作り分けちよつたかん。大世帯ん中じ 嫁は常に最下位じゃたもん。じゃき飯時でん一番あとに 座っち食べる。給仕なんかしよると 食うナカマナンカ ねえんが実情じゃつた。

済んだらかたずけも 時間とん勝負じ 加勢なんか宛にならんし してん儲けにゃならんき さっさと一人じ始末する。それに洗濯物ゝ大事んサイタルモン。洗濯機なんかねえ 水道もねえ物干しゃ大きな 竹さおに通しち あんげこんげに干す。もんじゃきもう内緒に干してーもんも ねえ困った事じやった。

がいい事も時にゃあるもんじ 里歩きに行く時にゃ みんながみやげを待つちよるんか 見送っちもくるる。鬼のおらん間に親子兄弟水入らず。里に行った嫁も ゆっくり親に甘えち 顔色が満点になっち来た。婿じょうが 迎えに来たがここじゃ大将ん気取りじ 一夜はゆっくり甘えらるる。

朝もゆっくりん帰り道 『なゝオンブシテ』『ナニヤ マァイイカ 早うおぼりー』



お接待はなしあるの

春と夏になると お遍路さんたち歩く 札所巡りがあるけど
これた 別に『お接待行事』が 古くかるされちよる。弘法大師ち
言う偉いお坊さんの 人間としての大切な 生き方を教えた そんな
徳を忍んで教えられた 人間はみんな平等であるので 貧しい人には
施しを 又多くをもつ人たちは みんなのために出し合う そんな
豊かな心になることが やがては又回り 回って報いとなるので
す。自分にも帰ってくるものです。

弘法大師は全国を回って 教えを広めたが とくに四国各地には
その 霊場を作って修行や 悩みの多い人たちが 悟りを開くため
に巡拝する 『88ヶ所巡り』が 作られました。呼びかけたが
なかなか進まなかったが 新聞社もお手伝いして 呼びかけたら
多くのお寺も参加しち 今毎日多くのお遍路さんが 巡拝して特に
季節にゃ 観光バスも回っています。

じゃが四国に行くにゃ やっぱ元気じねえと無理。それに日数も
歩いて1月以上もかかる。それに予算もいる そげな事から各地に
それに 変わる霊場巡りはと 作られたんが遍路巡りです。春のそ
ん遍路巡りにゃ 決まったお寺や庵 それに家庭にも お大師様を
祀った家もあっち 巡拝の時にゃ立ち寄って お経を唱えます。

白衣を着て金剛杖を持ち 鈴を鳴らして回るのが 本式ですが
簡単な服装でも 参加出来るんも お大師様が諭す みんなが豊
かに暮らせることが 何よりの狙いだからです。お札を供え納経を
しますが お接待があったりしち お茶を頂き時には 食べ物の
お接待もあって お祀りしてある家も お参りの人たちも みんな
に暖かいご利益も授かります。

人間は一人じゃ生きられない じゃき心を出しあって すぎる事
もあり することもあるのです。

地域じされる『お接待』は 春ん季節んいい時に それも春ん気持ちっ表す 自然のものが芽吹くころに されるんが多い。山菜が出始めち農家も少し ゆっくり出来る頃じゃき タケノコ、ワラビ。ゼンマイ、サンショウ、フキ、ウド、こげなもんがでると 香りが生き生きしちよるき 元気も出ます。

『混ぜごはん』 押しすしになった お接待にゃもう 子どももおじいちゃん おばあちゃんも お大師様が祀られちをる 家に行き お参りしち お接待を頂きます。心づくしの 食べ物やお菓子なんかも 貰ってうれしい あげて嬉しい 春んお接待でしょう。子どもをおんぶした人たちも お参りすると 『ハイ二人分あぐるで』 嬉しいお接待は 夕方まで続きます。

祀られちよる お大師様も そげな様子を見ながら みんな幸せに過ごしちよると 嬉しそうにニッコリ。みんなが幸せじ あるこたゝ国も栄え 世界も安心しち暮らせるんです。どこじ争い だれかが喧嘩してん 何の得にも儲けにもならん。貧しくてん 心が豊かじみんなが 元気でありゃ きっと楽しいんです。

ほんチョコットした事かる 喧嘩になったり やんがちすりゃ もう戦争になっち そんアゲクニャ 誰がか死んだり 怪我したり家は壊れ火事が起きたり 何の儲けも 幸せも全くのうなっち しまうちなるんじゃこと。人間が話し合えば 解りそうじゃになえふんともうハゲラシイナァ。

お大師様はみんなが 健康じ楽しい日々を願うち みんなに諭したんです。そん教えを大切に お接待は毎年されち そこにゃ嬉しそうな 笑顔が集まるなんか 本当によかったち思うで。みんなもそん教えを守っち 自分に出来る事をする そん気持ちが大じゃき 頑張りましような。回り回っちあなたに そん報いは帰っち来ますからなゝ。人間の務めでんあるきな。



- 25 P どま…この人は。灯が消えちよる…明かりは消して寝た。けんどヤウチ…けれど家族は。ヘーチ…入って。そげなしゃ…そんな人たちは。コボクレ…小さくなった。ソニアター…そのあとは。ハリコミヨルナ…精出しますこと。そこからへんぬ…その周辺を。見られどますりゃ…見られたりしたら。ふんと…ほんとうに。達者な…元気で結構なことで。しゃろう…でしょう。
- 26 P されるると…されたならば。いんにゃ…いいえ。手を揃ゆる…人数が増えて成果が。じゃき…ですから。ナカマナンカ…そのような時間はなく。サイタルモン…特別なもので。みやげ待ちちよる…隣の麦飯んたとえで 珍しいものを。オンブシテ…背におばれたいの。
- 27 P やっぱ…やはり。ねえと…ないと。
- 28 P されるんが…されることが。あげて嬉しい…差し上げて。チョコットシタ…ほんの少し実行したので。やんがちすりゃ…やがてそれが見事に。アゲクニャ…その結果では。ハゲラシイ…悔しくて。あるきな…ありますから。

◎◎◎ 言葉には気をつけないと ◎◎◎

『すまんが砥石貸して』『いいで使いよ』『減るかん知れんが』
いいこと 知れちよるわな』 なんぼ気安うでん 時と言葉とじゃ
問題が起こるかなえ。『明日すまんが カーチャン貸して』 返
事に困るこちなる。前もっち解った話ん続きなら そりゃまあいい
としてん ダマシに カーチャン貸しては 問題が起こるんじゃ
なかろうか。

田舎じゃゆう手が揃わんと 都合悪い仕事があるもんじ
そげん時に限っち人手が 足らんこちなるもん。

そんな時前もっち理由ん説明が なによりん頼みごちなる。心は通じあうてん 信頼が優先もするもんじゃき 気安く大丈夫ち考えたんじゃ 大きな問題を ツクリタツルこちなる。しよわねえち急に『ちよいとカッセンナエ』『イイデ』ち 飛んじ行きどますりゃ そんな先にゃ何が起こるか。

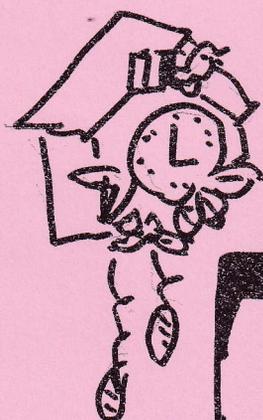
『五助さんこんだ来る時 笠を買うちきちくれんな』『いいでどげなんがいいかなあ』『まかするわな』 五助さんも何の気なしに 任されたき適当なんぬ みつくろうち買うち来た。いつも使うに間にあうごつ バッチョロ笠じゃろうち ちっと若いしに似合うにした。

『いいんがあつたじゃろうか』『ちっと派手じゃろうか 知れんが若者向きがよかろう』 さしで一たな なんと仕事に使う日よけバッチョル笠。ため息ついちしもうた。今になつちクジもいえんけんど 里に行く時にさしち行く それじゃつたんじゃが。くわしゅう言わんじゃつたも 悪かつたが 五助も確認がねえままじゃつた。

りゃーシモッタ うっかり吉兵護じゃつたのう こんだ変えちもらうわいち 自分がん失態を恥じたが 派手じゃき誰でん使うにゃ ちっと抵抗もあるごたる。『いいんで なんとか使うこちしゅう』『そうか悪かつたのう』 里に行くぬこそと 見ると陽が強いに手拭いかぶりじゃつた。里でん妙なふうに映つた。

『お前あこんアチーニ 傘ぐれは 買うち貰らやよかつたに』『いいち言うたんで 勿体ねえこと』『ふんと気がきかんのう』『心配せんでんいき』『こりゅうさしち帰りゃいい こげんこともあろうかち 嫁じょうが自分のと 姉さんが来たら気にいれば 使つてもろうち と 買い置きしちよつたんど。誰も責めらん うつとうが 舌足らずじゃつた。





ふる里の味

※ ニラ味噌 フキ味噌 ※

日本人にゃ離されん 味噌があるけど そんな味噌とイイ具合に相性がいい 野野菜があるんで。道端にあるんでん 平気じ取っち サブサブ洗う。サブザブ音がするごたるが そんなくれー美しい水にゃ 音があるんで。涼しげな音があったり 小鮎が泳ぐような風物は 農村田舎なりゃこす 満喫も出来るようです。

そげな環境を生かした食文化は 土に育った野菜が日本人にゃ一番いいごたるが。食べれる事は幸せの原点ですき 好き嫌いよりゃ感謝する 気持ちがあるんなら 何でも食べられるち思う。感謝すりゃチツタ嫌じゃが 『仕方ねえか』が やんがち好きにもなるもん。そりゃーそんな野菜ん命を 貰いよるかるじゃろう。

ニラ味噌…新しいニラを 美しゅう洗うち 味噌を少したらしした油じ炒める そんな中に適当に切った《好みに応じて》 ニラを入れち更に炒めち行くと 青さは失うが独特な香りに 変わっち食欲が出ちくるき不思議。時間がたつと少し固まるけど 冷蔵庫保存も効くかる 1週間はデー丈夫じゃろう。

残りが多かりゃ時折 火を入れるんなら更に 長く楽しめるち思うが。少し嫌いな匂いが 気になるしゃあるけど 慣れるとこれも解消するかん知れん。栄養価もあり庭先に 少し植えておきゃいつでん使うぐれは 収穫も出来るお手のもの。今は珍しいけど 草木灰を ご褒美にちっとかけちょきゃ 喜んで成長してくれる。

昔かる栄養野菜になっちよるが 影言葉じゃ〇〇立つ草 とん言いよったごつそりゃもう ちっとぐれんダツタな 夕飯ん時に食うちよきゃ 次ん朝どま もう元気百倍に なっちよつたそうな。土ん栄養分やら おテントウ様ん光 自然の水分と風によっち まぁこげなウマイモンな 出来ちよるんと。

フキ味噌…フキは『アクヌキ』が 料理ん決め手じゃき 水にさらすとアクも抜け 繊維が開くごたる スタイルになっち 煮る時ん火の通りがゆうなる。ある程度柔らかしゅう なったら好みじ砂糖醤油じ 甘辛く煮詰めると 副菜でん お茶受けにでん 格好いい逸品に仕上がる。

フキ味噌仕上げにゃ焦げ ないように煮詰めち 味噌を加えるが 醤油が入ちよるき 先後ん加減に工夫をすりゃ わが家ん家伝の料理になるんじゃ なかろうか。フキン甘辛煮も口当たりゆうじ うまいけんど 油落としたフキ味噌仕上げは 苦味がどしてん残るき 嫌いなしも多いごたるが そんな苦味がタマランち言う人も多い。

どっちもチリメンジャコ 何かが入ると だしん役もするき けっくしゃ高尚な 逸品になるかん知れん。ただ問題は焦げんタイミングが 仕上がりん決め手に なるかん知れんごたる。それにフキン場合 季節が限定じゃき 保存するんなら 別としち 本物がねえ時期があるき 工夫しち保存する 秘法さえ考案すりゃ これまたすばらしいごたる。

どっちにも言えるんが 炊きたてん ご飯にこれを乗せち お茶をかけち 『御茶屋漬け』も げにも言えん旨さがある。好みによるけんど こげなふうに自然が 生かされた食べ物にゃ そんな生物ん命があるき 感謝しち頂くことも 大事と思うがな。自然に接する時 人間は恵まれた動物ち思うが。

焼いた餅に塗って食べる 味噌汁に少し入れると 苦味が効果を發揮した独特な味に。使いよう食べようじ 異質な味にも変化するたべものは 天から与えられた物 感謝して頂くと又いろんな物に出会う 幸せ人生になりましょう。それが生きて楽しい 人生双六なんじゃなかろうか。



チモトン味噌和え…チモトは成長が早えし 寒さにも強いき冬
でん 特別寒うなかりゃ いつんなかめー
か太っちょるき 新春の葉味でん 和もんでん春ん味が 堪能出
来る野菜。さっと熱湯に入れち 手じ優しゅ絞ると 適当ん長さ
に切れれば もう逸品が完成する。

白い部分や青さとん コントラストもいいし 混成も目に新鮮
に写る。香りがあっち 味も素人でん好める 野育ちん鮮やかさ
が 初春らしい感覚に 食も進むが独特な 軽い味があるき 好
き嫌いもあるけど これも仕方ねえんじゃなかるうか。神はや
やもすると 誰にでも好まれがちと 解釈した方法が 時にゃ難
点じゃけど じきものじゃきこす こげな現象がでる 気の毒
でんあるが 季節限定と言われると 無性に食べてえ心理に 心
痛むる世の中ん 難しさゆうわかるごたる。

切り取って食べた後は 夏には掘り揚げち 泥を落としち涼し
い場所に 保存しておけば 秋には植えつけらるる。ので永年の
楽しい食品にもなる。手入れも簡単じゃが 大事にすりゃ そん
だけ大きな収穫も ちゃんと手戻ししちくれ 大切な宝物にも
なるかん知れん。ワケギち言うかる 葱ん親戚じゃろうなあ。

味ん調合は酢味噌 甘辛醤油、ゴマをまぶすもいいし ワサビ
をかかすんも 乙な味になる。早取りは味噌汁にも 吸い物ん添
えにも 使い勝手はなかなかいいんで。好みでトーフとん和え物
も 味噌に入れた 風変わりも時にゃ いい鉢ん飾りになる。心
和ませちくるりゃ 使い方にゃいろいろ あるごたるが 鮮度は
一番大事じゃき 使う時に切り取る。

もしとりすぎたら 新聞紙を湿られち 巻いて立てて冷蔵庫なら
少しの間なら保存も。小刻みして保存なら しばらくはOK
でしょうな。

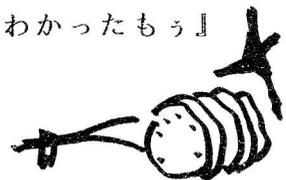
たくあんが漬かったら 色もいいに味も上等ん時あ ママがどん
こんねえ進む。じゃが一時すると 味が落つんも宿命。昔しゃ黍が
ら入れち 漬くるといい色に 仕上がりよったし 味も福よかじゃ
った。それでん贅沢は敵 食わるるだけでん よかった時代でん
あったき冬どま 朝ん冷てーぬ 漬け物桶かる 引き出しちそんま
ま 歯がいいとガリガリ ポリポリ ちった歯にも染むけんど。

塩按配が難しいけんど ちっと塩お勝たせち 漬かった頃に一遍
『塩抜き』する。水じゆう抜き取ったら ちっと干しち も一遍漬
け込む時 砂糖をパラリ一つまみ。2, 3日もすりゃあまあ 美味
しい漬け物が出来上がる。『野津原漬けな』『知らんけんど うめ
えごたるなあ』

漬け物ああんまり褒めなんなち 年寄りが言いよったけんど そ
ん理屈あ知らんで。とにかく物は 美味しゅ食べらるりゃ 『3年
長生きするんと』『そりゃ 違やせんな 死ぬまじじゃねえの』
『なるほど ちぎるが 秋ナスビじゃな』『ヒヨカット 面白い
事がゆう 飛び出るなあ』

笑いこけたもんじゃき 又面白いごつー作りたてち 笑わするん
が 旨いもんじゃき みんなかる好かるる。弁当あけちみたら 匂
いが沢庵、味噌漬、しゃけん焼き物、梅干し それぞれがいい匂い
じ 待つちよる。弁当作るオカチャンの 苦労も考えち クジも休
み休み言わにゃ 罰があたるで。

じゃなほんなオーキニ オゴッソニなりました。『何がえ』『あ
りゅみよ てんしょムシヨ怒っち 何がえはオカシュネエ』『リヤ
おかしゅうはねえで 帰り漬け物う貰うち 帰ろうか思いよんに』
『えー』『こげんうめーな滅多え 出合わんき』『わかったもう』



★★★ 春のお接待 ★★★

農村地帯じゃ春と夏に 弘法大師様の『お接待』があっち 近所
んし同志が集まり 朝かるそんシコする。春にゃ季節ん山菜なんか
が 出番ぬ待つちよるき 材料にゃことかかん。前ん日にシコスル
んもあるが そこゝ年季が入った バアチャン連中が 腕にヨリュ
ウかけち 作りよる。まゝ話も弾むけんど 習う事も多い季節。

ワラビ、ゼンマイ、タケノコ、サンショウヤ、ミツバ、セリ、そ
り一味つけにゃ シイタケ、ゴマ、並ろうだ材料は 毎年同じごた
るが 年が代わり人も違うと 仕上がりがまた ちった違うんも
楽しみんごたる。集まった材料じ だいたい『ごもくすし』になり
木製ん形がある 春らしい模様ん入った 道具。

酢飯ん按配はもう 魅きつくる女性ん底力。混ぜあわせた 酢飯
うそん形に 入れち押し蓋じ押し出すと 見事な桜型やら 扇形な
んかが見事に でき上がった。『けっくしゃいい できばえで』
『手ほめじゃな』『で だれん見惚れち ほめちくれんきなえ』
『そりゃまゝ そうじゃなゝ』

『シラシンケンジャツタンデ』『めくらめっぽうまいなゝ』
『しれちよるけんど』『エエラシムゲネエコト』『わきゃねえけん
ど』『もうへモドレンデ』『シレ Chol けんどなゝ』『オオキニダ
カダン モウ ちゃんがらにゃ シナンエ』若えこん頃来た 嫁ご
どまそん年寄りしん 頼もしいにゃ タマガッチしもうた。

『ごまをチョコットふっち サンショウん葉を べたんとツクリ
ゃ』 側かるへギが 出るきそれに乗せた。『お大師さまに供えち
味見せにゃなえ』『タヘラクユウテン オカシュワネエデ』『じゃ
ろう やっぱここが一番 旨そうじゃなえ』 楽しい笑い声ん中
にお大師さまもサゾヤ 喜んじクレ Chol じゃろう。

◇◇◇ 夏んお接待 ◇◇◇

夏んお接待は暑いサカリン 盆過ぎじゃけんど 人間世界でん
あん世でん 季節にゃ関係ねえ お大師様ん 『施しん行ん日』
じゃき 盆かるあの世に帰る 習わしん行事でんあるごたる。暑
さも朝晩ちととずつ 凌ぎよい季節じゃが 日のツジャまゝ暑い
夏。16日に盆かるお帰りん後 お接待は厳かに。

時期だけに食べ物も イタミやしいもんじゃき 盆の名残りん
『ヤセウマ、ダンゴ』なんかが 人気もあっち 手もわずらわせ
んじ済む。そよ風ん吹き抜くる 北側ん広間じ 年季が入った
バアチャンたちに 混じった若い嫁さんたち 折角お化粧にも
きなこが お添えしちよる。

それがまた初々しいき 年寄りしも自分たちん 若かった頃に
チョコット だぶらせち 思いで一たんか 薄笑いする横顔に
どぶカル飛んじ来た 蚊がポコット留まった。『ちようとジット
シチョコキヨエ 蚊が留まったき』 思い切り叩いたき……じゃね
え 『ご免な蚊が』と 断りよるもんじゃき 逃げちしもうた。

香りがふくよかじ ヤセウマにゃ作る人ん 気心がこめられち
よるき 一層夏ん終わり 盆の別れが表現されちよる。『ちよつ
と味見しちくれん』 指先につまんだ きなこんついたピラが
そよ風に微かに揺れち そん香りが回りに漂う。『うめーこと
お大師様も 喜ぶで』

たかが引きのべちゅうてん 作るとなりゃやっぱ 難しい芸術
作品の食文化でんある。厚さ起伏んバランス 長さ固さ口当たり
舌さわりまじ手先が 器用に作り出した 夏ん見た目 食べた
感触ん一つ一つに 人ん心が込められ 念じられる ヤセウマ。
お接待行事に 寄せらるる人ん思いも そと振り返ち見る。



●●● 方言説明 ●●●

- 3 1 P ザブザブ…美しい水で丁寧に。チッタ…少しは。おきゃ…おけば。〇〇立つ草…勃起するように。ダッタ…疲れた。ウマイモンナ…安くて栄養価のある。
- 3 2 P 旨いけんど…美味しいけれど。タマラン…我慢出来ぬ。けっくしゃ…結構。こげなふうに…このように。
- 3 3 P なかめーか…あいだに。けんど…けれど。ねえんじゃなかうか…ないのではないのでしょうか。そんだけ…それだけ。じゃろうな…でしようね。ごたるが…ようですが。
- 3 4 P ママ…ご飯。じゃが…ですが。どま…など。知らんけんど…知らないけれど。なるほど…ごもっともで。ヒョカット…急に思いだして。オカチャン…母親。クジ…愚痴。オーキニ…ありがとう。ありゅうみよ…あれを見て。リャー…まゝ吃驚。こげんうめーな…こんなに美味しいのは。
- 3 5 P ジコ…準備。ねんき…年間体験。けっくしゃ…結構。手ぼめ、…自分で褒める。だれん…だれも。くれんき…くれないので。シラシンケンジャツタ…本当に真剣に。めくらめっぽう…当たり構わず頑張った。しれちよるけんど…些細な事ですが。エエラシムゲネエ…可愛い上に可愛いそう。わきゑねえけんど…簡単なんだけれど。ヘモドレン…引き返しは出来ないし。シレ Chol ケンド…たいした事はないが。オーキニダندان…本当に感謝。ちゃんがらにゃ…品の悪い負け。タマガッチ…吃驚して。チョコット…ほんの少し。べたんと…べったりになって。つくりゃ…作れば。ヘギ…木製の食器。タヘラク…自慢。オカシュネエ恥ずかしくないかな。さどや…きつと。クレ Chol …くださったから。
- 3 6 P サカリン…最盛期。じゃけんど…ですが。日のつじゃ…日盛りの時間。ポコット…大胆不敵に。ビラ…麵の伸ばした状態。引き延べちゅうてん…麵を伸ばして食べる状態。

食べ物にゃいつも感謝しちこす 美味しくも頂けるもん。そりゃそんな物ん命を 頂いち『美味しいかった』と 感謝する時にそんな物の役目が終わり 頂いた人間がそれに 感謝しち社会に役立つ働きう すればそんな物が評価さるる それが回り回って報いになる 宇宙ん住組みでんありそう。

大昔しゃ取った物を 生で食べていた。じゃきそれに対する体も備わっちゃつたじゃろう。そんな内に『火』を 使うそげな便利さが広まると 焼くことじ味が 見た目が 大きく変わったき 同じ火を使うてん 直接火で焼く 石を焼いた上に 物を乗せち焼く そげな知恵が発達した。

火を燃やした残りの炭が 利用されだすと 炭火で焼く 又水を沸かしち 物を煮る そげな料理がひろがると 物の利用価値がますます ひろがり香辛料ん 作り方 使い方 そげな広がりかる 人間の生きる糧は 取る 料理する 香りを楽しむ 味を楽しむ つけ込んだ保存食を 楽しむまじに。

それでん近世になっちかるは 人間らしい食べ物が 位置づけられち 一日3度食 間食ん癖もつくと さらに祭りやら 仏事なんかにも 拡大した料理が幅をひろげ こん頃ん食事はもう 日常がお祭り見たいな 贅沢じのうでん栄養価も そんな中じ幅をきかすると 美食害も頭を出す。

日本人の体質にゃ備わった 食べ物があるき そん体質にあうんが理想的。じゃがややもすると 栄養主義が贅沢面に 傾くと取り返しんつかん 体調被害じゃつち起こる。労働休息就寝んバランス保持 腹八分健康管理が 理性されれば120歳まで 楽しい有意義な人生 心豊かに過ごせそう。取り越し苦勞せんごつ日ごろん 自制する勇気も 料理する伴侶ん心情も 汲む優しさ 自分がせんとなえ無意味になりそう。



子どもの
ほうげん



守られた先生との約束

入学式の時に『先生から約束しましょう』と 言われた3つの約束。それは言うのは とても簡単じゃつた。でも簡単なようでも それが守れるかは とても難しいようにもあった。機嫌が悪かった松男は 朝ご飯を食べる時も 黙ってコソコソ食べるのに お母さんは『おかしい』と 思いよった。

ちいさな声じ 『行ってきます』コソット 家を出ると学校に出かけた。途中で仲良しん 竹ちゃんとであった。竹ちゃんが様子のかしいのに 気がついたからか 大声で『ほら蛇がそき一 出た』 『なん』 びっくりした松男が 慌てて竹ちゃんの方に走りよって 背中にかくれた。

『あーよかった もう世話ねんき』『……』 松男はまだ顔青くなつたごたるのに 『どうしたらいいか』と 竹ちゃんの顔を覗きこんだ。『松男くん けさどしたんな 元気がねえな』『え どして解った』『すぐ解るで 仲良しじゃもん』『ごめん な 本当はそうじゃつたんで じゃあき 今朝もヤラト ものも言わんじ出てきたの』

『そりゃー悪いわい みんな心配しよるで』『じゃなあ 俺悪つた 竹ちゃん 済まんじゃつたな おおきに』『こんまえ先生も あいさつしましょうち 約束したじゃろう』『うん』『それを守らんと 先生も寂しいち思うで』『……』『もう解ったんならいいき なかつた事に しゅうな』『ありがとう』

やっとおさまつた松男ん気持ち 竹ちゃんち言う いい友達が おつたきこす みんなが知らんまに この事は終わった。仲良しん竹ちゃんのおかげち嬉しかった。そんな時じゅつた 目の前に校長先生の車が停まった。『おはようございます』『おはよう』 ほほえみながら 先生が答えたのに 嬉しかった。

『もしかしたら 先生は気がついたかん』と 少し心配じゃつたが もう考えない事にしち 竹ちゃんにも一度 『オオキニ』とお礼を言うと 竹ちゃんも嬉しかったよう。気がついたら お互いになえ。『うん』 素直になった 松男の気持ちに そよ風が吹き。木の葉がポトリ落ちた。

『ありがとう』『もういいよ 松男くん それより家に帰ったら 元気に ただいま 言いよえ』『うん』笑顔じ言うと もう機嫌が悪くなるなんか 損をするとも思った。先生も気がついちゃらんでも悪い事したと 悔やんじょつた。教室を出た時じゃつた 先生とバッタリ 出会った。

『あ先生 あの』『どしたんな 松男くんじゃつたな』『はい 今朝 学校にくる時 こんめ一声じ言うち きたんです』『そうか よく気がついたな そんな素直に免じて ゆるしましょう』『はい』元気に笑顔で答えると 竹ちゃんの事も話しました。『いい仲良しがおって よかったな』『はい』

約束が危なく守れない事に なるところを 友達があって その友達の知恵が 悪かった事に気づかせたのも 皆んなの気持ちが仲良しでありたいと 思う心に味方して くれたからでしょう。言うのは簡単でも 実行は難しい社会。それを仲良しが ちょつとした気持ちの 出し方で気づき 素直になる友達同志。

皆んなであいさつする そんな中でお互いが いろんな事で助けあうのも すばらしい事と思います。悪いと気がついたら 早くその事の反省をするのが 前に一歩進んだ事にも なると思うんで。人間には失敗はつきもの でもそれを早く気づき 正しい事に変えるのが 勇気がいっても 素晴らしいことになるのです。それに よい友達に巡り会う事も おおきな宝物と思います。そして元気に大きくなってな。…読み聞かせ資料から…。



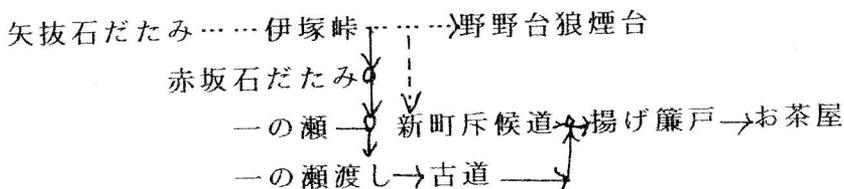
狼煙《ノロシ》台ん役割

江戸時代に野津原は 肥後領になったもので《1600年代》
 当時に 制度化された『参勤交代』に 利用される『御茶屋』が
 野津原本町《当時古町》に 造られた。普通は『お陣屋』ち言う
 んじゃが お殿様が熊本を出ち 4日目に泊まる場所じゃった。
 熊本⇒大津⇒内の牧⇒久住⇒野津原⇒鶴崎まじで4泊5日ん旅。

そん泊まった時ん合図に当時は 狼煙をあげち合図を 鶴崎と
 久住にしよった。燃やした煙りが見えるので 解るけんど別に
 早馬が走ったよう。行列が熊本かる 野津原に向かって進むと
 矢の原⇒竹の内⇒矢抜き⇒伊塚峠に上ると鶴崎が見える。こん峠
 かる『のろしだい』んある 野野台にゃ 役人が知らせに走る。
 又別の道を新町にも走って お陣屋にも知らせる。

この間に行列は 赤坂石だたみをくだり 一の瀬まで下りる。
 一ノ瀬橋を渡って 古道《フルドウ》を通り 新町角を左折しち
 新町土橋《ドバシ》角に向かう。ここじ右折しち 街道宿場町ん
 本通りを進むが あげ簾戸《福城寺前》⇒高札場《姫野自動車》
 野津原神社入口を左折しち 本町公民館横を入り 倉庫の横じ
 左折しち 現在の校門前じ右折したあと 『お陣屋』お茶屋』に
 到着する。

これまでに野野台じゃ 狼煙じ鶴崎と久住には連絡。また斥候
 は 伊塚峠じ別れた斥候は 一足早く新町に下りて 連絡に走っ
 たので 到着までにはすべて 待ち構えていた。



野野台ん『狼煙台お役所』にゃ 常時16人のお役人や そんな家族なんかん60人が 住んじょつたそうな。3つん『いのこ』大きな『井戸』 2つがあり飲料水や 生活用水にゃ 事かかめようじゃつた。それに神社、お寺もあっち 田んぼもすこしあって 畑にも作物 果樹なんかも 風光明媚な場所ん盆踊りも。

ただ高いが故ん不便もあつたごたる 宿場町は目の下んごつ下のほうじゃき 買い物にゃチョコット 歩くこちなっち さあ婦りが上り坂じゃきな ほりゃまあヒズカッタじゃろう。

ここに上るにゃ 伊塚に街道が通ちよるが 他にも岩下や船平やらんほか 山道もいくつかがある。あげな高い所に不思議と 水がどこからか 潜ってくるんか 井戸さえあるき 約60人が生活出来よつたそうな。戦時中にゃ開拓疎開者も入り 神社もあつたが 後に福宗に移築され お寺は野津原に移築された。

開拓に入った疎開者が 熱心に農業して 田んぼにゃ培土機をいれち 増産した努力家もおつた。葉タバコ栽培も船平かる上り 収穫したんはワイヤロープじ 降ろした苦難もあつたよう。今も遺跡としち残る 当時ん狼煙台は 江戸期間ん野津原ん宿場華やかなりしころん 夢とロマンのある文化財じゃろうなあ。

はるかかなたに大分臨海工業地帯 そんなきに望む鶴崎かる佐賀関あたりにも 仄かな昔ん思い出が あるしたちも多いん じゃなかるうか。戦争が悲しい思い出も残した 苦勞した人たちん それ報いられんままに 亡くなつた人たちん 勞苦はどうなるんじゃろうか。盆踊りが目に浮かび あがごたるわな。

老婆がひび切れした手じ あずきん収穫に夢を描いた あん日 あん時ん苦勞に感謝せんとなえ 心痛むしも多かるうが。野の動物だけでん幸せに 過ぎしち欲しいもんじゃが。



『早起きは三文の得』

朝の早起きも三文の得するち 昔かるゆう言いよった。そりゃ余分に仕事が出来る 間違っちゃたんに気がつく 夜のなかめ誰か落としたぬ拾う。じゃきそれだけでん 得になるちゅう訳。

同じ仕事してん元気がいいき よき一出来もするき 能率があるんじゃな。うっかりした間違いが あると先じ大きな損になったり信用が のうなることもある。ぶらっと散歩しよってん近所んしが 落とし物うしちよつたり 役立ちそうな紐が 落ちてよつたりしち それが大けな 役割うすることもある。

それかる 早いと新鮮な空気を吸う 頭が冴えち考えがゆう浮かんだり判断が早え。脳ん活性がいいき 咄嗟に名案が浮んだり 昨日出来んじゃつた事が 『そうじゃつたんじゃ』ち 解決したり 人に出会う事じ 難問が解決したりもする。時間が有効に使われ 無駄んねえ事にも結びつく。

念入りにゆっくりも出来 余分に出来たな 人ん役にも立つき喜ばれもする。余裕があるき 同じ事うしてん 失敗もえし違うてん すぐ修正が出来る。健康じゃき自信がもてるし 次ん行動ん予備知識も 湧いち出てくるき 朝ん30分は 疲れた時ん1時間分以上ん得も するんじゃなかるうか。

健康な時間を使うから 食欲もありそれが 便通にも変わっち全身の 活力ん源にもなっちくる。心が落ち着いち 自信と活気があると やる事に失敗が少のうじ 結果はよりいいものに 心がこめられたので 予想以上ん仕上がりに なるんじゃなかるうか。時間は無駄には出来ない 限られた時間は過ぎたら 帰って来ない過去のものになっちしまう。使わんじゃつたきち ほかんしがつかわれん おかしな決まりでん あるがな。

親孝行ん子どもが 今朝も早うかる街道じ 馬ん糞拾いをしよった。道端にする牛馬ん糞は 畑ん肥料にドウイイカ 朝早うねえと拾うしが多かった。いい按配にガイト拾い 立ち上がった時 じゃった。目の前に馬車引きが どうかしたハズミ 落としたんかまゝ新しい 細紐が落ちちよる。

『ありゃまゝ 落とした人は捜しよう』 そげえ思いながら ゴミを 打ち払うち拾うた。そのまま帰るつもりが 今日は回り道うしち と思ひよったら角っこじ しゃがみくうじ 何事かをしよるごたる。『どしたんですか』 そばによると 下駄緒が切れち 引き抜きよる。

『そりゃー困るじゃろう これ今シガタ拾ったんじゃが よかったらこれで 立て替えちゃ』 『いいんですか』 『いいんですよ 役にたてば』 『立つぐれじゃないわ よかったたすかった』 すぐスゲカエち 履いてみたら 『あー足障りがいい ありがとうございます』 『よかった』 ほっとしち笑顔がこぼれた。

『これほんの お礼の気持ちです』 差し出したんは 懐中に持ち合わせた 旅にはゆう使う 傷くすりん膏薬。『貰ってん いいんですか』 『どうぞ どうぞ 沢山もっていますき』 情けは人の為ならず 思わぬ助け船になったんと。見送ってザルを抱えて帰り道。

早立ちん旅の人か 足を痛めち急ぎのようじゃが ちっと血も滲むごつ痛めちよる。『あいにく草履が合わんもんじ』 『ちょっとそりゃー痛かろう これツケタラ少しは効くかん』 さっきお礼に貰ったばっかしん 膏薬をさしだすと つけるのに加勢した。早起きん物語は まだ続きますが こげなふうに思わぬ事が 人助けになり そんしのお礼が次ん人にも 役立つ世の中 心の助け合い人生 双六じゃろうなゝ。



方言説明 《39P⇔44P》

- 39P コソコソ…静かにそっと。そきー…そこに。どしたんか…
どうしたのですか。ヤラト…たいしたことがない。
- 40P きたんです…きたのです。
- 41P じゃが…ですが。じゃつた…でした。斥候…静かに早く。
- 42P いのこ…浅い水のたまった池。ごつ…そのほうに。ほうじ
ゃき…方向ですから。チョコット…ほんの少し。ほりゃま
ぁ…そうでしたか。ヒドカッタジャロウ…それは疲れた事
でしょう。あげな…あのような。あるしたちも…ある人た
ちも。
- 43P よぎー…たくさん。ちょつたり…であったり。それかる…
それから。ほかんしゃ…ほかの人たちは。使われん…使え
ない。ドウイイカ…とてもよくて。ハズミ…ふとしたこと
で。しやかみくうじ…うっかりかみこんで。
- 44P たつぐれーじゃないわ…たすかります。ツケタラ…治療し
たら。

方言集には現在は使われていない言葉 使ってはいけない言葉
卑下するような言葉 などが出ますが 方言集の性質上ご了承ください。
先人が生活用語として 長い間使われ生活した 宝物と
も言える心の通い合う 生活用語だったりのです。当時としては
文字が書けない そんな時代でもあったのです。

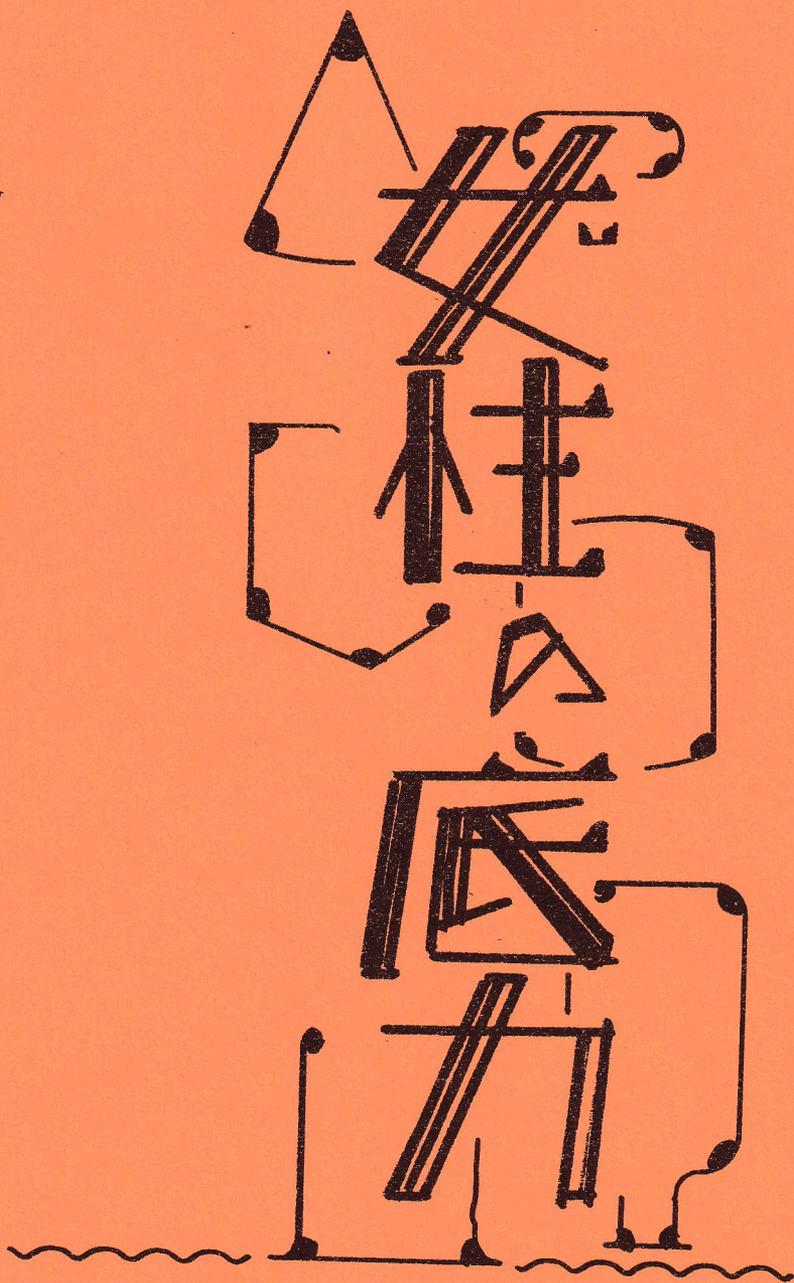
方言には独特の訛もありますが 聞いていると怖いような 言葉
が出たり珍しい意味があったり。でもその中に優しく 温かな心
が通い合う それが方言と思います。街道を行き来して 暮らす
術とした 馬子の五助さんも 人との交流する機会に 他所の言
葉や方言に出会うと 自分も難しい言葉を使うのに 『難しい』
と言いますが だから味があるのでしょう。

子ども向けの優しい方言

シャーシイ……うるさい、静かにしなさい、そうぞうしい性格。
ドオクル……騒ぎ戯れる、相手を混乱させるような、調子のせる。
セチイ……情けなく悲しい、心配が耐えなくて、いじめられて。
メンドシイ……恥ずかしい、気の毒な思いさせて、失敗してしまい。
ヨダキイ……大儀な、疲れてしまって気力がなくなって、疲労が。
オジイ……おそろしい、怖い心情になって、悪い夢を見て今も。
ヒジー……疲れてしまったので、悩みが多いと気乗りが、疲労困憊。
イロチョーグ……色鉛筆、多くの色が入った図画用の鉛筆。

ユキアシ……竹で造った子ども遊び道具『タケウマ』
ユサンゴ……ブランコ、子どもの遊びばかりか大人も懐かしい。
エバリ……蜘蛛の巣を造る糸、強くて遠方に飛ぶ時は風を利用。
センチン……昔は外にあった…ご不浄、便所、トイレ、雪隠。
シイチョル……好いている、鋤起こしする、敷いている。
トビシャク……ハウセンカ、ぴんく色の花は美しい色にもなる。
テマリコ……『あじさい』、雨に濡れ風に揺れると手毬に似ている。
シャツポ……帽子、西洋から入った頃に流行したよう。
オトシ……『ぼけっと』羽織にも内側についていた、洋服は多い。
キジ……散髪に下手がしたので、不揃いな髪の毛のしあがり。

ヨロケ……病身で元気がない、弱々しく顔色が青白い。
ヤケハタ……火傷、焼けただけけて醜くなった様。
ヨコイ……休み、休憩する、定期的な休み。
オマイドウ……あなたたちは、君たち、あんたたち、お前たち。
オオキニ……ありがとうございます、感謝します、世話になりました。
チギ……はかり、度量衡、物はかりの道具、計量器。
ベベンコ……肩車、肩に乗せた子もり、高い所がよく見える。
クサレ……根性が悪くて嫌われる、陰湿な性格、すぐ人を引き合い。
サカシイ……健康で元気、いつも達者で笑顔、生き生きしている。



◎◎◎ 女性の底力 ◎◎◎

きびきひした動きが さすがち思うごつ歴史に くわしい能力
を持ち合わせちよるき 宇曾山ん話しゅしたら 連れなうち二つ
返事しちくれた。で一ぶん前に愛宕山ん歴史を 知りてえち言う
き案内したところ 子どもん頃が思いだされち ほろほろ涙こぼ
した横顔に 自助努力する繊細さも 兼ね備えちよるごたる。

ツタンカーメンの種があったき 送ってくれた心くばりにゃ
感心もさせられたが相手を 大事にする崇高な精神も 持ち合わ
せちよるんじゃろう。念入りにする仕事には 仕上がりん見事さ
が現れち 大人顔負けん成果は執念かん知れん。若いのにちつい
粗末にされそうな才覚に 脱帽した思いがしちならん。

調査に上る山道じゃ 好奇心旺盛な調査の挑戦に 負けまいと
意気込む姿は将来 楽しみな歴史調査ん雄姿が 期待もされる。
消えかかる古い文化財ん痕跡が ひたむきな調査じ 陽にあたる
時にゃ思わん宝物に であったごたる嬉しさが 輝くごたる歓喜
に様変わりしち 調査冥利にもなる。

倒れた石塔をなぜながら そっと起こした側に古い石がある
よもや石器時代の遺物かと 目の輝きが血走ると呼吸まじ 高鳴
りそん鼓動が伝わるごたる。人間の技が石段にされた 苔むした
時代ん勇者の足音を 奏でるように囁く音の聞かれるのも 自分
の心がそこに向いているからか。

『ちょいとヨコオウエ』『はい』 素直に返事したもののなお
見つめた 一点から離れん目の位置。『なにかな』と そこに目
を向けたら以外や 金属の錆びたカナが……誰かがいつなのか
忘れたんか 錆びた赤茶色に染まった 手道具が『見つけちくれ
ちオオキニ』と 頭下げたように……。

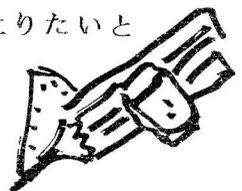
こげな近い場所に鎮座している 宇曾神社の神神の知られざる話に 若い歴史ファンが調査に参加 脚光あびるごたる話題が次々と聞かるる若さと 珍しい始めち知る あげな話こげな話題が 一つ一つ新鮮じ物珍しく 目に耳に胸に能力に 刺激を与えちくれち 取り組んだ機会にめぐり合う幸せも満喫した。

こぼれ話しの中には 知らないづくしの故郷の よさや宝のような話題が 次々に掘り当てられて 勿体ないような喜びに 変わる時そこには神が そっと幻のように現れち 『ありがとう』と 笑顔じ言われると もう感激ひとしお 幻の姿の中に浮かぶそんな 尊いお姿がまるで心の 中まで入ったよう。

振り返ると大変忙しい調査じゃつたが 神さまとの無言の会話の中は 人間やるべき時にゃ やり抜く根性も 巡り会わせた人には またとない機会と 悔いのない心のおもてなしを しないと後で後悔とてん もうそりゃー無駄にも等しいようじゃ。心に浮かんだ時こそが 実行する捨てがたい時である。

あれから10年が過ぎたが 思い出は消えない心の宝物。神と心じ話したあん日の物語 そこにや当時は疑問じゃつたが 今思い浮かべちみりゃそりゃー 現実ん話じあり論された問題でん あったごたる。若かったきかピントは こんじゃたがそれが 世の中の流れでんあろう。

でも心の中にはいつまでん 残るあん日あん時ん びくびくするような 新鮮な興奮は永久に 忘れるこたー出来ない 生涯ん万年暦、宝物になりそうです。霧にけむる宇の峰に うっすら朝の陽ざしが映えて 今日みんな幸せに すごしてほしいと思う気持ちは きっとあの調査の時に 授かったご利益かも知れない。と思うとまだまだ頑張っ 機会があれば調査に上りたいと自分に言い聞かせちよります。



★★★ 女性の 強さ根性、素質、責任感 ★★★

平成24年暮れ《7年前 2012》ん 全国ん100歳以上は5万人を越えち 《大分県な588人》そん内女性が約8割。じゃそうじゃつた。まさに底力を蓄えた 素質や根性 それに責任感が長生きに 結びつく巡り合わせでんあろう。まだ畑仕事が楽しみち 朝早うかる出かけち TVん時代劇が 始まる頃にゃ帰っち来る

早起きもじゃが 規則正しい動きと目的がある 一日ん行動が健康にある幸せに 結びち一た楽しい時間に させちよるごたる。『おまえゃ元気じゃなァ』 近所ん同じ年んしに 誘い水が『いんげ近ごろァ 足やら腰やら痛うじ』 そげは考えられん 若さと笑顔が上手言う こつまじわきまえちよる。

『無理うしなんなえ』『おおきに 無理はもう出来んわな』た言うたもんの 次ん朝どまもう 一足先に畑にシャゴウジョル。やっぱ根性があるわな。そりゃ一悪い意味ん根性じゃねえ 自負心もあり健康に感謝する 心くばりがそげ一 させよるんじゃろう。根性ち言うと『根性腐れ』が ゆうあるもんじゃが そん点なサバサバしちよるき 皆んなかるも好かる。得人でんある。

それに何ちゅうてん 子孫ぬ残す大けな 役割ん責任者でんあるき 生まれた時かる 母性本能が閃き、いい子を生またいと 一途に体調管理に心くばり 栄養や摂生まじしち 微細に日常生活には考えにいった そげな日ごろん心がけも 長生きに結びつく 大きい役割うしよるごたる。

味見もご褒美んごたる 特権でんあり考え様では 毒味的な役割りにもなるが それをあえて甘んじる責任感の 強さが延命にしちくれた ご褒美に頂いたんかん知れん。とにかく健康こそが 幸せん原点でんあるな まちがいねえごたる。

それに何ちゅうてん 素質も大けな比重がありそう。生涯を通じちより楽しく より生きがいのある人生。人は『運がいい』ち片付くるが 自分のよさを生かす 理想的なイノチキも 長生きになるごたる。それにゃどけ言うてん 心が豊かじありてーもんち思う。笑顔がありゃこす 悪魔も近づけん。

趣味が多い事も 交流が広くなっち 有識者とん出会いもあるき 自分の利点欠点のカバー 支えにも役立つ。そこに世間が広く 大きな物知りん 宝物も手中に出来る。受け売りでんいい 知らん人にゃ教え 自分も知らん事は 素直に習う事じ 能力ん以上ん知恵者にもなれる。

知っちょつち損はねえき 使い分けさえゆうすりゃ 『あんなんでん知っちよるなあ ありゃーどけすりゃいいん』『あれはこここうすりゃ あんたも物知り仲間になること』『じゃなあうれしいオオキニ』と まあいい友達んおかげ。じゃき又相手に困った時ん 神たのみん支援 忘れんごつな。

交流が広い事じ 人脈がまた連なるき さらに広い視野と 目が輝いち今まじ 見えんじゃつたもんまじ 見ゆる不思議な現象 友達こす知恵袋でんある。素晴らしいトギが おるしゃ困らんち古くから言うが それが行き過ぎち 自分が天狗になると 世はまさに逆さまの 地獄に早変わりする。

上手な世渡りと 絶やさぬ笑顔で 心豊かに過ごす時 そこにゃめぐり合わせた 人たちの支えがいつもあるき たとえ貧しくてん 心は豊かに過ごせる 人生にもなるんじゃ なかろうか。欲は張らないがいい 欲張れば知らぬ所で 損をしており信頼も失うこちもなる。女性ん底力は人が 評価しちくるるもん。自慢したてんそりゃ なんとかんツツパリもならんき。人がつけた点 シラシンケンなご褒美 徳点でんあるんで。



執念が実らせた畑の宝石

荒れ地まがいな場所でん 根性が取り組みゃもう 土がどけな
んか問題はねえ 心ん通う畑にゃタマガッタゴツ 作物は応えも
くるるもん。手にゃ赤ギレじゃろう 膏薬を張りマエーチ もう
張り場がねえごつ ムゲネー老婆は それでん畑作じゃ売れば
嬉しい現金がすぐ貰いだす。

疎開した場所は寒風も容赦ねえき 冬ん寒さは骨身にゃコタユ
ル。身分はいいんじゃが 戦時はそげな甘えは国賊ちまじ 罵ら
れよったもんじゃき ヒモジイ時でん ウマイモンでん食べとう
でん 金があつたとしてん 物がねえ時代じゃつたき 我慢もも
う慣れちよつた。

時どき『かつぎ屋』が来ると 口水ん垂るるようなもんが 背
の荷物に入ちよる。ソゲナシモ米が欲しいき 現物でんいいん
で 話はもう定期的に来るき 足音じすぐ解る生活にも慣れた。

『久しぶりチリメンが』 コンメー声じ言わんと 腹黒いしゃ
聞くとすぐ言いふらすと セチナゲー。よそ者ん悲しい疎開生活
でんある。『懐かしい里海辺じゃき よう食べよったが』 慌て
て口に蓋をした。目と目の合図に商談成立。丹精こめた輝く小豆
が 新聞紙に包まれよる。

『ここんしなーいつも美しいち 評判がいいんで』『そうね』
痛むヒビが嬉しそうに震える。手先まじ土に汚れてん 我慢せに
ゃこれもイノチキ こげな苦勞もそげー ヒジイトン思わん今ん
毎日ゃ 戦争でん勝ったら また里に帰れるじゃろうち 宛もね
え望みが無性に腹立つ。

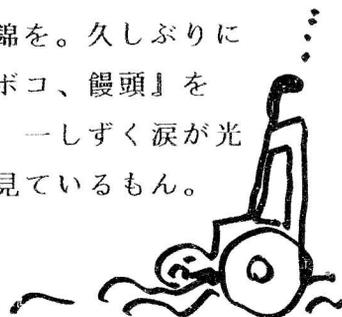
『おばさんなハリコムキ こりゅあげるわな』 肌着ん下から
葉袋を取り出すと 『クリーム』とそっと差し出した。

化粧品なんかもう 縁遠いごたる生活でん 女性にしちみりゃ
そん 心くばりが嬉しい。『やっぱ真剣作ったぬ 認めちもらえ
る』そん 束ん間の嬉しさが 今日懐かしい里ん味と ご褒美
化粧品になった。しみじみ手先を眺めち 『すまんなぁ』そっ
と手先を握りしめ 笑顔がこぼれる異常な 今ん生活。

カンテラに照らし出された 夕餉の一時に昼間ん話が 花を咲
かせたが人の優しい 心くばりに甘えられる 幸せ人生もきっと
頑張って畑に 精出す気持ちに応援して くれるからなんじゃろ
うと 元気で過ごせる事に感謝する。だいこん卸しにチリメン
涙がにじむを みんな囲炉裏の煙りの せいにするが それもい
いいよな……。

『もう残りがのうなったんじゃない』 家族が母親の苦勞を
心配した声に 『ううんにゃ まだあるんで心配せんでもいい』
母親にみんなが 感謝する家族の習慣は 家にいる時からでも
あったが疎開して 昼間は山に行く間に ひとりぼっちの畑仕事
が こんなご褒美に連なるんも 申しわけないと 思うのだろう
が 母親もそれなりに 少しでも喜ばれるよう 繊細な才覚が光
るもの。

夜中にそっと起きた 大きい子どもは 奥の間に入ると何かに
凝ったように 薄明かりのもとで勉強しているよう。父親もそれ
がなにかおおよその 見当はついたがそこは親 素知らぬ顔でじ
っと見守っていた。が何と研究発表会に出る朗報のようじゃつた
。培土機利用の増産が 注目されだして そんな成果が やっと実
ったのである。この家族にして この父親母親にしてと 評価も
さるごつなつた。疎開してもいつかは故郷に錦を。久しぶりに
来たかつぎ屋さん 新聞で見たと『紅白のカマボコ、饅頭』を
差し出してしっかり 握りしめた手の膏葉に 一しづく涙が光
る。みんな嬉しい 苦勞してもいつか誰かが 見ているもん。



◇◇◇ 方言説明 ◇◇◇

- 47 P 話しゅしたら…話をしましたら。で…ぶん…だいぶん。知りて…ち…知りたいと。ごたる…ようです。じゃろう…でしょう。のにち…のにと。よもや…まさか。ヨコオーエ…休憩しましょうか。カナ…農作業の草取りなどに使う道具。オオキニ…ありがとう。
- 48 P こげな…こんな。あげな…あんな。後悔とてん…後悔したとでも。もうそりゃーいまになってそれは。あれかる…あれからは。こんじゃつたが…来なかったけれど。
- 49 P じゃが…ですが。お前えや…あなたは。そげな…そんな事。ことまじわきまえ…こんな事まで気にして。シャゴージョル…カガミコンデイル。
- 50 P イノチキ…生活。どげすりゃいいん…どうしたらよいのでしょうか。トギーともだち。ツッパリ…ささえになって。シラシンケン…一生賢明に真剣に。
- 51 P タマガッタ…びっくりした。どけなんか…どのような物なのか。ムゲネエ…かわいいそうで。コタユル…厳しく痛くきつくなる。ヒモジイ…空腹になって。ウマイモンデン…おいしいものでも。ソゲナンモ…そんな事も、そんな人も。コンメ。ー…小さい。ミセブラカス…やたらと目につくようにして。セツナギー…せつくなけない。ここんしな…この品は。ヒジイトン…辛くもなるが。ハリコム…がんばって。クリーム…美容化粧品。
- 52 P カンテラ…石油をやガスを使う照明器具。なんじゃろう…なんでしょう。さるるごつなつた…されるようになった。

強いだけが女性じゃねえ 平均寿命も優しさも優雅さも 強さがあるき執念じ長生きもしよる。子どもを生む宿命 母性本能なんかが 兼ね備えた生きる責任を 感じちよるき特に 健康にゃ留意しちよる事も そんな秘訣かん知れん。

昔ん夏ん楽しみなこち一 盆踊りがありよった。こか一直入ん文化が強かった地域じ 生活全般がそげな 影響も受けちよつたごたる。口説き唄お年寄りかる 習うちよつた若いしが 『どげえは明日かるでん 踊りん練習するかえ』 『じゃなゝみんながよかりゃウツトわいいで』 自分がでしゃばってん 悪いち氣くばりする返事。

昼ん田の草とりがヒジイケンド コレト踊りや又別な問題じ返事にゃ 氣がもうウキウキしよった。こか一いいこち一昔にゃ習った 受け次いだもんもあるき 口説きがよけりゃ いちも二もねえ触れが さーっと風んごつ回る。若い女ん子はもう 仕事んダリもいっぺんに抜けち なんか嬉しい一時でんある。

そり一好きなしも見に来るかん そげなりゃ尚更早う踊りて一んが人情。年寄りもそげなん事う 見る目もサズなりより どうでんあん娘は あれと仲良しなごたる。薄笑いするなんか昔ん経験者ん 通った道。毎晩2里か3里ぐれは 苦にならん年頃じゃき 晩方早めにりあげち ゴソゴソ湯にハイルド 飯は帰ちかる食う 忙しいきなじ済むもんじゃ。

親もどうせ世話好きじゃきち 割り切ち嘘ち解ちよつてん若いもんに 花を持たする。女ん子がチチラ側じ 何か言いたげな所作に 側におる他ん男を引き寄せち 『お前ちよいとこりゅしちくりー』 『……』理屈は後じわかるが 『いいで』 年よりん言うこた聞くもん。

口説きに合わせち 10日はず後にゃ盆踊りが 皆んなずりに見物やら踊りん輪に入ると お接待もでる。ここでん女ん底力がチラリ目につく楽しい 踊りん夜は更けち行く。



金助海道
定高人物語



杉本鳳山

遠くて近い人間の心理

宇曾山と言えは 子どもの虫封じ 近郊は勿論遠く四国 中国地方にも知られ 特に男の子が生まると すぐ虫封じの御守りを 受くるために 背にした赤ちゃんの 姿も見られ 参れん時は肌着を持参しち 受けたり 御守りを送ってもろうたりする。主神の迦具土神は 火の神でんあり魔除けの神。

かって修験者の山伏が 行のあい間に 里にくだっちゃ 神力と行力で病気を治し 特に子どもの 癩の虫はたちどころに 治したち言う。古くからん靈験が 受け継がれ子どもを 慈しむ親の情愛も伺える。

天狗は仏の世界を守る 四天王の一人多門天と言う。眉をつりあげ激しい形相じ 元来戦いの神でんあった。身に鎧をまとい 7福神の一人としち知られる。鞍馬奥の院じゃ 太陽ん精霊ち言われる。又山中に出没する 妖怪じ激しい感情と 怪力ももつ。清浄を愛し俗界に 近づくを 嫌う。山の修業者ん戒律や 物忌みが形を代えち 一定の像を作りあげたもの。

宝殿脇にゃ一石一字塔があり 大乘妙典 書写は板山氏ち 記されち天狗赤面 白面 小面の白が壁に かけられちよるが 保存が悪いもんじ 傷みがひじいよう。明治 24年大野郡土師ん衛藤米太郎、光幸寄進の灯籠。神域にゃこんほかにも、寄進された灯籠や 名も知れん石塔もあるが 長い期間の風雨の 風化じ記録はむずかしいごたる。しばし休みの間にも 人が光が風が そして人の心が 行き交う流れの中じ 神の前じ思いの ふれあい生き続いち おるような人生ん心ん やすらげる一時が あるようにも思えた。動きこそ止まらんでん 和みの心が広がる そげな場所らしい 心ん浄化は不思議な 思いにもさせらるる。

宇曾とは広い上界 あるいは昔かる 長く続いた広い場所。心が広く思いが叶えらるる と解されちよる。ように聞く。

そげん場所にゆう使われるるようじ かつては修験場とした全盛期に言われだしたち 思われる。宇戸、宇曾、宇蔵、有蔵等とも言われるが 読み方は同じち思われる。宮崎の鶴戸も読みは同じようじゃが 修験場であった のは同じ共通じゃが 鶴戸神宮史にも双方の 関係はだされちよらん。ようでした。

連れのうち若い娘ん 幸ちゃんの怪訝な 『女人禁制』について それとのう聞いて見た。宇曾岳神社も 元旦と春秋二季節ん中日以外は 女人禁制とされちよる。それにゃこげな 解釈ん道もあるごたる。はるばる参道を えーとここまじ辿りち一た。ここじ旅の疲れを癒す 女人ゆえに『休ませて一』 そんな間に男こが赤子背負って 奥の院にお参りする。ように論されたと思う。

女人禁制ん決まりは 遠く普門寺時代 修験場とした当時かる そんな性格を重んじる 戒律が美しい姿としち 残り守られよると思う。決して無理強いじゃねえ 心の底からすばらしい 決まりを創り守り修行する事が 真の修行でもある そこに心ん修行が 大きな役割にも なるごたるです。

男性ん守護ん立場によっち 女性は種族を受け継ぐ 大事な役割を務めるかるこす 女性を大事にする意味も 楽しく感謝しちお互いが 幸せに向かった分担を 全うする時そこに 人間らしさの生き方も 構築されるんじゃかろうか。自分勝手は許されな 生き方こそが自然の 法則になっちよると 思われるるが。

振り向いた幸ちゃんの 横顔に紅をさしたごたる 顔がこぼれたんも 自分が予感しちよつた そげな考えが当たっちよつた。そんな喜びとそりゅう 馬子ん五助さんが ずはり話す自信に 心の底から喜びも こめあげち来たもんじゃき。涙顔が格別に娘盛りに 花を添えるごたつた。神秘的な人間の生き方に よかったと思わず心じ 叫んだ幸ちゃんでした。

そん神技んごたる 決まりゅいつ誰が 決めたんかち追いかけちみてー。雲ん上に居並んだ 神神ん集いんなかかる 甘い神囁くような声じ も一つ知りてえ事も教えちくれた。主神迦具土神は火の神 父母尊ん最後に生んだ神じ こん為に母尊は陰部を焼かれて死去し黄泉国に 降ったとされ そん劳しい母親の事を思い 特に母親は国創りん 主神じあり大地の母じゃき 母を大事にする気持ちん 現れかも知れない。

古くから霊場としち 多くの人たち 特に男性の修行ん場としち より聖地化しち来ただけに そん素晴らしい場所に 人間の苦しみ悩みを取り除くべき 信仰の源を捧げた土地としち より大切にす意味からも 長い間守り継がれた 女人禁制を大切にしちよるんじゃろう。微笑ましい心ん豊かさ。

そん底流にゃ人を思う心が 女性じあり母じあり 国の基じあると解してよいのでは。白い雲がかき消すように 払いのけられると まっ青な空が目の前にひらけ 緑ん山群が美しい春の 絵を映いちよる。今までん緊張さが 和らぐような気持ちになっち そよ風に乱れた髪が 右肩かる前に垂れち ありし日の古代人の美女のように 面影を見せちくれた。

生まれたばかりん子、孫を背に上る祖父、夫婦ともどもに汗にまみれたスタイル。願う所は心は同じ一つん道 幸せを祈る気持ちは 共通の和になっち 転びそうな人に手を 『しよわねえな気をつけなえ』 随所に見らるる人間本来ん 優しい真心が生きている 参道のあっちこっちに。

色白んおとうさんの 流れる汗を拭くお母さん。背中の子は首を回すと そん風景にニコリする。『チュ チュ』小鳥が慌てて飛びながら 眺める風情はまさに 幸せそのものの お参り風景でんあるごたる。

母の優しい子守歌 懐かしい幸ちゃん

目を閉じると松の枝から 身軽に飛ぶ一本歯ん下駄はく 天狗の
姿が雲か霞か まっ白い空間に浮かぶ。その顔は怒っているようじ
あり 優しい慈顔にも受け取れる。苦しみ悩みを背に はるばる上
る山道 一条ん光を授かる時 全身に染み渡る靈氣。この世のもの
とは思えぬ 骨の髄までにチョコット 我を忘れち立ち止まる。

真っ白いご弊の紙の白さがマバイイ。炎のその赤い部分が霞むな
感謝の ありがたい涙か。だいぶん前に なるけんど優しかった
母の愛情知らぬんまま 今ん母と幼くしち『松葉かき』 草きり籠
ん中じ聞いた子守唄。一節一切にこめられた 子を思う愛情ん唄。
子を持ち知る 母の愛情ん偉大な力。多難な子育てや苦労は 言
葉にゃ出さず 聞かなかったけんど 心は暖かい思いやりん 持ち
主じゃつたんじゃろう。山の自然の中の神の 素晴らしさと母性を
大切にす 長い間の先人たちの 取り決めはもっと もっと素晴
らしい根源を もっちゃるごたる。

世の中ん仕組みをもっと 大事にせにゃとん思う。幸ちゃんも母
の残した 人を大事にしちこす 自分も大事にさるる 人間の決ま
りみたいなのん 年をとっちみりゃ ちった解るごたる今 道連れ
になった五助さんの 『だてにゃ年う取っちょらん』ち シャツポ
脱いだ。そりゅアザ笑うごつ 小鳥が側近う来ちサエズリヨル。

子どもが参るちゃ 5銭もモッチョリヤ 飴がたん包み、餡コロ
でん ニッケ水、そうそう一里玉 まあそげな所かな。ピラピラ
ツージ トビヨッタが 時々ホラケチ スリムイタリ。子どもに
しちみりゃまあ 冒険の出来る年頃じゃろう。幸ちゃんも実母こす
早く別れたけんど アトヨリお母さんが イイシジャたき イジケ
ンいい育ち方うした 名前んごつ幸せじゃつたごたる。宇曾山なこ
げな思いで 夢なんかも残せる 大事な故郷ん山でんあった。



§ 宇曾に出ようか 荒木に行こか 四辻峠の思案顔

ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ §

馬子の五助さんが 得意の喉を試した。『やっぱ馬子歌は 五助さんに限るな』『や オダツルト止まらんごつ ナルド』 本当はいつ声がかかるか 待つちよつたんか 知れん。そりしてんまゝ 連れのうた 幸ちゃんもなんと ゆう知っちよる話し相手 に五助さんもドンクレ 楽しかったんか 笑顔じゆうわかる。

夢多き故郷ん山

霧が流れ雲海に浮かぶ 有蔵山ん雄姿 木木が濡れちにくく光るさまは 長年の風雨 雪に さらされた年季の 現れかん知れん。幸ちゃんの言うごつ 美しい山優しい山そしち 謎と夢とロマンを秘めた山 四季おりおりに ドコカル眺めてん そげ一思うんは私一人じゃなかるう。移り変わる幾千年の 回想んなかにじっと 見つめち来た山 天と地 自然と人 男と女 この世の人々の為に心のより所として 里の人たちに愛されて来た山。里人もこん山があっちこす 悲しみにつけ 秘める日につけ 心じ叫び目を閉じち 念じた幸せ 愛情を木木の葉音に 鳥の声に乗せて伝えてくれた山。

そん昔 太平原に突起した山群 御座岳には親竜が 精進岳にゃ 兄竜かそしち 宇曾岳にゃ妹竜が 住んでいたとか。それぞれがそん立場じ波風立てずに 暮らしよったが 美しさ優しさに勝る妹竜は人目の憧れん的じゃつた。ある干ばつん年ん雨乞いに 親竜兄竜とともに妹竜ん山にも 祈願の狼煙が立ちのぼり 3日3晩続いち炊かれたので 恵みの雨がやがて降った。

里人の喜びは大きく お礼参りの行列は続き やっぱチケー宇曾山にゃ 特に多くん人が参ったとか。それに比べち兄竜ん山にゃ

少なかった為に ご機嫌斜め 心配した親竜が 兄妹竜ん仲を
心配しち お礼参りん宇曾山に行くしを 止むるこちした。それ
以来特別ん日以外は里人は 遠慮したソウナ。心んより所でんあ
った山の 掟とありゃ守られた そんな気持ちもゆう解る。

§ 行くに行けない 宇曾山道の 決まり悔しく涙拭く

ハ 七瀬のせせらぎ もみじもチラホラ ホイホイホイ §

あの岩角から木木の 合間から幾百年も 幾千年も続いた 人
と神との関わりあいには いろんな形じはじまり いろんな形じ受
けつがれ そりゅう残しちよることじ 生きちよる。雨にうたれ
たり雪うかぶり 流れ風に飛びさった山ん 頂きん土や砂や小石
なんかも 里に降り作物を育てるに 役立ち落ち葉が根元に積も
り そんな養分が花を咲かせ実がつき 自然の繰り返しの中じ 常
に里人ん為に役立つ 自然界の霊地にゃ 目にこす見えんけど
心の中に入りこんで 気持ちの通じ合うものを 宿しているの
じゃ なかろうかち思う。

宇曾山をふり仰ぎ過ぎ去った さまざまな山の囁きが耳に聞こ
えてくるよう。古いもんに接するこた一 出来んでん心にそっと
語りかけちくるる 長い間の夢物語にゃ 幸ちゃんの言う 全身
が引きこまるるごたる 木の揺れ草の囁きに 古い人たちん幸せ
ん境地が 目の前に浮かんでくるよう。人それぞれの見方 考え
方はあってん山を自然を 人を愛する人間になる事は それだけ
得かもしれんよう。心も豊かにもなれる。

多くの人たちがそれぞれの 思いを抱いて上った山 宇曾山は
語りかけなくとも 自分の心の中に何か 囁かれているとすれば
まさに 神の声がそっと話しかけている そうではあるまいか。
聞きたいから聞くではない そっと聞こえて来る そんな幻想的
な言葉は まさに心の絆が あるんかん知れない。幸ちゃんの言
う まさに『幸せ人生かん』知れないが。

宇曾山



△△△ 方言説明 △△△

- 55 P もろうたり…貰つたり。くだつた…下つて来た。たちどころに…即座に。ちよるか…ているか。ひじいーよ…ひどい
のでは。しばし…少しの間。そげな…そのような。
- 56 P されちよる…されています。そげな…そんな。りゅう…それを。
- 57 P じゃあき…ですから。じゃろう…でしょう。なつて…なつて。しよわねえな…大丈夫ですか。気をつけなゝえ…気をつけて用心して。
- 58 P チョコット…少しの。マバイイ…まぶしい。じゃつたんじゃろう…でしたのでしょう。もっちよるごたる…持っている
ようです。シャツポ…帽子。モッチョリヤ…持っているのなら。ピラピラツージ…元気よく走つて。トビヨッタ…走っていた。ホラケチ…転んで。スリムイタ…すつて傷ができて。イジケン…気分が優れない悩み我慢して。
- 59 P やっぱ…やはり。オダツル…調子のせて。ナルド…なりますよ。そりしてんまゝ…それにしても本当に。ドンクレ…どのくらいか。ドコカル…どの場から。あっちこそ…あつたからこそ。雨乞い…雨を期待する祈り。やっぱチケー…やはり近くて。
- 60 P ソウナ…そうですか。そりゅう…それを。生きちよる…生きていますので。なかるうかち…ないでしょうかと。くるる…いただけます。ごたる…そのような。あるまいか…ないでしょうか。

虫封じの神 安産子宝 商売繁盛 更年期厄よけ 火伏せ 学業
成就など 霊験あらたかな 宇曾岳神社のこれからは 人のより所
としち 優しく愛しいたわり 支えてくれる場所としち 多くの人
たちにさらに親しまれて 行くんじゃろう。路傍に咲いた一輪の花
にも 生命ん尊さがあり風雪に 生き抜いた念力は肌に伝わる。

あん山の頂きに上っち 踏まれてん次の年にゃ 芽吹いち迎えちくるる草花 樹木の一つ一つにゃ無言じあるが 安らぎも感じさせちくるるき 不思議な喜びも こみ上げちくるよう。

★ 神楽は心ん響き 生活んリズムでんある ★

ご願やお礼に奉納する神楽 そんリズムを通じて神に 仲介してもらう神楽。一頃は請われると外にも 出向いて奉納もあつた。大祭に地区内を巡幸した 御輿のご神体は 一の鳥居からは 車上の御座となり奥の院御殿に 奉帰される習わし。帰着御着院の神楽も伝統を護り 夜半の御戸開きと共に 由緒幻想な行事。

応永年間に主従として 神楽師の名前も見らるる。祇園神楽の流れを汲むとされ 能登神楽は京の雅な所作の舞い 大神など8つの舞が奉納されよつた。それには神楽唄もあっち 口うつしに伝承されちよつたが 若い人の不足や 世話する人たちん関係じ一時絶える そげな憂き目になちよつた。じゃが若い人たちん意欲は そりゅう復活させち 舞うようになった。

九州地域ん勇壮な神楽拍子 それに連れなう激しい舞とは 異なる優雅さは心を引き付ける。4人舞などが継承されて 祭りには若い人たちの 古い真髓が楽しめる神楽も 堪能できてそれに親近感を 抱く人たちも最近は 多いようでもある。大和からこの地に入って400余年 人の技は素晴らしいものでんある。

神仏との関わりあいを大切に 時には神を表面に出して 過ごす里のひとの心の中にゃ 常にお互いの幸せを 里の無事を念じて来たのだろう。神がやがては仏になると言う その仏も時には神の代わりをしたり 仏が閻魔となり神に変わった 長い歴史を辿ると周辺地区には 神仏の碑にもたどり着く。そんな過去の人や花や物に 護られて今日も生き続けて いるようにも。

舞



その昔かる聖なる山としち 自然の中にさまざまな 関わりあ
いを持つ動物、植物が 太陽や水、空気に育てられた事を 思う
と自然の恵みの有難さに 心から敬意を表さねば。つつい過ぎ
ると忘れることは許されない。ましてや忘れたふりゅう するな
んかはモッテノホカ。

天狗が空を飛び宇宙ん神が 舞う時もきっと大自然界では 衛
るべき事を厳守し 感謝すべきことは あらゆる方法で報いたで
あろう。コックリ頷いた心の中にも きっと共通する思いが 駆
け巡ったんじゃなかろうか。幸ちゃんの立ち上がった 姿体かる
まるで青空に 抜け出るごたるスリムな 喜びを感じられた。

§ 二の瀬三の瀬 無事瀬を渡り 宇曾の浮動に笠を脱ぐ
ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ §

◎◎◎ そして奥御殿の造営 ◎◎◎

宇曾岳神社ん奥御殿は宮大工 佐藤金蔵ん作ち言われる。その
造営にゃ息子長平も使われていたが 素晴らしいものにするため
ん 彫刻は特に気を使い あちこちん宮を見てまわり 自分ん
納得する原案が浮かぶまじゃ かからんじゃつたち言う。主神の
迦具土神は火の神であり 秋葉様じあるき 円福寺じゃ毎年12
月24日に 秋葉祭りしよったと言う。さまざまな人間の心の
現われがいろろな形じ 素朴な生活ん中に 生き続けているのん
大事な事じゃろう。

円福寺庵にゃ馬頭観音も座している。かって宇曾山の裏道ん
各所かる 野津原に越しちくる峠も 自然人通りがのうなった。
もんじゃき 随所に奉られちよつた さまざまな仏もここに移動
されて 地元ん人たちのご供養が なされているのも 豊かな心
の現れでんあろう。

宇曾岳神社参道これより1里2丁ん 碑が恵良ん下原にあった。大正12年に小出ツナが寄進したもの。山際かるん道は昔ん本通りじすぐ上手に34丁の標表がある。そん脇に明治39年に《1906》 建てられた浮動明王像 通行ん安全ぬ護り里人ん幸せも念じ 急な坂道じゃき 牛馬んアブネ場所でんあった。上ん原かる登った山道にゃ 青面金剛菩薩の庚申搭も 宇曾山道ん案内をしちくれちよる。《1776》

§ あん娘としごろ 姉さんかぶり いつか覚えた馬子唄を
ハ 七瀬のせせらぎ 小雪がチラチラ ホイホイホイ §

およそ6000年の昔 南北九州の接点とした 縄文文化の黒山遺跡一帯にゃ 人の暮らしが営まれちよつた。夜明けの祈りは宇曾山かるはじまり 東に聳びゆるこん山に 朝の陽がさすと 競っち礼拝今日の無事を念じた。それは人の心の素朴な 現れでんあるが 心のより所とした 先人たちの気持ちをうけつぐ 情仕種かもしれない。高い山の陽の光を 心の安らぎとした 人間が一日の暮らしを 無事にと願う信の現れでんあろう。

そこに宇曾山信仰ん 夜明けか約束されていた そげにもなるのは素直であろう。天神免、ひととき田など、神仏えのお供えとして モチコメを作り献上する。神仏と人間が関わり合う 精神誠意な生き方が形づくられている。お供えする餅は『おみすがた』と言い さげて頂いても 焼いて食べてはならない 火の神に供えたからでもある。

その火こそは人間社会には 絶対必要な物でもあり 火、水、空気こそが 生きられる大切な3要素でもあろう。が当たり前になっている現在 感謝して関わるのは 果たしてどの程度までか過ぎて 忘れるのでは生きる意味があるのだろうか。感謝するそれこそ 必需品であるはずなのだが。



※※※ こぼればなし ※※※

野津原中心部から 山上本殿までおよそ5キロ。昔は1合目ごとに仏像が立っていたが 明治になっち廃仏希釈の 令によっち取除かれた。その何体かは辛うじて 参道ん草影木の根に 安住しちよつた。いつ誰が寄進されたか 知る由もないが 当時1丁目ごとにあった 石柱と共に寄進者の 気持ちが忘れられるごたる 仕打ちにはほんの幾つか残る 当時ん面影が年月ん 風雪に名前も読み取れんが ありし日の善男善女が 一途に願った思いが 忍ばれる。

虫封じの神としち靈験は勿論 水天宮は安産の神として 知られち愛し妻が『身ごもる』と夫は恥じらいも秘めち 参拝したもの。子どもに対する愛情ん発露 授かった子が無事に育つよう 山道を真剣に登ったあん日。生む時ん妻の苦勞に比べち 男ん気持ちはもう 語り尽くせぬ事思うと あの夜の事が走馬灯のように 蘇る。

青年団活動も春秋ん祭りにゃ 事前の道掃除手入れ継続されよる。若い人たちん純真な行い 地区ん人たちだけじゃのうじ 参拝する人たちにも すがすがしい思いになってほしい 美しい山のイメージが含まれてもいる。団員のこん自主的な行動は 広がるようにみんなが美化に 関心もよせちよるごたる。

南郡かる参った人ん話によると 若いお父さんが子どもん願かけしち 小学生まじ無事過ぎたもんじ 近所んお宮に約束果たした お礼参りに参った。『貴方はお礼参りの場所が違うのでは』と言われ赤くなつたと言う。こちらからも お取り次ぎはできるが 子どもとともにお参りするよう 諭されたと言う。

毎月参りの人がつい 酒に酔いつぶれて 一日遅れの お参りになった。目の前に大蛇が現れて進めない。そうだ遅れた『申しわけありません酒をやめて きちんと参ります』と 唱えた途端大蛇はパット消え 木の枝が横たわちよつた。以来禁酒したとか。

初詣でする人たちの中じゃ お供えしてあげてある お供えを受けて帰る人もある。正月雑煮として頂く 今年もよい年になりそうと 家族が平穩円満に。このお餅は焼いて食べるのは 火の神のお供えだからいけない。

§ お供え受けて 雑煮が染みる 今年じゃ春からえびす顔
ハ 七瀬のせせらぎ 獅子舞いピーヒョロ ホイホイホイ §

石を積むことによって 神の降りる場所を知らせた 人間の心は山と石との関わりなどと 変わりながらいつも 心のより所としていた。若い娘たちが陽を受けて 肌をさらす風習が 一頃あったがそれも神の求めるものではなく 日光お受けて不衛生な面の消毒を兼ねた健康法の一つで あったのかも。

6年生に進むと祭りの書記に雇われ 本殿や拝殿で書いた時代も。当時は書けない人もあった時代 そんな方策もされよった。

神鏡が盗難にあったが 早く気づいて無難にでき 辛うじて難をのがれたのも不思議な事。クヌギを切って売却 資金で舗装した時代。昔は道は影べらを通り 陽あたりの場所には作物を植える生活能力を充分に発揮した。大津神社は女神であるので 時おり男神の宇曾さまが神幸したよう。木の上三差路にゃ待ち構えの人たち 待ち焦がれ一幕もあったよう。

拝殿での料理にはトーガラスシが 多量に使われるがイタミ防止や 寒さに係を護る配慮も。拝殿下のくぼ地には 年中清水が沸き干ばつでも涸れなかった。のも竜神様を大切にしているから。お浮動様や仏像にたったまま 〇〇〇〇したら忽ち天罰があったのは 谷底に落ちた例もあったり 腫れ上がった珍風景に。山の神秘性と神と人間との 関わりを大事にすべきを 教えていたのでは。



大津神社の玉垣には 入蔵橋本壺郎寄進の名前や 知るべの人の名も見出せる。やはり古い縁故が故の 関わりが根強くあるのだろう。娯楽も医療も乏しい頃に 健康がいかに大事かが そんなに敷かれちよつてん おかしゅわねえのん 人ん情愛がすべてに優先 しちよつたんじゃなかろうか。肥後街道も側を通るのん 懐かしさと優しさが交差 しちよるごたる。

語らいは歴史である 古老たちが聞き伝え 言い送るその言葉 中には 人の情けと神仏との 切り離せない縁があり それを護り育てて行くことにより お互いの生きる幸せや するべき事えの決まりが 正しく護り抜かれて おるんじゃろう。消えてしまった多くの 例も機会があつて この中に入れる事が 出来たらと願っちよるんじゃが。思う事の多いんは そりゃー嬉しいもんじゃ いつん日かこん冊子が 起爆剤にでんなりゃ この上のう幸せでんあるき。

§ 神楽囃子に更け行く夜は 濡れて見たいよ鈴ヶ滝

ハ 七瀬のせせらぎ しぶきもたのしゃ ホイホイホイ §

多くの人に頼られ愛され 長い年月の映り変わりの中で じっと見つめた宇曾山 修験者の白衣がなびき 下駄の音が響く 岩と木と草と水と その自然の姿が今日も保たれて 里の人の心のよりどころとなっている 宇曾山。目を閉じると古松に鳴る 風の音が厳しい過去の 幸せ造に力をそそいだ 先人たちの姿が 緑の木木と美しい水に 浮き彫りされるよう。

耳をすますとさやゆれに せせらぎの音に住み慣れた 故郷の母の香り 父の汗のリズムが 伝わってきます。風が止まった 竹の調べが静かに空間をきって 流れる束の間の場面には 妄想と勘違いされそうな 刹那が襲いかかるような 錯覚まで起こすのも なでか幸せになる。

宇曾山と音との交差は 古くからさまざまな形で 生まれ伝えられて現在に続いちょる。神楽太鼓の響きは お下りの囃子が 鳴り渡る 人のどよめきが大地をゆする そして神の声が 人の声が喜びを表して 世の中に響き伝わって行く。音と人の心のふれあい 喜びの音や悲しみの音 さまざまな音に迎えられ 人は生まれ生かされ そして去っても行く。

周りの自然と交差して 故郷ん宇曾山は 昨日から今日 そして あしたに向かって 音とともに移り変わっちいく。木の実の落ちる音 木木んふれあい 霜のくずれる音 松に風 社を抜ける風 野面を這う風 芝吹き上ぐる風 鳥の鳴き声 雨 落雷 しぐれ さみだれ 粉雪 夕立 水車 夕立雲 あかね雲 入道雲 稲光。微妙な風にも命がある。

かげろう 草いきれ 土ほこり それぞれが独特な 動きによっち 音が違うんも 面白いし 懐かしいし 悲しい切ない事にも連想さるる。みんなそれぞれん 役目宿命をもっちよるんが 生きちよる証なんじゃろう。強く優しく きらびやかに 澄みきった 輝く うつくしも 恥ずかしくも それぞれが 生きた証残して 宇曾ん山にゃ今日も 賑やかな移り変わりん 場面が展開もされちよるよう。

紫の幕に閉ざされた 奥ご殿の中にゃ石祠の戸を 静かに開くと主神の 迦具土神が鎮座ましている。燃え立つ灯の中に浮かびあがる 主神の姿 目を閉じると一年一度の お神幸に喜び心待ちした笑みが伺える。『お移り願います』心の中で申し上げる 息つまる一瞬のそれはごく短い時間であっても 実に長く重苦しい大切な一時でもあるよう。祭典の御輿に移って頂く神儀は無言。の内に厳粛に祭事される。

静かに御輿に封印を結ぶといよいよ御神幸。微かに木木を揺らした風の音が澄んだ心の安らぎに合わせるように。



△△△ 方言説明 △△△

- 6 3 P ふりゅうするなんか…素振りをして謙虚に。モツテノホカ…予想以上の考え。ごたる…ようです。じゃつたち…そのようでした。秋葉山…火伏神をまつり火難除けに。円福寺…宇曾山の起因に関わる寺院。
- 6 4 P アブネ…危険で。しちくれちよる…してくださった。そげにもなる…そのような結果に。おみすがた…神様の真心が入っている餅。
- 6 5 P しちよつた…していた。だけじゃのうじ…それだけでなく。よせちよる…寄せてある。ちよつた…していた。
- 6 6 P 受けて…頂いて。かげべら…影のある場所。大津神社…木の上に鎮座する神社。イタミ防止…腐敗などの予防に。
- 6 7 P 知るべの人…知っている人。敷かれちよつてん…決められていても。ねえのん…ないのも。しよつたんじゃ…していたのでは。消えてしもうた…消えてなくなった。竹の調べ…尺八の音色。
- 6 8 P ちよるよう…されているようです。

★…… § § § 結びに寄せて 多くの皆様ご協力 資料提供に厚くお礼を申し上げます。1988年に調査した 原本から構成した 五助街道 宇曾山物語 です。§ § § ……★

こん地区じいろんな形じ 里づくりに大けな役割を 果たしちくれながら散華された もろもろの人たちに 円福寺や宇曾山の神仏は永久に ご加護念じて結びに筆を進めましょう。高い山の上 岩と岩の間じ火を燃やしそれによち 悪を焼き払う信仰心は 儀式ん中じ神仏が共存しちよつた事を物語る。自然の中にも海山川草木に至るまじ 神は存在恵みと存在を支配自在にしていた訳で そこに信仰による封じ込めの 手段が生まれののかも知れない。

- § 霧の米山殿坂のぼりゃ 笛の調べか御所の森
 ハ 七瀬のせせらぎ 虹もたつ ホイホイホイ §
- § 七瀬川には貴方と二人 苦勞する瀬も淵もある
 ハ 七瀬の清水にゃ 小鮎もスイスイ ホイホイホイ §

新緑の合間にツツジの芽吹きは そんな芳香が子どもん発育に よいと解くしもあった。野バラの芽が茅の木に ツルをからませち精一杯伸んじよる。山ユリが緑鮮やかな中に まっ赤な花をつける頃にゃ 草いきれん暑い草原を 夕立雨がザーと音たてち降らせち行く。

600メートルん高さは自然界の いちばん人間が生活する適地とか。暑かった夏に咲いたカンナが チットンズツ秋ん花に交替しよると柿が熟れ 里に赤トンボも山肌 に飛ぶ。季節風がそよぐと厳しい寒気が ノソツ山ん向こうに顔う出す。灯が侘しくなりそんな夕餉に ダンゴ汁がゆう似合うんも 故郷らしい情景。

何か言うちょきて一語り伝えて一 人う引き付ける力ん心燃ゆる囲炉裏ん周り。苦難に明け暮れた皺ん顔から 聞かるる珍しい話がキラリ 光って飛び出すと五助さんも 鬢ズリデーチ鼻水すする。顔に似合わん優しい心くばり 福よかな気持ちが外の 音ものう降る粉雪になんかゆう調和しちよるごたるき 更け行く夜を飽かせんようじゃ。コイサも冷えそうじゃが、話しゃ途切れんもん。

初春ん鶏ん声が山肌にひびき 岩や木 山や水の周りからそっと囁きかける 神仏や天狗や もろもろん生き物ん声は 人の心を慰め幸せの明かりを贈り続けてくれるよう。梅に鳴くウゲイス 南天の実をついばむ小鳥の声にも 生きるしあわせを味わいつつ 巡りくる春を迎える宇曾山。『じゃき大好き』ち幸ちゃんも声が出た。

- § あん娘としごろ 姉さんかぶり いつか覚えた馬子歌を
 ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ §



宇曾山の関わりがあったのか 三重町にある本城山《440, 1メートル》 県道718号を進むと前面 フタコブラクダの背のような 山が見ゆる。それかるも周りゃ楽しみつつ 急カーブかるヘヤアピンカーブ。ココマジ行きゃもう 頂上に宇曾神社ん案内板。一步上がるごつ景色が なんとまゝ絶景になる。

虫封じん神ちあるき 宇曾神社ん分霊勧請によるか いずれにしてん故郷にある 名前と一緒にゃ懐かしい 情感が湧いちもくるもん。五助さんどま聞くと 『や馬子唄』ち すぐ断われんき手綱が まわりでち 『宇曾んおばねにゃ ほかにゃねえどありゅう 見よそう松《待つ》ばかり ハ 七瀬のせせらぎゃラサラサラサラ ホイホイホイ。

虫封じに効くちありゃ いつん頃かに参ったしが なかなか参れんしのコッー 気のどくに思うち ここに勧請したんかん知れんもんじゃ。急な事じとりあえず こじお願いしち 後じ折っみち参るそげなこたー ゆうありよったもんじ そげな真剣な心気持ちん 現れでんあろう。

『ゆうなったき』 ここかるお礼参りじゃねえ そんなにゃ子も連れち野津原ん お宮に参る気持ちが 大事なことでんあろう。わらじがけじ参るんも 仕方なしに参るんじゃ 意味も薄うなるうが 心がこもっちょりそれも 手立てでんあろう。お賽銭ぬ忘れたち頭さげよる いいんじゃねえ 人間時にゃそれもあろう。

本城山が雲に隠れたら どうやら明日は雨になるか。神様はそげなこたー関係ない 人間でんそうしたもんじゃ。ただそこに心がはいっちょるかが 問題じゃろう。金目によったご利益たきいたこたーねえき 人それぞれん気持ちがありゃ いいんじゃあるめーか。それが本当ん姿じゃろうき。

△△△ カラスの案内してくれた宇曾山 △△△

旅を続ける親不孝な若者が 麓に辿りち一たなもう 日暮れ時じ道ぐるん小屋じ一夜を身寄せした。美しい月が山ん上に上ると 疲れた体は夢を 追い続けた。そんなうちカラスが来ち 散々つつかれち拳句にゃ『親孝行する気がありゃ あん山に登れ』ち諭された。目が覚めちぼっかり立つ山 ほいち木の枝ん烏に そそのかされちか烏ん飛ぶ方向に空腹かかえち 身を進めちみた。

谷ん水飲みグミクリアケボなんか 食ぶりゃそれも凌げた。長い旅ん間にツカエタ親えの思いも 道すがら頭をよぎり心ん片隅じゃ 国に走る痛恨ん涙。『カラスありがとう』ふっと気がち一たが 烏ももう山ん上じ木の群れに。坂道を汗にまみれて えーと登り着いた時 目の前には白衣の天狗が立っちよる。烏に先導された若者も はっきり 目覚めたこつ一告ぐると 烏も天狗も姿消えちよつた。

石ん社ん前に立っち心に決めたこた一 親に対する不幸ん遠回り道じゃつた事。山を下りち『村おさ』にこの旨告げ 再会約して引きあげたが 烏は神の使いとしち大事にされちよる。障子岳と二重写しん頂きにこんもり茂る木木。まっ暗い夜のひととき 揺らぐ灯ん中じ野面がぱっと明るく 浮かぶ童画んような シルエットとしち写しださるる 影絵んごつ故郷ん山は格別に美しい。音と光ん幻想に目をツブスト そんな影かる浮かぶメルヘン。そしち移り行く。

静かに降る粉雪に時折竹折れん音 山んしじまに響き 飛び散った粉雪ん下にまっ赤な ナンテンの実が愛くるしく ほほえみかけちくるるごたる。乳を流したごたる霧がかけた狭間に 山吹ん黄色が目に染みる。やがて桜がつつじが ふじが匂に合わせち周りゅ 飽かせん優しい心配りじ 目を心も楽しませちくるる。宇曾山ここに人と自然と関わりながら 歴史はくり返される 故郷の山ここに。



五助

南
東
西
北
南
東
西
北



『一目千両ん山桜』

光吉う過ぎち西に進むと 霊山かる始まる春ん景観 山桜開花
ん時期にゃもう目を奪わるる。緑が黒ずむごたる えーと寒さか
る脱皮する寒風ん中に ポツリポツリ咲き始むる山桜。そん花が
目にシャント解るごつなると 平地にゃもう花ん季節に かけ足
じ来るに山ん開花は ごく自然に推移するんもいい。

そん速度こす遅いけんど 片方ははっきり目に焼きつくごたる
に 片方じゃえーと見えたとる 不思議な自然スクリーンが
毎日移動するもんじゅき 目を真剣楽しませちくるる。霊山んが
『でーぶ広がったなァ』ち 言いよると次ん朝にゃもう 宇曾山
へんまじ進んじよる。

次ん朝にどまもう吉熊かる羽原山へん まじひろがっち霊山ど
ま もう満開になった。『あげー桜があったかなァ』 いつも見
よる年寄りしも まるで毎年植えこんだごつ 桜が増えちよる。
山ん手入れがこん頃ァ お留守になっち雑木が センショ張りな
がら増えたけんど やっぱ山ん手入れがねえと 山は荒れよる。

そげな中でん毎年健気に咲いち 遠くかるでん目を楽しませち
くるる 山桜にゃ日本人の心が 吸い寄せらるるんか 毎年繰り
返しん苦情が出てん そん瀬が過ぐりゃいつん なかめーか忘れ
去らるる宿命でんある。10日もすりゃ山桜ん 咲き移動は原村
かる今市に入った。国道442号は格好ん景観ドライブ。

荒れた山にも素直に今年も 咲いち遠くからでん目を 楽しま
せちくれた山桜。元気に夏も乗り切って又 来春の春に再会して
えもんじゃが 手入れもしちゃヤレンガ ご免なせめてもサカシ
ュウシチと 心じ応援しちよるきな。健気に頑張っちょきゃいつ
か いい事もあるち思うきな。

やんがち原村かる下詰にかけち 大分ダムが完成する。春にこまじ来て湖面に写る そんな山桜ん美しさは格別じゃろう。美しい水はふった雨が何年かしち 湖面に集まっちくるが そんな水だけでん自然のご褒美じゃに 山桜んお招きまじなると じっとシチョレン それが人間本来ん欲望かん知れん。

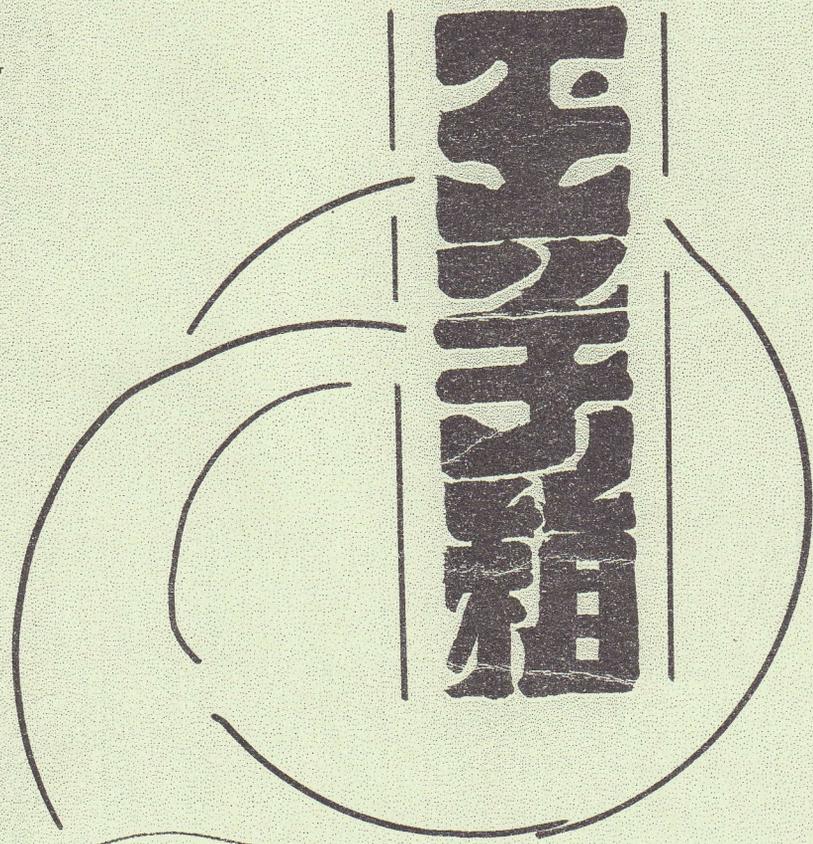
作る話が始まっちもう 50年ぐれなるかん。そんな頃は大分市ん人口が150万人ぐれに なりそうな移り変わりじゃつたが 時代が変わり経済が世相が いろいろ変化もあっち 人口も若いしたちが都市に集中 高齢化社会にはなったもの 小子化が進んじ予想ん設計図は 夢になったごたる。

工事がだんだん遅れち 一頃は中止ん話になったり 予算措置が不況じ延期ん憂き目。じゃがやっぱこげな美しい水は 勿体ない資源でんあったよう。再度工事進捗になっち ダム湖予定地かる移転した犠牲者も もうそげな悲しい物語は 幻がごつなつたよう。湖底の故郷には 仄かな夢が幻んごつ残ったが。

夕日に浮き彫りされた 湖底の故郷は多くの人たちの 為になって将来の夢の発展に寄与して 多くの人たちに喜ばれる 施設でありたいものでんある。山桜がこまじ来ると 残りは温見峠まじ後8キロ。自然の中じ愚痴も言わず 毎年じっと健気に咲いちくるる自然の動きに 感謝し大事にしたいもんでんある。

こまじのぼって着た山桜前線 霊山じゃもう葉桜に変貌し 緑の萌えるような新葉が 別の角度かる目を楽しませちくるる。自然を大事にしち 来年も楽しい気持ちになれる そげな思いじ見守ってあげて一もんじゃが。汚染があり害虫もままならぬ 厳しい現実の世の中 感謝する思いで大事に 守らんと いつか辛く苦勞する人間の 時代が押し寄せる そげな予感もしちよるじゃが。後悔先立たずた一なえあるき。





★★★ 宝の玉手箱 ★★★

今畑から通勤しちよる 一万田重彦村長さん 健脚で歩いち通勤
それもいつも 時間よりチョコット早めに入る。終戦後ん昭和21
年6月10日かる⇒22年4月7日まじ ゆうまゝち感心させらる
るが そんな頃はまゝ大分まじぐれは 歩いたしたちも多かつた頃。
世の中もまゝ落ち着かん 農家も人だが少のうじ 供出続きん食料
も ままならん頃でんあつた。

とにかく健康じ村ん立て直しが 先じゃち助役やら 収入役やら
議会んしやらと 英知を総動員した 村勢發揮に頑張つたもんでん
あつた。心配した進駐軍の摘発なんかも ねえごたつたき 平穩に
復旧が進んじ大分郡一広い 野津原ん穀倉地帯に 面目が戦時供出
ん苦勞も報いられたごたる。

も一人こんだ田の口かる 野津原小学校に歩いち来た 斎藤栄吉
先生もあつた。引き上げち教職員に 採用されたき開拓に 入っち
よたが田畑は家族に 自分は毎日スタコラと 歩いち通うこれも今
考えち見りゃ オオゴトジャツタろう。近道じゃつた当時ん 発電
所に水が落つる鉄管に 上る所員の管理道があつたが そくう通ら
せち貰う嬉しい話。こかゝ郵便屋さんも通りよつた。

なんさま毎日ん通学じ ゆうまゝち思うが 生活ん仕事ん為にゃ
平氣。後に中部小学校に転任 音楽ん作曲もしたき 地区んしが詞
を書いたのに 曲をつけち運動会ん時に 集団踊りに利用。『可愛
い仔馬』んモデルは 農家が可愛いがちよたぬ 見ち作詞した
そうな。こん踊りん時にゃ 真剣応援したそうな。

音楽ち言うとマンドリン奏者ん 三輪道明さんが作曲も有名じゃ
つた。素人のど自慢にも伴奏 青年団の歌大会でん 出番が多ゅう
じそん旋律は 素晴らしいもんじゃつた。

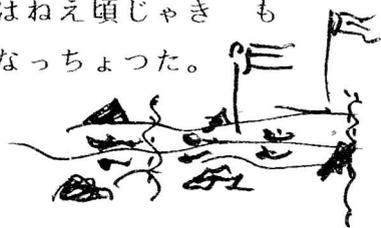
天才んごつあると勿体ねえごつ 若うしち惜しまれながらん
先立ち でんそん曲は永久に残っち 今でん愛唱もされよるごた
る。心に残る歌にゃ故郷ん 仄かな香りが情緒が 染められちよ
るき機会ごとに 回想もさるるんじゃろう。

子ども会の歌は子どもたちが 作詞しち大分放送合唱団の当時
指揮者じゃつた 杉田信男先生がつけてくれちよる。子ども会ん
野津原じゃ草分けじゃつたが 子どもが無邪気に 戦後ん復興に
役立てばと 総勢約100人が頑張ったきか 活動に財源が乏し
い時 末松禅勇議長に無心を言う 勇気があったんか決死ん覚悟
か 『なんとかなるまいか』 『わかった議会で計ろう』 そん
願いを受け入れち貰えた。

議員さんもじゃが 議長ん人となりか それとんポケットマネ
か 子ども会活動に拍車がかかち 発展したもんじゃき それ
に昭和27年5月5日に 大分県知事かる表彰された そん実績
に対するご褒美じゃつたんかん しれないち思う。昭和36年9
月16日かるん 議長現職ん頃ん話しじゃが。

そんちっと前になるけんど 町村対抗郡民大会に出るもんじ
野津原にも『村民体育協会』が 結成されちよる。昭和30年7
月18日んこと。初代会長にゃ高屋光三郎村長、副会長にゃ議会
かる 渡辺半平議員、森英利青年団長が選出されちよる。体育大
会は8月7日に開催されちよつた。懐かしい物語ん夢かな。

こん頃どま子どもん『水あび』ちゅうと もう川を使うんが多
かったが 中でん一の瀬川原ん 市場横どま浅瀬じゃつたき 適
当んばしょに川底う美しゅう 整備しち上下に 縄を張っちそん
中じ『子どもカツパ』が 大にぎわいの毎日じゅつた。親が交替
じ番はするけんど 大けな女ん子ども 水着はねえ頃じゃき も
う長袖んシャツ着ち 颯爽と泳ぐのん 絵になちよつた。



△ 蛇紋岩☐じゃもんがん △

造岩鉱物ん一つになっちよる マグネシウムを含む 合水けい酸塩。かんらん石なんかから 変質したもんが多い 暗緑塊状じ滑感があっち 蛇んごたる紋状が 見らるるんが多い。こころじゃ『竹葉石☐ささ石』『まだら石』 なんかとも呼ぶ。装飾ん石材としち利用され こん頃じゃ耐熱材 燐酸肥料ん原料にも。

七瀬川流域じゃ ゆう原石も見られよったが ひと頃んブームじ持ち出されたり 水害なんかじ壊れた 場所かるん流出なんかもあっち コンメー石なんかは 時折川原でん目につく。大けな細工した原石が 時折見かけと 懐かしい昔ん面影が 眺められるとつい 話も弾んでしまう 故郷ん貴重品でんある。

◎ 砂礫岩☐されきがん ◎

砂と礫ん混合した 堆積物じ大けな川ん 中流部や河原や山地に近え 海岸なんかでん 見らるる。川ん流路ん変わった場所 地盤の隆起なんかじ おおもとかるあった 堆積しちよつた砂礫が 地層になったものよう。『さざれ石』とん 言われよった石。塚野谷かる吉熊谷ん そげな間が大昔ん 隆起じ出て来た そげん歴史があっち こん周辺じゃ ここだけにしかねえ 岩や石 礫を含んだ岩が多いち言う。

水ん美しいこげな 場所ん谷底に磨けち 流れに仄かに見ゆる砂礫岩 昔物語が出ちくるような 場面が浮かび上がるよう。地球ん謎は多種多様じゃろうが 故郷にこげな夢が そっと隠されちよるんも 里人にゃ幸せなこと。そげな場所じ 心豊かに過ごすんも めぐり合わせん宿命人生 かん知れん。慣れちしまうと感謝も 薄らぐが 大事にして一歴史文化でんあろう。そん塚野にゃ鉱泉が 吉熊谷にゃ小鮎がスイスイ。

今じゃもうあんまり 人目につかん場所になったが 小岩戸と下詰にゃ古い 石ん積みあけた見事な 石橋が残ってちよる。人の目にもう触れんごつなっち 久しいけんど両方とも 大事な路ん影じシャント 役目を果たしよる 健気なツワモノでんあろう。

小岩戸橋は矢の原と 原村ん境にあるが 今も国道442号が上を通る現役。じゃが北側にバイパスん 新設じ忘れ去られよる運命。小脇ん庵の前かる 覗くと今も当時ん 雄姿がシャント 歴史ん跡うよとどめちよる。明治時代ん熊本に 抜けた道路が出来た時に 苦労重ねたじゃろう 石の積み上げた姿。

おまけに岩盤が何万年も前ん 阿蘇噴火ん溶岩が流れち来た そん異物が固まったち言う 岩盤の上にチョコント 架けられちよるもんじゃき ビクトンセン。一頃は馬車も全盛期 そしち今度ゃトラック はては熊本県道、国道442号線と 移り変わる中じ今もそっと 影の縁の下ん力持ち。

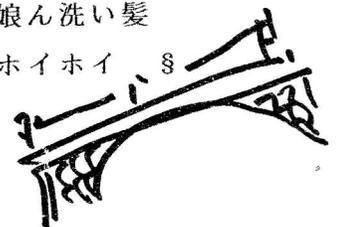
もひとつが下詰にあるが こっちはチット短いが こころじこげな美しい橋ち 見物が多かつたらしい。そん頃ゃユウデン木の欄干がチータ木橋。それが切り石じ .アーチんごつなっちよるき 見て一んが人情。弁当もっち見物に 来たしもおつたらしい。今もしゃんと座っち 何か話して一じゃろうに 人ん訪れももうのうなった。いっぺん馬子ん五助さんどま 雨宿りしたち言うき 今日そんお礼に 馬子歌ひとつ唄うらしいで。

§ 河内 川久保稲刈りすんじ ヒナタぼつこん針仕事

ハ 七瀬んせせらぎ 炭やく煙り ホイホイホイ §

§ 行かざるまい 待たせた夜の 可愛いあん娘ん洗い髪

ハ 七瀬んせせらぎ 粉雪がチラホラ ホイホイホイ §



- 73 P ごたる…ようです。シャント…しっかりと。するんもいい…ごく自然に。じゃえーと…ではやっと。でーぶ…だいぶ。へんまじ…ここまで。どま…もう。あげー…あんなに。センショ…よくぼり。寄せらるるんか…寄せられますか。なかめーか…なかまに。もんじゃき…ものですから。しちゃやれんか…してあげられないか。サカシュウシチ…元気でいてね。
- 74 P じっとしちよれん…落ち着いていられない。じゃがやっばこげな…ですかやはりこんな。じゃもう…ではすでに。
- 75 P チョコット…少し。まじぐれは…までならば。ねえごたったき…なかったようなので。オオゴツジャツタラ…大変だったら。こかあ…ここは。郵便屋さん…郵便配達の人。なんさま…なにぶんにも。かっちょつた…かっていた。
- 76 P なんとかまじか…なんとかかなりそうで。そんちっと…その少し。水あび…水浴。
- 77 P こくらじゃ…このあたりは。
- 78 P シャント…しっかりと。抜けた…貫通した。チョコット…ほんの少し。ビクトモセン…驚きもしない。ユーデン…よくても。話してーじゃろうに…話したいでしょうに。ヒナタ…陽あたりのよい場所。

★★★ 宝の玉手箱 ★★★

昭和19年《1944》頃は 戦争も末期状態じゃった。どうせ負くるんなら内地に引き付けち いっさんに全滅さする。そけな作戦でんあったんか いつこうに止めんもんじゃき そんな春にゃ卒業した生徒は 予科連入隊やら 飛行兵志願なんかも多かった。そりーならんでん山じ 『炭焼き奉仕』当たり前じゃった。

高等ん生徒やら女子青年団の したちゃ松根油を取るき 山か
る掘り取ったぬ担いじ 竹の内ん工場に運んじ来る。大けな釜じ
蒸し蒸留した油を 飛行機ん燃料に使うこちなる。大けな松にゃ
幹に溝をつけち 垂れでた松ヤニも集むる。服にベタベタつくき
嫌じゃが そげんことどま言うと 非国民ち言わるる。

米は供出に出しち一粒もねえ 米がなかりゃ麦でん トイモで
ん皆集められち 出さにゃならん。藁コズミに隠しどますると
検査に來た役人な容赦もねえ オーコじつき刺し 手を入れち見
ろどちしたら 蜂が留まっちゃたんか 刺したもんじゃき怒る
それこそ泣き面に蜂じゃつた。

百姓ちゅてんもう食うもんな お粥 雑炊 だんご汁でんあり
ゃいいほうじ かぼちゃん弦、粉米んだんご カンランばかり
ん味噌汁。トイモ ジャガイモも 主食ん代わりう務めちよつた
き 時たま葬式があつてん 非常時じゃき『お膳は失礼します』
ち 張り紙しちりゃもう 『おトキはねえごたるな』 折角
本当は楽しみにしちよつたに グーと腹の虫が鳴きで一た。

酒は一升だけ特配があつたが これもそん家んしが使うだけ
とてん告別式んお参りん人にゃ 行き届かなかつたごたる。戦時
じゃきそれもそげな思想 訓練が徹底しちよつたき 当たり前じ
ゃつたきこそ 過ごせたんじゃろう。米ん供出にしてん どして
ん出せれんしゃもう 強権発動さえあつた時代。

今は減反がまかり通る時代じゃが あん頃苦勞した農家ん人た
ちん 苦惱はいつ癒されるんじゃろうか。瑞穂の国と昔かる精農
家は 大事にされた時代もあつたのに 一俵増産時代やら農家ん
歴史にゃ 厳しさ以上ん思い出が残る。手の顔の皺がそりゅう
物語っちおるけんど 宿命ち言ちゃそれまじじゃが。条件の悪い山
あいん冷てゑ水じ えーと作った米ん味 贅沢は敵ち言う標語も
あつたんじゃが……戦争ん惨めさが ふっと脳裏を掠めた。



甲斐肇…医は仁術なりの厳しい執念

竹田中学じゃ滝廉太郎の一年後輩同窓生じゃつたが 医術に対する思いは生まれ 育った家から受けた 執念がそげーさせたんかん。祖父ん時代に大飢饉じ せん救済に大量ん銀を 寄進した事じ 当時ん大名より『褒賞』を 受けたはずん 繊細奇特な人じゃった。

医療関わりも当時ん 一家じ22代目にあるとか。そげな血筋も早くかる躍動しちよつたんじゃろう。長崎勉学にゃ竹田かる 長崎にゃ歩いち途中は船。船ん中はゆっくり勉強が 出来るからち乗る時ゝいつも席が 決まっちよつたち言う。ほかんしたちも せん熱心さに心ん支援ぬ しちくれたんじゃろう。

明治34年《1901》24歳じ 無事卒業したが せん卒業証書番号がなんと 68号じゃき恐らく 当時日本誰一ん長崎医学科専門学校じ 修学した1期生か 2期生じゃつたんじゃろう。卒業後は父春益と今市じ 診療開始するが広い 地域かるん要望も多ゆうじ 大正初年に野津原ん 本通りん飯倉居宅を 借用しての診療がはじまっちよる。

じゃが利用ん人が多うなったに 即応するごつ古い時代ん 医療施設が長年使われた場所 現在ん医院の場所に移転。本格的な医療が始まるが 家庭養生かるいよいよになった せん時点じかかる人ん多さや 至便制にも格好な野津原じゃき 肇医師も外来診療んあたゝ往診に馬や自転車が 忙しい有様に勉学した頃ん イメージゃ大きい変貌でんあった。

坂道も難点じゃし緊急患者もある 昭和16年に『ルノー』購入裁きが 鮮やかち思いきや戦運急な時節じ 燃料ん補給が難しゅうなっち 又元ん位置にへモドクタ。旧来ん往診にゃ若えた言え 毎日となりゃ人間ですもんなえ。迎えに来るしやら カバン持ちやら 慌ただしい日が ゆうマァ頑張ったち思うが。

小柄ん笑顔が愛らしいが 医術に関しちゃ遅しいき 手を握られただけでんもう 治ったごたる気持ちにもなるとか。家伝の妙薬何かは国から特別ん お墨つきん許しもあったよう。昭和23年にえーと国民健康保険制度じ 患者も急増するもんじゃき 昭和27年に 次男に医師でんある嫁を迎え 二人体制による診療になった。

当時は女医は珍しい存在じ 見識ん高い医師より 若い女医さんの診察に憧れち 外来が多ゅうなったそう。じゃろう素人はあん独特な 医療ん匂いをかぐと なんがいっぺんにゆうなったごつ 思い当たるんもゆう解る。こん頃になりゃ野津原でん 他にも医療機関もあり 保険診療による知識の 健康増進はめざましゅう 改善されたけんど そん影じの功績は大きかった そん思いが広まった。

昭和40年に89歳を迎えた 肇医師はそん敏腕が 大きく絶賛されちよるが そげな証が昭和27年に 野津原今市ん有志が発起人になっち 東部小学校校庭に胸像『寿像としち』 賑やかに建立されちよる。時の総理大臣かるも 生存者叙勲『勲5等双光旭日章』も受賞したが 当然の功績者でんある。

治療には献身的じ 我が事んごつ心配しながら 覗き込む姿勢はまさに 医は仁術なりを 闊歩した生涯でんあったごたる。自然か大好きなようじ 山の世話は人に任せてん 余暇に見回っち『育っちくれちオオキニ』と 感謝しよったち 世話しよった渡辺定や那須量、森市策なんかは 人柄が忍ばるち言う。

3人とも又ゆう世話し 繊細な話し相手でんあった。立場が違うちよつてん 人間の子じあり人の親ならち 思いで話にゃ今も語りつがるる幸せ者。それは撒いた種でんあろうが。人は施しちよきゃ 報いは必ずあっち 帰っちも来るもんなえ。



NHK『放送通信員』の電波

昭和27年頃はまだ ラジオの全盛時代じゃった。『宙に舞った苗が程よい所に落ちて 野津原村では田植えが 始まりました 早く植えた田んぼでは 水も澄んで蛙が 我が者顔に泳いでいます』

まだ一本一本手じ植える 広い田んぼじえーと 親取りち言う綱を引っ張っち それにゃ赤い印がツイチョルき そきー植えつけしち 5本目ごとに先に植えつけちよく。その間に植え手が 植えながら後ろに下がっち 終わるとまた始めん所い 来ちゃ植え下がりする。

こげな情報を送ると 火曜日ん『ひるのいこい』ん 時間に県内5人の通信員の 各地ん話題が放送されよった。農家にゃこげな身近い情報じ 新聞、県の農業改良普及所員の広報情報、何かが仲間意識によっち 競争じ話題を集めちゃ 昼間よこいどま ゴロリ横になっち ラジオを聞いたもん。 Hammondオルガンの音バックに。

何年かにいっぺん 全国放送もあっち 当時草分けじゃった福宗ん ハウス園芸ん『マクワ』が 電波にのっち大分かる 収録したのと一緒に スタジオかる前もっち 録音しち構成したぬ 早朝ん中継番組に取り上げち 取り組みよった人たちとん 録音にゃ一日がかりじゃった。

『おいさんもやろうえ』 高齢者が若いものに勧められた そんいきさつを方言交じりに 説明する顔色は緊張 『仕事つするよりゃヒツカッタ』ち 電波に乗った自分の声に 『まんだらでんねえのや』 ここまじ来りゃもう 鬼ん首とったごたる。言い思いでになつたに 相違はねえごたる。

村かる鹿兒島に嫁いだシカル 『放送聞いち懐かしかった』ち 電話の向こうん声にゃ 感激したごたる思い出も残る。

取材に行くとき『まゝ上がっち話そうえ』 農家人たち純朴さは 戦後なんか感じさせんごつ 優しい気持ちじ頑張るのに ちっとでん明るい話題 珍しい話を書きまくっちゃ 送るもんじゃき 走り書きに係が慣れたち 褒められたんか苦言か迷うた。それでん30年間やり抜いた 振り返ってみりゃいい思いで。

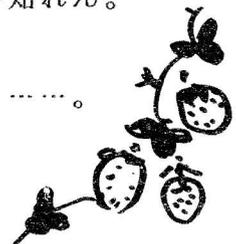
荷尾野ん祭りに行くち 連絡すると『臨時大祭』を しちくれた。あん頃ゝ農家は農業だけじ なんとか生活も安定じゃつた。インスタントコーヒーが 出始めた頃じゃき 世の中発展進歩したもんじゃが 古い懐かしい行事が 継承されよるんも いいち故郷んよさが滲みでる。

録音機を担いじ宇曾山に 歩いち上ったんも 遍路さんの後に ちいち歩くんも 電波は見えんじゃつたか ラジオ 聞いちおるとそん場面の 人ん動きが汲み取れそう。『こげんことがあるき来て』『はい おおきに』 バイクじ駆けつけたら 牛の仔が生まれよる。感激ん場面にも出会う。

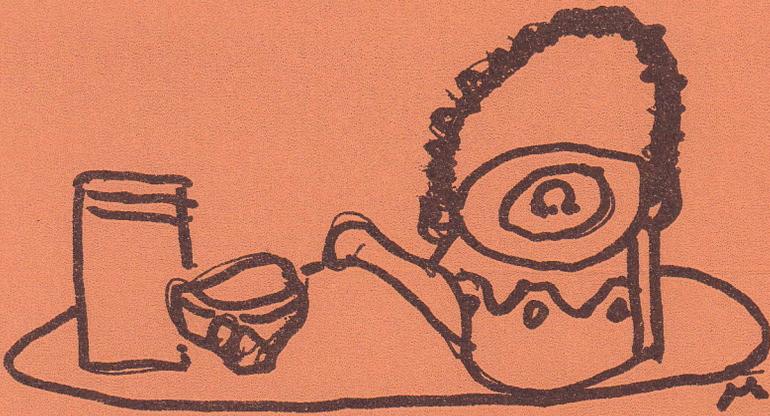
野津原じゃ初めてん 通信員じゃつたが やっぱ緊張ん連続じ 30年間の後は してがねえじ折角ん マスコミルートも 途切れちオシナギカッタが。30年間に約7000件の 話題の内に放送に乗るなゝ 1000件ぐれか知れんが 野津原の名前でん そりゃー大きいごたる。吉四六さんにゃ負くるが。

アンテナ張ったラジオ 真空管が弱ると聞きにきい 時折叩くと感度がゆうなる。うそんごたる本当ん話ん時代。懐かしいバック音楽に 乗せて放送する故郷ん話題は 哀愁があり心が通いあうような思い。今も好む人たちも多いが 利便性はあるきか そと囁きかけちくるる ラジオは前世紀ん 宝物かん知れん。

田植えよこいに泥落とし サナブリするかなゝ……………。



民族 復興



- 81P ほずん…ほどの。ちよつたんじゃろう…していたのでしょ
う。ほかんしたちも…他の人たちも。じゃが…ですが。ご
つ…ように。燃料補給が…戦時下でガソリンが手にはいら
ないので。マァ…本当に。
- 82P じゃろう…でしょう。
- 83P えーと…やっど。こげな…こんな。マクワ…メロン。かか
りじゃつた…はじめのほうだった。ヒズカッタ…大変で疲
れた。まんだらでんのうじ…大したことはなくて。
- 84P 臨時大祭…わざわざこのために開いた祭り。オシナギカッ
タ…勿体なかったけれど。サナブリ…農家が田植えの済ん
だ 休み入りの家庭の行事で サナボリとも言う。田植え
に使った苗を きれいに洗って 神棚に供え無事済んだ
報告と世話になった人たちや 家に餅などを配る。供えた
苗は盆の行事の 仏具の手入れに乾燥したその苗に 灰を
つけて磨いた。年寄りなどは『泥落とし』と言って 入湯
に湯の平などに出かけた。

役人が追われるサナボリ

田植え時期も水の流末ニャ 上の方が済んじ水が 多ウ流れてく
るモンジャキ 田植えも遅くなりよった。雨んすくねえ年どま 7
月になることもあった。済んだシタチガ加勢しち 済んだら役場に
泥んち一た苗を ブラサゲチ『田植えが済んだ』 報告するがそん
証拠ち 苗ん泥を職員に塗る そげな習慣もあっち 村長さんもそ
れじ『今年も米が出来る』ち 喜んじ受けよった。き職員もみんな
ずり受け こん日が済むまじ 落ち着かんじゃつたそう。戦後ま
で続いてちよつた。

特に矢の原地域が 水ん便利が悪かったき 毎年こげな風習があっち こん作りよったしたちも 矢の原、岡倉、んしたちが多かった。村役場も矢の原にあったき 村長さんも 遅れた家にか加勢にゆかせち 泥付けにも 気持ちゆう応じるごつ 粹なはからいを しようたごたる。

戦後まじ続いちよつたが 時代と共に自然と消えたごたる。水んねえ地区じゃいつも 水に苦勞する。井路んねえ雨と 出水だけじ造る田を『天水がかり』ち 言うがまさに おテントウ任せん綱渡りじゃつた。が雨ん多い年どま 丁度いい按配じ 豊作じゃつたそうな。

日年ん時どま『雨乞い』ち みんなづり集まच्च 生木を燃やしち 煙りが立ちのぼらせ 雨ん降るごお願をかけた。紫煙が立ち上च्च周りが真っ黒う なるごつなると ゆうしたもんじすぐ不思議と雷鳴がたち 稲妻が走ると やんがち大粒ん雨。原村ん白山権現様は有名じ 鶴山にぴかっとヒカルと 帰りよせんうちもう雨。

ツボンハナじ 遊びよった子どもん ままごと遊びん側え 光ったもんじゃき 早うおすゴザを 引き寄せたち思うたら わさぼう雨が飛びおれた。『早う座にあがらんか』 年寄りがありゃ 大声じオラプト はだしんばらじ飛び込む。おらん家じゃ壁なし ゴザ引きくうじ ガタガタ震えよる。

つーじ帰ったババサンガ 『マァふんとムゲネェ ハヨウ座にあがんなぁ すぐ蚊帳をつるき』 蚊帳をつっち中に入らせち 一安心したが 夕立雨か それとん 雨乞いん ご利益雨か どっちしてん農家にか 恵みん雨になった。子どもは無邪気なもんじ 蚊帳にはいったら 安心したんか もう寝むच्चよる。男っ子も女ん子も 抱きおうちな。



あげん日がこげな事も

戦地ん兵隊さんに 病気予防にち『センプリ』う 取っち集め送ったのも昔話になった。あん頃あ『ポンポングサ』ん 茎やら桑ん木の皮をへーじ 干しち集める。松の木にななめ溝を 切りうじ『松やに』う集めた。これもガソリンの代わりに そげ言や学校んツボや 『トイモ』『カボチャ』も 植えち 食料にしち戦争に勝つ はずじゃつたんじゃが。

でーぶん昔ん話じゃが 野津原あ肥後領じ 今市あ岡領じゃつた。んじゃき参勤交代なんかん 殿様ん泊まり宿が 今市にも野津原にもあったんと。岡領ん殿様道路は 挟間かる別府に出る道じゃつたが 肥後ん殿様は久住かる 今市は通るが野津原に下りち鶴崎に出よった。じゃき今市じゃ あっちこっちかるん道があっち おまけに天領地もあつたき いちべー通りが多かつたごたる。

幕末前にゃ全国測量じ 伊能忠敬が今市に入っち 今市野津原そしち大分に抜けちよる。そんあとじゃ 勝海舟が坂本竜馬と密命じ長崎に行く途中じ一泊 無事大任を果たしち帰路 一泊しちよるよう。九州を横断するにゃ 一番近え距離じゃき 通るしも多かつたごたる。

まっと昔ん話え じゃなあ大和武命が 南九州征伐ん後じ引きあげ途中じ 御座岳越えん途中じ 一泊しち夜明けん素晴らしい景観に 剣を世話になつたち 納めた逸話があるし 鷺が城にゃ戦国時代に 源義経をかこまう予定ん逸話も 語り草にちよるが そんくれ緑ん山並みと 美しい七瀬川んセセラギあ 魅力もあつたごたる。五助さんの馬子歌から……

§ 肥後か府内か 一ノ瀬渡りゃ お国訛が懐かしい ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ§。

大分市の歩み

- 明治44年《1911》 大分町に市政施行。
昭和 2年《1927》 大分市に上水道完成する。
14年《1939》 東大分村、滝尾村、八幡村合併。
16年《1941》 大分市政30周年式典。
38年《1963》 第二回合併促進協で新大分市発足を
3月10日に決める。
平成17年《2005》 野津原町、佐賀関町を合併大分市に。
23年《2011》 市政100周年記念。

平成24年時代のメモ

- ※ 第70代の 新横綱 日馬富士が誕生する。不知火型での
土俵入りは 同時期では初。

その横綱には 付き人…3⇒8人。月給⇒282万円。
化粧まわし…《3人分を》 ボーナス⇒564万円。

- ※ 当時の全国の100歳以上 5万人を越す。
大分県では……………588人。

- ※ 東日本の大地震と津波被害が 一年すぎたのにその 收拾は
まだまだ模索の状態で 放射能被害が不穏で 故郷で暮らせ
ない人たち。仮設住宅での厳寒の越冬で なお将来のめどは
まだまた。 未知数が続いて 生活全般が迷い状態。死体の
不明のままに 遺族の悲しみは続く。

夏の節電なども含めて 原子力発電の存続も 危ぶまれてい
るまま 被災者の復興は思い通りには なお時間がかかりそ
うに 果たしていつまでつづくのか。



★ 悲しい広島に原爆の洗礼 ★

あまりにも惨い戦火 広島に原子爆弾が落とされた。長びく戦争にもう疲れきっちゃつた そげな時に予告なしん 原爆投下は一瞬にしち大けな惨状。一気に敗戦に傾いた我が国。

人間な弱え動物 じゃき支えあい助けおうちこす 生き続けらるるもん。じゃが『欲う張る』ことかる 戦争になっちしもうた。人を羨やむ 無理に人ん物う欲しがる これが争いん始まり 戦争になっち行くんで。人間同志が話あや一なえ 解らんはだ一ねえに。……じゃが今反省しよりゃこす 平和じあるからこす。

広島に原爆が投下され《1945》 多くんしが死にました。戦争にゃ犠牲者がつきもん 憎らしい喧嘩なんで。ここん学校でん運動場にゃ トイモ、かぼちゃ、なんか植えちゃつた。食べ物不足したきで 高等科は農家ん加勢に 小学生は地区じ分散の授業。沖縄かるも疎開した 生徒も一緒にしよった。

そん頃ん男は全部兵役義務があっち 20歳になりゃ徴兵検査じ 甲種に合格すりゃもう名誉 軍人が戦争じ手柄立つるんはもう夢じ勲章にも繋がっちゃつた。そげな教育受けよった。女子は留守を守るんが国ん為じゃつた。じゃが戦争するんは悪かったき なるたけ皆んなが話し合う 国同志ん決まりじゃつた。

兵隊に行く時ゃ水杯じ見送る 手紙は無料じゃが秘密に関わるな 黒く消されちよつた。上官の命令は厳守 違反の罰則は厳しいもんじゃつた。これが軍隊じあり統制社会ん見本じ 平和がどんくれ有難いか解るじゃろう。それでん欲が入ると 曲げた考えになっち思わぬ争いが 戦争ん火種になっち行く。

じゃき平和を守りお互いが 話し合う能力を出しあわんと 心曲ぐると結果はとっぺんねえこちなる。

戦争になると物の取り合い 人ん殺しあい無理な考えゅ 押し
つくるこちにもなる。物がほしいばかりに仕掛くる 生活レベ
ルが高うなるとそれが 尚更多うなっちくる。人ん殺しあい そ
りゅせんと殺さるる これが戦争でんある。そげな場面におうち
『今なスラど』は 聞きゃせんきなあ。

人間の欲が弱いもんぬ犠牲にする これが戦争ん本心。世界ん
どこかじ今もありよるし 殺されよるしも 根元をホジクルと
人間の欲が出ちくるもんで。激しい時にゃ戦死したしも 置いた
ままに前進するんで そんな辛さ痛ましき。もっと命を大切にせん
となえ 代えはなかなかねえんで。命は一つじゃきな。

昔は皆んなが助けおうち生きちよつた。地球も自然もほかん
生き物と平等に保たれち じゃき貧しくてん元気じ 楽しゅう過
す事もできた。じゃにこん頃は どげーな人間が優先しち ほかん
物まじ 犠牲にするバランスは壊れる。生き残る為にゃどこか
じ 無理っしよるき弱いもんな いつも脅えち生きちよる。悲し
い事じゃがそげなしゃ 強い力じ強引にねじ曲げよる。

じゃがいつかきっとそんな裏戻しが 自分の首ゅ絞めるこちなる
めえか。そんな時なあってん遅いち思うが お互いが生き物じ 生き
る権利があるんじゃきなえ。皆んなが能力発揮せんとなあ。

今は幸せに過ごせる日々じゃが こん気持ちを相手を大事にす
る 優しい気配りをすりゃ 皆んなが楽しく有意義に過ごせる。
ちった物がのうでん 分けあい譲りあう事じ 楽しい人生が自然
とともに 過ごせるなんか素晴らしいち 思うがどうかなあ。い
いじゃろうなえ そんな笑顔が大好きじゃきな。

原爆はじめ多くの犠牲者ん冥福をいのり 幸せに元気に暮らせ
る地球に 故郷にしようじゃありませんか。お元気じな。



力 言 學 語



ね ネリタガリヤ…寝たいようなら、練りたいのなら、練らせて。
ネリスグンナ……練りが多いと、練りすぎはかえって逆に。
ネリソコノーチ…練るのに失敗して、眠れないので夜更かし。
ネリツケ…練りながら塗装、眠たい時は指定席で、練って付。
ネリアゲ……練り上がりになった、練りも上手な仕上がりに。
ネルナ…眠らないように、練ると失敗するので中止、留守居。
ネルソベ…寝ている側に、練っている側で、練る邪魔になる。
ネルンジャワ…練るのですが、練るのに手間どる、昼寝する。
ネルトキャ……練るときは、眠る時は、寝るのはよいが奥で。
ネルデ……寝ますよ少し、寝てもよいですか、練ってもよい。

ネリヤイイ……眠ればゆっくりなる、練れば仕事に役立つ。
ネルノ……眠りますか、寝ともよいですか、練ってみます。
ネレタカ……練れましたか、眠れましたか、仮眠も大きな役。
ネレチョラン……練れていないようで、練ったと言うけれど。
ネレンモン…練れないので困る、眠れないので困る、不眠に。
ネレニヤ……眠れないのなら、練れないようにあれば。
ネレネレ……練り練りすれば上手になる、寝れと言っても。
ネレチャ……寝なさいと言われても、練れと言われても。
ネレチュウテン……練れと急に言われても、咄嗟には難しい。
ネレチョル……練れていますので、練れたならば使えるから。

ネロタナ……狙った獲物は、狙えば取らないと、収穫が先決。
ネロージョル…睨み付けている獲物、目を放すと逃げるから。
ネロウジョチ……狙い定めて、見逃さないように、的外すな。
ネロテン……狙っても逃げられる、相手も命がけだから。
ネロジニラム……睨み比べの敵味方、見逃しは負けになる。
ネンシャン……念入りな性格、物事に正確無比な、精励潔白。
ネンキャ…年限がある決まり期間、約束の年限、年季は大事。
ネンジュ……いつもかつも、常日ごろから、変わらぬ好誼の。
ネンシャ…念入りな仕事の主、几帳面な性格の人、正確無比。

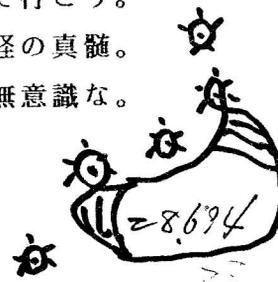
ね ネンネコ……子もりようの半纏、子もりようの綿入り半纏。
ネンカラネンジュ……一年中いつでも、いつもかつも休みなく。
ネワリヤセン……値引きはないので、安くはしませんので。
ネワキメンデン……値段は決めなくても、その時のお礼で。
ネワイインデ……値段は結構よいけれど、品物は信頼できる。
ネワショウジキ……値段は正直で価値がある、商札通りの品。
ネワキャ……寝てすぐの頃は、寝てまもない時には、寝てすぐ。
ネンジュオムーチョル……いつも思っている仲だ、相思相愛。
ネンシャトクスル……念入りの品物には素晴らしい値段もつく。
ネンギョウジ……一年間の行事の世話役、大きな行事の仲介者。

ネンネコガニアウ……子守り半纏がよく似合う、馬子にも衣装。
ネンキガイッチョル……年期が入った製品は違う、価値観が。
ネンカルネンジュ……いつもかつも、常日ころからの、常備品。

『あ』項⇒『ぬ』項⇒ここまで 28665語になります。

の ノーカゴヨミ……農家が使う旧暦入りの暦、農事があって至便。
ノーヨコイ……農家の季節に区切る休み習慣、農家の暇季節。
ノージナナクセ……無くても人間には癖があるもの、それも可。
ノーテンアッテン……無くてもあっても旨く利用、使い勝手が。
ノーシロ……苗代の場面、稲づくりの初段、いよいよ多様に。
ノーナッタンナ……なくなったので、逝去したようで、紛失。
ノーナンナ……無くならないように、なくしては困るから。
ノータ……ない合わせる、寄りを入れてない合わせる。
ノーナロウドチ……なくなるような雰囲気、逝去の気配もあって。
ノウナラケーチ……なくしてしまって、紛失したようで、

ノーヤラノヤラ……まゝあわてなさんな、呑気に構えて行こう。
ノーマクサーマンザ……般若心経の一説、解き示す経の真髓。
ノーノコ……灰かに暖かな、心まではのぼのと。無意識な。



の ノアギユウ…野良仕事の後始末、野良で揃えて帰宅して選別。
ノアラセ…野が荒れてしまった、休耕した田んぼや畑。
ノイタ…のけて片づく、移動させて整理が、いなくなった。
ノイキ…野に行くときの作業着物、ふだん着、農作業に使う。
ノイチ…のけてください、移動させて、別の場所に動かして。
ノイチミリヤ…のけてみれば、移動させたら、ほかに動かす。
ノイチョケ…代わってみれば、そこをあけてください。
ノイタソベ…のいたと思ったら側に、移動したらすく横に。
ノイテンイイ…移動してもよいから、席を代わりましょう。
ノイタゴタル…移動したようで、席が代わったので、交替。

ノイチャラン…移動しませんから、席は代わらないから。
ノウナルゴタル…無くなるようですから、失いそうなので。
ノウタナワ…ない合わせた縄、寄りをいれた縄、手作り縄。
ノウタ…ないあげた縄、素人つくりの縄、ない合わせて。
ノウナッチ…無くなってしまった、失って惜しいけれど。
ノウジ…無くなって惜しい、ないので別の物で、代わり用意。
ノウミス…脳に入っている肉体、大切な臓器、脳細胞。
ノウタラン…脳の意識程度が、細胞の能力が、知能がどうか。
ノウナラケーチ…なくならかして、失ってしまっ、紛失。
ノウデンシラン…無くても知らないから、感知しないよ。

ノウナロウト…無くても知らない、知らない問題で。
ノウナッテン…無くても、失ったのでも、全く無知。
ノウテン…脳の上部の状態、頭の上の部分、頭の大切な場所。
ノウデン…無くても差し支えない、ないでも結構ですよ。
ノウナリヤ…無くなればなんとか、なければそれなりに。
ノウナル…なくなってしまった、なくともよいから、それも。
ノウチョキヤ…ない合わせておけば、使えさえすれば結構。
ノウカリヤ…ないのなら、無くてもなんとか工面するから。
ノウナッタ…無くなってしまった、なくなったがなんとか。

の ノエ…そうでしょう、そうだったなあ、そう思うではしょう。
ノオテン…頭の大切な部署、頭の上部周辺、細胞の精密部署。
ノオナリヤ…無くなれば、失ったのなら別に、無ければ追加。
ノウナラケーチ…無くならして惜しい、紛失して不便だが。
ノカンカ…移動してください、そこを動いて、席をかわって。
ノガスナヤ…逃がさないように、機会を失わないように。
ノカシイ…移動させて、動かして邪魔になる、他所に動かす。
ノガソウドチ…逃がしてやりたいので、逃がせば生きるだろ。
ノカセン…移動させない、動かしたいが断われ、変更無理。
ノガシタモンナ…逃がしたものは、せっかく生け捕ったのに。
ノカセニヤ…移動させないと不便、動かして困るので。
ノガシチシモッタ…逃がしてしまった、残念だがまたの機会。

ノガサンゴツ…逃がさないように、にがすと捕まらぬから。
ノガソウト…逃がそうと又捕まえる、逃げて捕まえるから。
ノカンコチニヤ…移動しないのでは、動かないと困るので。
ノガヤモヤキタツ…野の茅も使いようでは、利用価値有効に。
ノキーウト…急にいわれると、突然言われては、早めに。
ノキノキ…のけなささいと再三言うのに、何度言うも駄目。
ノキンハタ…すぐのそばから、言うたそばからもう、急きよ。
ノキュウチオムウチ…除けようと思っていたのに、除け遅れ。
ノキニ…急に言われて慌てる、咄嗟に言われて困惑する。
ノキナリヤコス…急なりゃこそ咄嗟に判断して対応、急判断。

ノキバナ…軒の端、軒の先端に露の玉が、軒端に雀の巣。
ノキイワレテン…急に言われても判断に窮する、急な質問攻め。
ノキノ…急な出来事に、慌てては取り返しがつかない。
ノキューナ…急に言わない事、急では判断に苦しむ。
ノキュウカ…除けましょうか、邪魔になるようで除ける。
ノキバノ…軒の端の補修に、軒端の雀の巣はそっとして。
ノキチュウニ…除けなさいと言うのに、除けないと邪魔に。

の ノキーチョケ…残しておいてね、残してください、残りよい。
ノグチョケ…ぬぐっておいて、拭いておくこと、後を綺麗に。
ノクグレナラ…のくのなら、護るのであれば、移動するなら。
ノクケン…のきますから、移動しますので、席が代わります。
ノグス…野原で排便する、お行儀が悪いが、後始末を。
ノクナイイガ…のくのはよいけれど、移動してもよいが。
ノクチワカリヤ…代わるとわかれば、移動するのなら。
ノクカンシレン…移動するかも知れない、代わるかもね。
ノクトキャ…移動する時は、代わる場合は、他所に移る時は。
ノクマジイイ…移動するまではようから、代わるまではよい。

ノク…鋸を出して、鋸を貸して、鋸を見たいのだが。
ノクシモ…移動する人も、代わる人たちも、他所に移転する。
ノケチシモッタ…移動してしまった、取り除いてしまう。
ノケレタカ…移動できたの、代わる事ができた、取り除いた。
ノケノケ…のきなさいよ、のいてください、移動してね。
ノケチョケ…取り除いて、移動させて、移転させて、除外を。
ノケモン…疎外した、別個に考える、差別になるが。
ノケルリヤ…除外できたら、取り除けば、別個にすれば。
ノケタガル…取り除けば、邪魔になるので、すっきりしたい。
ノケラレン…除けられないので、動かせないから、移動無理。

ノケタンナラ…取り除いたのなら、移動したのなら、正解。
ノケサスル…除けてもらう、除けてください、取り払いを。
ノケリュウ…除けられるのでは、移動はできません、整理整頓。
ノケチョケ…除けておけば、取り除きなさい、邪魔が取れた。
ノケリュウトン…のけられますよ、除けるのは可能で、
ノケメー…除けない出商、除けられないので、仕方なしか。
ノケタナ…のけたのは、取り除いたものは、それでよし。
ノケンゴツ…除けないように、動かさないように、限定で。
ノケチコス…除けてよかったよう、すっきりできた、整頓が。

の ノゴチョケ……拭きなさい、排便後の尻ふき、後は綺麗に。
ノコリン……残りの、残っているものの、仕事が途中で休み。
ノコッチョル……残っている分も、残したものは早く始末を。
ノコレタンナ……残す事が出来て、残り物には福がある。
ノコシチョケ……残しなさい、必要な人がいるから、予備も。
ノコツチョケ……残って待っている、残されて待つ、罰に残る。
ノコスンカ……残していいの、残せば思わぬ事も、残りに福も。
ノコランゴツ……残らないように、残ると傷むので、早目処理。
ノコクズおかくず、鋸ひきで出る木屑、鋸をオカと言う事か
その屑だから オカクズと言うようになったよう。。

ノコーカ……移動しましょうか、席を代わります、場所を移動。
ノコノコ……ゆっくり移動する、単調ながら動きに愛敬が。
ノコルンナラ……残るのなら、残されたか、のこる理由が。
ノコシチョケ……残しなさい、のこしておいては、残さねば。
ノコッタント……残りました様で、残ってよかった、予備に。
ノサレタ……追い抜かれた、追い越された、後から先になった。
ノサバッチ……威張り散らして、ふてふてしい態度、威嚇か。
ノサル……巡り会わせた宿命、そんな運命に、人間のさざめ。
ノサッタ……思わぬ巡り合わせ、宿命とも言える、努力して。
ノサンナ……巡り合わせは努力で払拭、好転に頑張ろう。

ノサッチョル……巡り会わせたので、宿命は善意に解決して。
ノサリュウ……追い越されて、追い越したので挽回を。
ノサノサ……大きな態度で悠然と、慌てない心理が解決に。
ノサリゴト……巡り合わせは善意に解決、しよしよは流行ない。
ノシルフム……苗代を準備する、苗代起こしを進める。
ノシカカッチ……おおいかぶさって、横暴に襲いかかって。
ノシノシ……構えた姿勢で悠然と、対当する気構えを。
ノシロノノコ……苗代頃に冷えこみ厚手の着物を、風邪に用心。
ノシュウ……祝儀や不祝儀の印、祝い物につける印入り用紙。



の ノシラモウヤ……苗代はもうはじめるの、苗代準備ですか。
ノジィタカ…除いてみたら、覗いて見たりは、見るのは失礼。
ノジチミヨ…覗いて見てきて、除いて計算、心配だから見て。
ノズコサグ……喉に抵抗があるような、喉の滑りが悪くて。
ノズカンシレン……除かないようです、覗かないがよい。
ノズホル…喉がいらいらして、喉の通りが悪くて、喉の傷み。
ノスルド…乗せますから、乗せてゆきましよう、乗られる。
ノス…追い抜く、追い抜いたので、追いかけて抜かれ。
ノズミシ……野に残りを積み上げて、野に暫く貯蔵して。
ノズミュ……野に積み上げて越冬、野に囲って保存する。

ノズナゼチ……喉を撫ぜるように通る、喉を歌って通るよう。
ノセテンイイ…乗せられるので、乗せてもよい、乗られる。
ノセナー……乗せてください、乗せてもらえないかな。
ノセ…追い抜く、追っかけて抜かれた、追い詰め追い抜いた。
ノセチャル…乗せてあげます、乗せられるので、乗られる。
ノセラルル……乗られるので、乗せてあげましよう。
ノセチョケ…乗せてあげたら、乗せてもよから、乗られる。
ノセンカ…乗せてくれませんか、乗られませんか、乗っても。
ノセラレチ……乗せてもらったので、乗せてくれたので。
ノセリュナラ…乗せられるのかも、話に入れられ。調子に。

ノセチャル…乗せてあげようか、話に加えられ、調子に乗せ。
ノゼンチン…野原で排便する、お行儀悪いが、後始末をよく。
ノゾキャ…除いておく、覗くと意外な物を、意外な発見を。
ノゾイチョケ……除けておけば、外しておいて、取り去る。
ノゾクンカ…覗くのですか、見てもよいのですか、意外な物。
ノソット……静かに入ってくる、物音なく入ってきた。
ノソリヤ…黙って入るは失礼、予告なしは、知らない物事に。
ノゾクナ…覗かないがよい、見ては失礼な、極秘もあるもの。
ノゾイタリヤ…悪趣味は慎む、見てはいけない、覗き見違法。

の ノタレ…疲れはてて、行き倒れになって、疲労衰弱のままに。
ノタキ……外での炊事や食事準備、野外での火葬、見送り灯。
ノタレジニ…疲れ果てて衰弱のまま死亡、行く当てない死者。
ノタウチ………瀕死に動き苦しみ、苦しみにあえぎ動き回る。
ノタグレ…野たれ死にそんな状態、住所も食べ物もない瀕死。
ノダシャハエー……野に出すには早い苗、本植えは少し早い。
ノタリ……ゆっくり落ちていた動き、やっと歩くような動き。
ノタレシノウト…行き先不明瀕死な餓死になっても、宿命かも。
ノタレン……哀れな終わりの人生でも、瀕死餓死でも本人は。
ノタモウチ………おっしゃりはいいが、理屈とかけ離れては。

ノダシンコエ……外に積み上げた堆肥の山、堆肥も寝かせて。
ノタドゲナロウト………後はどうなろうと、後の事までは。
ノチカタ……後でまたゆっくりと、後ほどくらしくはお話を。
ノチンカキ………後のまにはあいそうです、後で役立ちそう。
ノチニャ……いずれはよかったと、案外後で効果がありそう。
ノチ………後で。いずれまたの機会に、やがては役立つと。
ノチノマ………後で役立つ事が多くて、記録して又有効に。
ノチマジ………あとあとまでも、記録は資料は役立つもので。
ノチンコツ………あとあとのことで、おとに取り出せば効果。
ノチノチン………後々の、先になって、いずれは何かの為に。

ノチカカ……後妻として、後で入ったお母さん、継母が入る。
ノッチキタ………調子に乗せられても、話にうまくあって。
ノツク………覗いてみるとあらあら、除外しては可愛いそう。
ノッカカル……乗りかかって、当てにして甘えて、依頼する。
ノツチョリャ……乗っていれば、乗せられても悪くもないが。
ノツソノツソ………ゆっくりと大股で、泰然とした動きで。
ノッタキヤメンド…乗せられたので止めない、乗った以上は。
ノツピキネエ…予想意外な用事で、急に用向きが、外されず。
ノツウトーチ……喉を歌って通るような快感、美味しさ満喫。

宇曾山街道物語も 8回目でこの項も終わり 馬子の五助さんと 里の娘が繰り広げた 崇高な子どもの 虫封じに靈験ありの 馴染み深い 660Mの山頂からの 眺望はまさに靈界に 等しい 仄かな人間世界とは 異なる場所として 長い歴史が続いていることも 初めてのご愛読者も 多いのでは。

方言が混じると素朴な 里の風情に人情がからみ 一度は訪れたい思いも湧いたのでは。このシリーズは 次回からは姿変えて 里に 水を引いた功労者の 工藤三助翁の足跡を 辿る予定ですので お楽しみください。昔の人たちの精魂傾けた そんな業績は影に隠れて いくつもあります。

方言単語もこの号までで 29186語になりました。『あ』の項『ア』からで この後に『の』の項が 続いて行きます。

方言子どもの世界、女性の底力、ふるさとの味、宝の玉手箱、なども 民話、伝承、や 『五助さんの あげなこげな話』なんかと 混ぜあわせ 旅ん人と おしゃべりしながら ふるさとの人情ゃ馬子唄も 入れ混ぜち 今日はどこまじ 明日はどこか 旅は道連れ 世は情けです。

季節が入れ替わり 昔と違う環境に 戸惑いますが 健康管理には 充分心くばりされまして お元気に心豊かな 有意義人生を 謳歌してくだされませ。今回もご愛読を 誠に有り難うございました。皆様のご支援 ご愛読まで 又次号も発行出来ます 事を 厚くお礼もうしあげます。ご自愛の程を。



伝言板

No. 29号の
ご案内

取り組んで約28年目 長い間の
皆様の ご支援ご愛読によって
今回も無事にお届けできました。

この秋の発行No. 29号には シリーズ街道の
物語には 野津原の高台まで 水を引いて田
に米が実る 歎喜の事業に若い頃から 執念
を燃やして 取り組んだ 工藤三助さんの
姿を浮き彫りにした あんな話 こんな苦勞
を 旅の道連れと 馬子の五助さんが 歩く
シリーズ5回の予定です。

方言子どもの世界には、語り部が読み聞かせを。女性の底力
には 影に隠れた苦勞人、頑張った女性の力 執念の奥義、
などを 浮き彫りに。故郷の味は 食べたい 作りたい あ
げたい 人の優しい気持ち 思いを 昔懐かしく並べます。
五助の夢話し………さてドケナ話になるじゃろうか。

宝の玉手箱…故郷でご苦勞したのに 陽に当たる機会もなく
そのまま消える、忘れられる、あまりにも とさがしては
遅くなっただが 皆様にご披露申します。ご苦勞が報いられる
でないと あまりにも惨め。それでは気の毒です。戦時下で
も 戦後でも 内容など構わずに みんなで知り その苦勞
を褒めてあげたいものです。

方言単語は さらに進んで行きます。現在29186語 さ
て最終的には00000語………皆様も推測してみてください
ませ。

皆様のご健勝と ご多幸をご祈念申しています。



野津原方言調査会

